

2020年7月25日

公益社団法人ユニバーサル志縁センター  
2019年度事業報告

<はじめに>

2019年度は公益社団法人に移行した初年度で、3つの事業に重点を置いて活動を行ってまいりました。

1つ目は**首都圏若者サポートネットワーク**の活動です。2015年総会で子どもの貧困について議論を進めていくことが決定し、理事を中心に議論を進め、2016年度**社会的養護下にある子の自立を考える研究会**を実施しました。研究会の報告書に基づき、措置経験の有無にかかわらず、家族の後ろ盾もなく困難に直面する子ども・若者が自立するのに必要な支援の仕組みを構築するため「首都圏若者サポートネットワーク」を立ち上げ、2018年から補助金とは異なる支援者にとって使い勝手の良い助成制度を立ち上げるために「**若者おうえん基金**」を創設し、基金に集まった寄付金額に応じて支援者への助成事業を開始しました。今年度は助成事業に加え、三菱財団の助成を活用し自立援助ホームに入所した若者に対して就労体験の機会を提供する事業を実施しました。

2つ目は困難を抱えた子どもたちへのコンピューターサイエンス教育の機会を提供しました。**2020年から小学校においてプログラミング教育が必修化**され、プログラミング体験を通してプログラミング的思考を育み、また身近な問題発見・解決にコンピュータやソフトウェアの働きを活かし、よりよい社会を創っていくための能力を養成することが期待されていますが、現時点では子どもたちがプログラミングに接する機会は限定的であり、地理的、或いは、環境的な差異なく、プログラミング体験の機会を提供することが急務となっています。このような状況を踏まえ、プログラミング体験および、デジタルなものづくりを通じた問題発見・解決を目指すツールとして、世界的に人気のある「**Minecraft**」の教育版を活用し、全ての子どもたちがプログラミング教育や、デジタルなものづくりに触れる事のできる機会創出を行っていくことを考え、特に、“届き辛い”とされる子供たちに対しては、技術者と支援者とが連携したサポート体制を組むことで、作品づくりにチャレンジする環境創りを行いました。

3つ目はNPO、協同組合、労働組合、社会的企業など社会的経済セクターの協働です。人材研修、講演、イベント等をこども食堂運営者等子ども・若者団体に対して行うと共に、NPO等の活動支援については、NPO事業サポートセンターから継続して行っている会計士・税理士の専門家の皆様と連携し支援事業を行いました。政策提言に関しましては、杉戸市で開催している協働型災害訓練や世話団体として参加している東日本大震災支援全国ネットワークなどを通じて防災や復興支援活動に関与しました。

最後に、新型コロナウイルスの流行や緊急事態宣言の影響で、若者おうえん基金の助成先団体より、業務増加に伴うスタッフ人件費の増加、マスク・消毒液等物資の不足など、厳しい現況について報告を受けたことをきっかけに緊急助成事業に取り組みました。このような緊急対応が実施できたのも会員団体、理事団体の皆様との活動の連携の成果であり、この場を借りて御礼申し上げます。

## <当センターの事業内容>

当センターはNPO法人や社会福祉法人、労働組合、生協等の協同組合、社会的企業も含めた社会的経済セクターがゆるやかにつながることで、子ども・若者の自立支援、社会的経済セクターの協働、ユニバーサルなはたらく場づくり支援、大規模災害支援等によって、誰にとってもユニバーサルな地域社会づくりに寄与する5つの事業を行う。

### 1. 子ども・若者の自立支援事業

#### 1-1. 子ども・若者等の自立を支える支援の仕組みの構築

児童養護施設在籍児の高等学校卒業後の進学率は全高卒者の割合に比べ著しく低く、進学しても一般の学生に比べ中退率も高い。退所後は生活等で困難に直面した際には家族の後ろ盾もない。そのような子ども・若者が自立していくために学識経験者や支援団体の関係者等が参画する首都圏若者サポートネットワーク運営委員会(※1)を組織し、必要な支援の仕組みを構築する。そのために、以下の3つの活動を行った。

※1 首都圏若者サポートネットワーク運営委員会は、当団体が推進する首都圏若者サポートネットワークおうえん基金事業の諮問機関であり、当団体の内部組織。

#### 1-1-1. 首都圏若者サポートネットワーク 若者おうえん基金の運営

困難に直面する子ども・若者たちに伴走する支援者(退所児童等アフターケア事業、自立援助ホーム等のスタッフを想定)は行政からの補助金で主たる活動を行っており、使途の制約があるため子ども・若者の相談内容によっては補助金を活用できず自己資金やスタッフの自腹で対応する場合がある。そのため昨年度補助金とは異なる支援者にとって使い勝手の良い資金が継続的に集まる若者おうえん基金を創設し、公募を行い、基金に集まった寄付金額に応じて支援者への助成を行った。支援者による支援の対象者は、首都圏の支援者が伴走可能な、措置経験の有無に係らず支援が薄い若者(おおむね30歳未満/原則として大学進学をしている人を対象とせず、中退者は対象とし、支援の谷間にいる人を支援する)とする。支援者は支援対象者と相談して支援申請を決める。

#### ① 基金造成：基金造成のための活動と募金額について

【寄付金募集期間】2019年1月1日から12月31日まで

【基金造成のキャンペーン期間】2019年9月から12月まで

【記者発表会】2019年8月29日(木)16時~17時 厚生労働記者会会見場



【シンポジウム】2019年10月5日(土)13時30分～16時30分 田町交通ビル6階ホール  
来場者数：81人

プログラム

開会挨拶：■■■■ (首都圏若者サポートネットワーク副委員長) 来賓挨拶数名

来賓挨拶：■■■■ (生活クラブ生活協同組合・東京 理事長)

■■■■ (パルシステム生活協同組合連合会 代表理事・理事長)

■■■■ (生活協同組合コープみらい 副理事長)

基調講演：■■■■ (首都圏若者サポートネットワーク委員長)

報告①： 若者おうえん基金2018年度助成先団体 こもればいホーム

報告②： 若者おうえん基金2018年度助成先団体 NPO法人パノラマ

首都圏若者サポートネットワーク活動報告(若者おうえん基金助成)

首都圏若者サポートネットワーク活動報告(就労・キャリア支援)

パネルディスカッション

コーディネーター：■■■■ (元厚生労働事務次官)

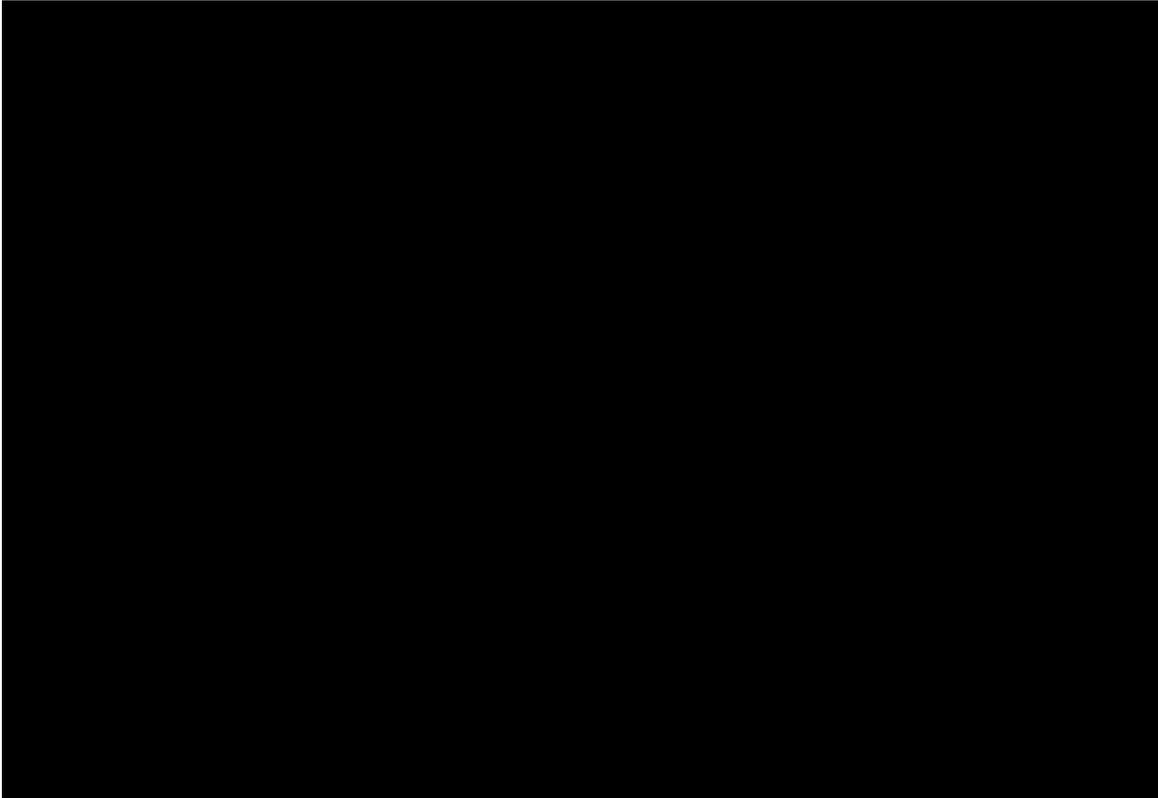
パネラー：■■■■ (生活クラブ連合会常務理事)

■■■■ (児童養護施設子供の家施設長)

■■■■ (NPO法人東京養育家庭の会理事)

■■■■ (一般社団法人くらしサポート・ウィズ理事長)

閉会挨拶：■■■■ (公益社団法人ユニバーサル志縁センター 代表理事)





## 【2019年に造成された若者おうえん基金の内訳】

募金先	金額
生活クラブ東京	6,731,000円
生活クラブかながわ	1,041,000円
生活クラブ埼玉	3,971,000円
生活クラブ東京単協寄付付きカレンダー寄付金	695,790円
生活クラブ神奈川単協デポーター寄付金	6,906円
パルシステム連合会	300,000円
コープみらい財団	200,000円
チャリティ自販機（生活クラブ）	135,831円
チャリティ自販機（伊藤園）	340,224円
6/22 活動報告会参加者様からのカンパ	9,805円
10/5 シンポジウム参加者様からのカンパ	85,557円
CAMPFIRE	3,198,000円
Syncable	405,800円
口座振込	1,459,588円
受取利息	73円
合計	18,580,574円

## ② 第2回若者おうえん基金助成先選考

【公募期間】2019年9月1日～11月30日

## 【選考委員】

■■■■■氏 中核地域生活支援センターがじゅまる  
 ■■■■■氏 生活クラブ連合会  
 ■■■■■氏 弁護士  
 ■■■■■氏 東京経営短期大学  
 ■■■■■氏 NPO法人ちばこどもおうえんだん

【応募件数】一般枠：4件、先駆的实践枠：6件

【第1次選考委員会】書類選考、日時：2019年12月12日17時～22時

【第2次選考委員会】面接選考、日時：2019年1月19日13時～18時

## 【選考方法】

選考委員が必要性（どういう支援に必要なのか）、緊急性（なぜ今のタイミングに必要なのか）、信頼性（支援計画が計画通り実施できるかどうか）、寄り添い度という4つの評価基準に基づき5点満点で評価し、その点数を踏まえて、選考委員の合議で候補を決定。

【理事会で決定】選考を経た後、運営委員会での承認後2020年2月3日、理事会で決定した。

第2回若者おうえん基金助成 採択団体

第2回若者おうえん基金 採択団体 決定金額一覧 計9,294,000円

## (一般枠)

NO.	採択団体名	申請内容	決定金額
1	NPO 法人日向ぼっこ	地方から上京してきた児童養護施設の卒園生に対する学習サポート、生活、進学面のサポート及び、進学後の精神面や経済面を含む生活全般における寄り添い。	¥1,500,000
2	一般社団法人Masterpiece	16歳で児童相談所に保護され、自立援助ホームを経て、現在シェアハウスに住む若者の卒業までの伴走支援。	¥1,190,000
3	一般社団法人若草プロジェクト	親からの経済的虐待等を理由に就学継続や進学をあきらめようとしている若者への伴走支援。1名は、来年度に就職を予定しているが、給与が少なく、生活に余裕がない状態になることが予想される。もう1名は、親からの虐待によるPTSDの治療中である。	¥800,000

## (先駆的实践枠)

1	フェアスタートサポート	社会的養護下に暮らす(暮らした)若者たちが自分らしく「はたらく」を実現し、社会で活躍することのできるよう、本人の意向や状況に即したオーダーメイドの伴走支援型就労支援を行うとともに、就労後のアフターフォローの充実を図る。	¥1,720,000
2	自立援助ホーム 樹の下ホーム	退所した若者が離職後、就職活動がうまく進まず、家賃も払えないほど窮地に立ったことを契機に生活が不安定になっていく中でステップハウスを利用した段階的な準備ができる環境を整えること計画。	¥1,900,000
3	こもればいホーム	(継続支援)メールや電話での卒園生への対応、個別訪問、家事、育児などの生活ノウハウの提供、夫からのDVで母子家庭となった卒園生の小学4年生の子供の預かりなど、当事者一人一人に寄り添った伴走支援を行いつつ、児童養護施設の旧職員をつなぐネットワークづくりなど継続的な運営に向けた活動を行う。	¥480,000
4	児童養護施設 聖ヨゼフホーム	卒園後、進学、就職した子供たちが、退学、離職等により生活が成り立たなくなった場合のリスタートや生活の立て直しの為の一時期の生活場所として、身近に職員がいる環境でアフターケア支援に当たれるような実家機能を用意する。	¥1,300,000
5	一般社団法人Masterpiece	(継続支援)金銭的に厳しい若者からの相談依頼に対して現地へ訪問し相談にのるボランティアを組織化し、当事者への伴走支援を行っている。ボランティアによるアウトリーチをベースとしたアフターケア体制の基盤整備。	¥404,000

¥9,294,000

## ③ 第2回若者おうえん基金助成二次公募実施

2019年支援総額の85%が15,497,163円であり、現在助成額が9,294,000円のため、2018年度の剰余金(1,089,463円)に6,203,163円を加えた7,292,626円を上限として二次公募を実施。公募については一般枠(上限150万円)のみ公募を実施。スケジュールは以下の通り。

【二次公募期間】 2020年3月1日から4月30日

【選考委員】

[ ] 中核地域生活支援センターがじゅまる  
 [ ] 生活クラブ連合会  
 [ ] 弁護士  
 [ ] 東京経営短期大学  
 [ ] 鶴ヶ島市社会福祉協議会

【応募件数】 一般枠：7件

【第1次選考委員会】 書類選考、日時：2020年5月23日13時～15時

【第2次選考委員会】 面接選考、日時：2020年6月14日13時～17時半、16日20時から21時

【選考方法】

選考委員が必要性（どういう支援に必要なのか）、緊急性（なぜ今のタイミングに必要なのか）、信頼性（支援計画が計画通り実施できるかどうか）、寄り添い度という4つの評価基準に基づき5点満点で評価し、その点数を踏まえて、選考委員の合議で候補を決定。

【理事会で決定】 選考を経た後、運営委員会での承認後2020年6月30日、理事会で決定した。

④ 第2回若者おうえん基金助成 採択団体

第2回若者おうえん基金二次公募 採択団体決定金額一覧 採択団体：6団体 計5,457,000円

NO.	助成先団体	申請内容	金額
1	DV対策センター	アスペルガー症候群で、集団での学習に困難のある高校生の伴走支援。コロナの影響でオンラインとなった授業を受けるためのパソコン購入と学習サポートを行う。	¥100,000
2	自立援助ホーム ヒューマンフェローシップ	発達障害や引きこもりなどで自立に困難がある若者に対し、再就職や就労継続に向けたサポートを行う。伴走者が寄り添い、生活面・メンタル面の継続的な支援を行う。	¥1,500,000
3	自立援助ホーム マラナ・タハウス	母親の虐待を受け、母親から子ども名義の不動産があり、それが他の住人に損害を与えたため、本人が不利益を被るといわれた高校生のサポート。弁護士の協力を得る。	¥360,000
4	侍学園スクオーラ	第三者のサポートが必要な若者にとって、高校進学や再入学に向けて、衣食住についての基礎を学ぶ機会や、コミュニケーションの実践の機会を強化していく。	¥1,485,000
5	神奈川子ども支援センター つなぐ	家庭内で過酷な性被害を受けた子どもに対し、学習費用や生活費の支援に加えて、ケースワーカーの派遣やセラピーの活用に取り組み、苦痛の軽減を目指す。	¥662,000
6	特定非営利活動法人 なんとかなる	施設等を退居した子どものアフターケア。カウンセラーの定期訪問により当事者の心理の安定や、自立支援に向けた生活費や食育の援助に取り組む。	¥1,350,000

⑤ 連合「ゆにふあん」クラウドファンディングの進捗報告

労働組合のナショナルセンター連合が「ゆにふあん推進計画」に基づき市民活動を応援するプラットフォームの中にクラウドファンディングを行う機能があり、その2例目の支援先として「若者おうえん基金」が選ばれた。

【広報】

2019年10月1日 ゆにふあんオープニングカフェ

2020年2月20日 連合中央執行委員会後にプレゼンテーション



【クラウドファンディング実施期間】2020年2月12日から5月12日



⑥ 連合「ゆにふあん」クラウドファンディングに基づく助成事業の実施

【研修枠の設置】

首都圏若者サポートネットワーク「若者おうえん基金」は、通常のカンパ等とは別に「ゆにふあん※2」と連携して実施しているクラウドファンディングの寄付金を財源とした「若者おうえん基金（研修枠）助成」を設置。

※2 ゆにふあんとは日本労働組合総連合会（連合）が中心となり、労働組合や地域のNGO・NPOによる「支え合い・助け合い」活動を紹介、サポートする取り組み。

【趣旨】

社会的養護の下に暮らす（暮らした）子どもたち等の多様な自立を応援するために、全国の都道府県に専門的な伴走者を擁し、利用者が安心して信頼できる持続的な支援体制を整備する一助となる事業を実施することを応援するために助成を実施。

【対象】

全国の社会的養護の下に暮らす（暮らした）おおむね30歳までの子ども・若者を支援する「伴走者」（既存の専門機関、児童養護施設、自立援助ホーム、里親家庭、アフターケア事業者、生活困窮者自立支援相談窓口、若者サポートステーションなど）ただし、応募に際しては、全国自立援助ホーム協議会、首都圏若者サポートネットワーク運営委員・オブザーバー所属団体の推薦を必要とする。

【助成内容】

専門的な伴走者を擁し、利用者が安心して信頼できる持続的な支援体制を整備する一助となる事業（上限30万円、例：集合研修開催支援、見学研修開催支援）

【募集期間】2020年3月10日（火）～4月30日（木）

【募第一次選考】2020年5月

【第二次選考】2020年6月

【助成金分配】2020年7月

⑦ 寄付金・助成金

【寄付金】パルシステム連合会 : 30万円

【寄付金】コープみらい財団 : 20万円

【助成金】市民ファンド推進プログラム 2019年助成事業 : 140万円

【助成金】リコー社会貢献クラブ・FreeWill : 30万円

⑧ チャリティ自販機

【生活クラブ】飯能デリバリーセンター：2019年10月より設置

【伊藤園】富士通エフ・オー・エム株式会社：2019年8月より設置

かどや製油株式会社：2019年12月より設置

パルシステム連合会 熊谷セットセンター：2020年3月より設置

1-1-2. 就労・キャリア支援

困難に直面した子ども・若者たちが安心して働ける環境を提供できる事業者を開拓し、それらの事業者と連携して、支援対象者にとって就労やキャリア向上につながるインターンシップ、アルバイト、中間就労、一般就労等の機会を用意する。具体的な活動としては、三菱財団助成を活用し、自立援助ホームに入所した若者に対して就労体験の機会を提供する。協力事業者の開拓・リストアップ、支援対象者と協力事業者のマッチング等を支援対象者の希望に応じて行う。

【期間】2019年4月～8月

【エリア】足立区、多摩地域

【目標】各エリア毎月1名程度を想定。

【プログラム実施内容】

時期	項目	内容
2018年7月	就労自立支援のニーズをヒアリング	全国自立援助ホーム協議会事務局長、ブリッジフォースマイル（B4S）事務局長へヒアリング。
8月	プログラムのたたき台の検討・作成 就労希望者を抱える施設との協議	足立区と多摩エリアの自立援助ホームジョブトレーナー（JT）との協議。 よいしごとステーションとの意見交換。
8月～ 9月	就労受入事業者への協力要請	就労受入先を生活協同組合や労働者協同組合等の協同組織に絞り、体験就労の受入について打診。
10月～ 11月	受入先開拓・見学等実施に向けた準備	受入協力をしてくれる団体への訪問、職場見学を実施。
12月～ 1月	プログラム実施（案）検討及び作成	体験就労のプログラムの受入、コーディネート、流れを確認
12月～2019 年3月	トライアル実施	就労希望の若者を受け入れてほしいという JT の要望を受け、2名の若者を4か所体験。 2名ともアルバイトとして就労した。
2019年2、3 月	トライアル実施の振り返り、プログラム修正	WGメンバー、JTで振り返りを行い、4月からの実施に向けて確認。
3月	受入団体への説明・学習会等開催	希望する受入団体へは学習会を開催。希望しない団体へは担当者へ説明の資料配布と案内をする。
4月～ 9月	プログラム実施 就労中、就労後の若者へのフォロー、 ヒアリング実施	希望者5名、体験5か所。 就労中の若者の状況について受入先、JT、コーディネーターとの MTG や面談など実施。 困難対応：2件
8,9,10月	体験就労者・受入事業者へのヒアリング	首都大学・小田川氏の協力の元、調査報告書作成に向けたスキームを検討し、報告書作成に向けて調査実施。
11月	受入事業者へのアンケート	
11,12月	ジョブトレーナーへのヒアリング	
2020年1月	プログラム実施内容についての振り返り・調査内容確認	

コーディネーターが仲介役となり三者連携で若者を応援する仕組み



【報告書制作】

タイトル：自立援助ホームの 若者の就労自立支援 スキーム構築のための 調査報告書  
～体験就労プログラムのモデル化を目指して～

研究代表者兼調査担当者： ██████████ 首都大学東京客員准教授



### 1-1-3. 調査研究・政策提言

助成先の事業者に対して研究者と共にヒアリング調査等を実施し、従来の補助金の適用範囲では支援することができないケースについて、阻害要因を明確化し、類型化やその対応策のデータベース化などを行ない、制度変更を伴うものについては政策提言を行う。

※首都圏若者サポートネットワーク運営委員会内に設置する「調査研究・政策提言ワーキンググループメンバー」を中心に調査研究・政策提言を実施。第1回若者おうえん基金助成採択団体へのヒアリング調査を調査研究・政策提言ワーキング主査の一橋大学教授■■■■氏が実施。

#### 【ヒアリング日程】

11月12日(火)	10:00～	マラナ・タ・ハウス
11月12日(火)	14:00～	若草寮
11月14日(木)	10:00～	NPO 法人パノラマ
11月14日(木)	14:00～	NPO 法人なんとかなる
11月18日(月)	10:00～	こもれびホーム
11月18日(月)	14:00～	NPO 法人夢舞台

### 1-2. 子どもの貧困対策に関する各種事業の推進（関連団体とのネットワークおよび情報交換、学習会への参加、研修会の開催等）

家庭間の経済格差が進み子どもの貧困が深刻化する中で2014年子どもの貧困対策法が施行され、子ども食堂、学習支援等が各地で急増したが、これらの事業者の運営基盤は脆弱である。そこで、各地の子どもの貧困支援の事業者(※3)と連携し、運営支援や地域支援の紹介等を行う。

※3 各地のこども食堂が活動しやすくなるように、情報を流す仕組みをつくり、企業等と連携して、活動の環境整備を応援するプロジェクト「こども食堂サポートセンター」に参加・協力。

#### 【「こども食堂サポート機能設置事業」選定委員会】

「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づく資金分配団体として平野理事が専務理事を務める一般社団法人全国食支援活動協力会が採択され、こども食堂の持続的な運営に資する「こども食堂サポートセンター」機能を設置する中間支援組織に対して助成を行うことになった。その選定委員会に■■■■専務が参加。

#### ①スケジュール

第1回選定委員会（趣旨説明）	2019年12月3日
第2回選定委員会（書類選考）	2020年2月14日
第3回選定委員会（面接選考）	2020年2月26日

#### ②採択事業

事業名	こども食堂サポート機能設置事業・こどもの居場所サポートおおさか
団体名	一般社団法人にしなりプレーパークプロジェクト
所在地	大阪府大阪市
事業名	ふくしまこども食堂組織基盤整備 ～こども食堂ネットワークを整備し、持続的展開を拡充させる事業～
団体名	特定非営利活動法人寺子屋方丈舎
所在地	福島県会津若松市

事業名 こども食堂等支援事業
団体名 社会福祉法人那覇市社会福祉協議会
所在地 沖縄県那覇市
事業名 子ども食堂ネットワーク北九州機能強化事業
団体名 一般社団法人コミュニティシンクタンク北九州
所在地 福岡県北九州市

【「広がれ、こども食堂の輪！」推進会議】

「広がれ、こども食堂の輪！」推進会議は、子育てひろば、冒険遊び場、児童館、母子生活支援施設など多様な機関がゆるやかに連携し、活動を支える仕組みの構築を目指し定期的に会議を開催。第4回「広がれ、こども食堂の輪！」推進会議 2020年3月9日に██████専務が首都圏若者サポートネットワーク若者おうえん基金について事例共有を行った。



## 2. 社会的経済セクターの協働事業

### 2-1. 人材育成研修の実施

特定非営利活動法人等で働くスタッフの人材育成研修は企業と比べ充実していないため、キャリア形成を含め、特定非営利活動法人等のスタッフの人材育成事業(関連団体とのネットワークおよび情報交換、講師派遣を実施)。

【目標】年4回開催

【実施内容】

ハーバード大学ケネディスクールなどで教えられているコミュニティ・オーガナイズングに基づくリーダーシップをはぐくむスキルをワークショップ形式で講義。

【実施日】

2019年11月17日 おもに千葉・埼玉のこども食堂がつながる研修会

主催：NPO法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク

2020年1月5日 青森県子どもの居場所づくりコーディネーター 養成 講座

主催：青森県



千葉



青森

2020年2月9日 チャレンジいばらき県民運動主催コミュニティワーク実践講座事業

主催：NPO法人 セカンドリーグ茨城

2020年2月22日 中部ブロックこども食堂がつながる研修会

主催：NPO法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク



茨城



愛知

### 2-2. 政策提言のためのプラットフォーム運営

社会課題(地域共生、子どもの貧困、震災復興等)に取り組む事業者と連携し、現状の制度では対応できない事例を集め、NPO、生活協同組合、労働組合、共済、社会的企業等社会的経済セクター等のステークホルダーが集まり、政策提言のためのプラットフォーム(※4)を形成し、課題解決のための政策を検討する場を設ける。

【通常のプロセス】

1. 制度提案をするタイミング（選挙や毎年の概算要求の前など）に、運営委員や参加団体に対して、現状の制度では対応できない課題を募集する。
2. 集まってきた課題を集約し、提言の形にまとめる。
3. まとまった提言を制度作りに係る人たち（候補者、役所の担当部局）などに届ける。
4. 必要に応じて公開シンポジウム等を開催する。

※4 2011年に発足した政策提言プラットフォーム「市民キャビネット」の事務局の運営を当団体が担い、各ステイクホルダーへの働きかけや意見調整、関係機関（行政機関・議員を含む）への働きかけを行っている。また2017年に発足した首都圏若者サポートネットワークも各地域のアフターケアの課題を政策提言していくプラットフォームとしての機能を持つ。

① 「広域的地域間共助」第7回推進協働型災害訓練 in 杉戸への参画

東日本大震災においては、都市と農村の交流連携や姉妹都市・友好都市連携など、地域活性化や地域振興を目的とした遠隔地との連携・交流の取組がきっかけとなって被災地の支援活動に発展するなど、平時に構築した連携の枠組みが有事の助け合いにおいて効果的に機能を発揮した。本法人理事団体のNPO 埼玉ネット、一般社団法人協働型災害訓練は行政間、行政とNPO・市民団体（以下NPO等という）との連携を支援し多数の広域的な地域間の相互支援（共助）活動を進めてきた。このような取組を有効に機能させるために、常日頃から連携する地域同士が「顔の見える関係」づくりを継続的に進めておくとともに、いざというときの手厚い支援に繋げるために、行政関係者のみならず、地域住民や企業、NPO等など幅広い関係者を巻き込み、多様な階層が重層的な連携体制を構築することが必要と考え協働型災害訓練に参画し、参加者の意見を取りまとめ政策提言を行った。



【事業主体】 埼玉県杉戸町、福島県富岡町・川内村、（一社）協働型災害訓練、NPO 埼玉ネット、  
【参加者数】 1日目100名、2日目150名（合計のべ250名）

② AI 革命と働き方改革フォーラム

AI 革命と雇用の未来を拓く 2019～2020 年働き方改革フォーラムを設立し、働き方の調査 (R) と研究開発 (D) の活動開拓に取り組んだ。

【実施日】

2019年4月27日(土) キックオフミーティング (於 ; 第90回メーデー中央大会@代々木公園)  
参加者6名



2019年6月28日(金) 第1回フォーラム (於 ; 霞が関ナレッジスクエア)  
参加者約50名 講師 ■■■■■ 郎氏 (東京大学大学院 法学政治学研究科)



2019年10月5日(土) 第2回フォーラム (於 ; 田町交通ビル 5F 大会議室)  
参加者数約40名 (協働型災害訓練 inTOKYO として開催)



2019年12月3日(火)第3回フォーラム(於;霞が関ナレッジスクエア)

参加者役40名 講師 [REDACTED] 氏(在日ドイツ連邦共和国大使館参事官)



### 2-3. 社会課題解決に取り組む事業者の情報発信支援

ホームページ(年12回程度)、メールマガジン(月1回)、インターネット放送(月1回)等情報発信支援のツールを用意し、社会課題解決に取り組む事業者の活動を全国の中間支援NPO等に紹介しました。

#### ① メールマガジン

通常版:月1回発行・臨時号:随時

#### ② イベント

第90回メーカー中央大会:2019年4月27日(土)



#### ③ 動画配信

埼玉NPO放送局「キミに、つながってテレビ!」、地域情報局「つながりレポートSAITAMA」事務局([REDACTED])がMC担当



## 2-4. 特定非営利活動法人等の基盤強化

特定非営利活動法人等からの起業・運営や会計・税務の相談を随時受け付けるとともに、必要に応じて専門家(当団体の NPO 設立・運営相談インストラクター)による相談業務、法人運営者向けの研修会の開催、支援ツール(NPO活動保険、会計ソフトウェア、NPO 法人会計日誌等)提供、特定非営利活動法人等のネットワーキングの場等の支援メニューを通して、特定非営利活動法人等の基盤強化を行う。特定非営利活動法人の起業・運営や会計・税務等の相談会や研修会は、当団体が主催して実施し、実施に際して、NPO 支援東京会議(※5)に所属している税理士、公認会計士の先生方などに講師や相談員を依頼している。

※5 NPO 支援東京会議は、NPO 支援組織や公認会計士、税理士、社会保険労務士、行政書士などの有志により、専門家の立場から NPO や市民活動団体に対する団体運営や日常的な実務のサポートを東京都内を中心に行う団体で、当団体が事務局を担っている。

### ① 支援ツールの提供による機能強化

専門家派遣や講演会、NPO 支援ツールの販売等を継続して行う。

【専門家による起業・運営相談(会計・税務)】

目標：5 団体 結果：4 団体

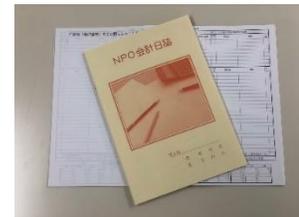
【支援ツールの普及(NPO活動保険、会計ソフトウェア等の販売)】

NPO 活動保険(保険代行者、あいおいニッセイ同和損害保険)

N-books 紹介(問い合わせ対応)

チャリティ自販機の設置(生活科学運営、生活クラブ風の村等)

会計日誌等ツールの販売



### ② NPO 支援東京会議の事務局運営

NPO 支援東京会議(会計士、税理士等の専門家ネットワーク)の事務局。

【定例セミナー】年3回

2019年6月20日 NPO 支援東京会議 6月定例セミナー

「NPO 向け会計ソフト使い方セミナー(free)」



2019年11月22日 NPO 支援東京会議 11月定例セミナー

「NPO 法人支援者が知っておくと役立つこと(NPO よろず相談から)」



2020年2月5日 NPO 支援東京会議 2月定例セミナー

「NPO 法人の運営で支援できること・できないこと」



### 3. ユニバーサルな地域社会づくり事業

#### 3-1. 志縁をつなぐ文化芸術活動の実施支援

普段 NPO 活動に接点を持たない住民が、地域で活動している NPO を知り、地域における関係構築を志縁(支援)することを目的に、地域の NPO 等がアーティストと連携した、チャリティコンサート等の文化芸術活動(文化祭)の開催支援を実施する。

【目標】ぬちゆいトークライブを1回開催

【結果】本年度は未実施。来年度以降、首都圏若者サポートネットワーク主催として「若者おうえん基金」を呼び掛けるような企画・開催をトキコ・プランニングと協議中

#### 3-2. 困難を抱えた子どもたちへのコンピューターサイエンス教育の機会を提供

2020 年から小学校においてプログラミング教育が必修化され、プログラミング体験を通してプログラミング的思考を育み、また身近な問題発見・解決にコンピュータやソフトウェアの働きを活かし、よりよい社会を創っていく能力を養成することが期待されている。しかし、現時点では子どもたちがプログラミングに接する機会は限定的であり、地理的、或いは、環境的な差異なく、プログラミング体験の機会を提供することが急務となっている。

このような状況を踏まえ、プログラミング体験および、デジタルなものづくりを通じた問題発見・解決を目指すツールとして、世界的に人気のある「Minecraft」を活用し、全ての子どもたちがプログラミング教育や、デジタルなものづくりに触れる事のできる機会創出を行っていくことを考え、特に、“届き辛い”とされる子供たちに対しては、技術者と支援者とが連携したサポート体制を組むことで、作品づくりにチャレンジする環境創りを行う。

#### 【大会テーマ】

スポーツ施設のある僕・私の街～ワクワクする「まち」をデザインしよう～

スタジアムや運動場、体育館などのスポーツ施設とこれと連携して利用される施設のある町に住んだり訪れたりすることで、暮らす全ての人々が充実した暮らしをすることができるワールドを開発する

#### 【大会概要】

マインクラフト教育版において 15 歳以下の男女で構成される 3 名以上 30 名以内のチームでのワールド作成を全国に呼び掛け、「スポーツ施設のある僕・私の街ワクワクする「まち」をデザインしよう」というテーマで作品コンテストを実施した。

#### 【プログラミング作品応募期間】

2019 年 3 月 10 日(日)～8 月 18 日(日)

#### 【授賞式】

2019 年 9 月 23 日(月) 会場：日本マイクロソフト本社



【アドバイザー】

- (全国子どもの貧困・教育支援団体協議会 代表幹事)
- (日本教育情報化振興会会長、ICT CONNECT 21 (みらいの学び共創会議) 会長)
- (元サッカー日本代表監督)
- (Minecraft 公式プロマイクラフター)
- (元厚生労働事務次官)
- (株式会社オリィ研究所 代表取締役 CEO)
- (最年長プログラマー)

【主催】

Minecraft カップ 2019 全国大会運営委員会

(構成団体：ICT CONNECT 21、日本マイクロソフト、ユニバーサル志縁センター)

運営委員長■■■■ 運営委員：■■■■ 監事：■■■■

【周知方法】

- ・マイクロソフト認定教員コミュニティによる周知
- ・小学校約2万校、中学校約1万校への公式ガイドブックの配布
- ・キックオフイベントのメディアによる記事化
- ・人気ユーチューバーによる告知

【参加について】

アカウント貸与数：2888名 アカウント貸与チーム数：250チーム

(応募内訳：PCスクール39件、Coder-Dojo32件、教育機関120件、特別支援拠点4件、その他55件)

作品提出チーム数：133チーム 作品提出チームメンバー総数：1045人

【入賞】

作品：8作品 (内、大賞1作品、マイクロソフト賞1作品)

	賞	チーム	プレゼンター
大賞	大賞	加藤学園暁秀初等学校 サンシャイン WHITE6	■■■■
審査員賞	ALL AS ONE 大西賞	CoderDojo 宜野湾	■■■■
	ピア・ボーディング Kazu 賞	CoderDojo Ishigaki	■■■■
	クリエイティブ アイデア賞	UNIX 研究同好会	■■■■
	街づくり すずかん賞	Souya channel	■■■■
	Best Coding 賞	Coding Lab Japan	■■■■■■■■■■
	物人賞	CoderDojo 久留米	■■■■
日本マイクロソフト賞	日本マイクロソフト賞	バタフライ エフェクト	日本マイクロソフト株式会社

【特別な支援が必要な団体の参加サポート】

“すべての個人とすべての組織が、より多くのことを達成できるようにする”という Microsoft のミッションを実現するために、Minecraft カップでは、子どもたちの学びの場をサポートする団体と協力して、Minecraft をつかった学習のサポートを実施。

サポートがないと参加できなかった団体

病院内での学習支援：連携パートナー：Your School

居場所づくり (全国子どもの貧困・教育支援団体協議会)：連携パートナー：WEW とかち

連携パートナー：特定非営利活動法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい kuku

定住外国人の子どもの学習支援：連携パートナー：NPO法人青少年自立援助センター YSC ネットワーク

災害復興：連携パートナー：SAVE TAKATA

サポート内容：PC 貸与、コーチトレーニングの実施、随時相談の受付

結果：サポートがなければ参加できなかった団体の全体が作品作りに取り組み、1 団体を除き大会に作品をエントリーすることができた。詳細については<別紙>報告書を参照。

サポートが必要でなかったが公立の特別支援学級におけるマイクラフトカップ参加の手引を作成するために、以下の学校にヒアリングを実施。

特別支援学級：連携パートナー：つくば市立学園の森学園義務教育学校

**【教育効果】**

一般社団法人次世代教育・産官学民連携機構によるルーブリックに基づく評価を実施。結果は別紙参照。



## 4. ユニバーサルなはたらく場づくり支援事業

### 4-1. ユニバーサル就労の普及

ユニバーサル就労(障がいがあったり、生活困窮状態にあるなど、様々な理由で働きたいのに働きづらいすべての人が働けるような仕組みを作ると同時に、誰にとっても働きやすく、働き甲斐のある職場環境を目指していく取り組み)に取り組む企業団体(※6)を増やすための普及啓発事業(シンポジウム、メールニュースの配信、イベント等での展示、各種メディアの取材対応 等)を実施する。

※6 ユニバーサル就労に取り組んでいる、NPO 法人ユニバーサル就労ネットワークちば、社会福祉法人生活クラブ風の村と連携している。

#### 【活動内容】

2019年11月3日、4日に開催された第6回生活困窮者自立支援全国研究交流大会において自立相談支援事業評価実践ガイドを紹介。

### 4-2. ユニバーサル就労を推進するための調査、研究、政策提案

ユニバーサル就労等を地域社会において推進するために、これまで取り組んできた「生活困窮者自立支援制度における就労準備支援事業の評価ガイドライン」「自立相談支援事業の評価ガイドライン」を踏まえた調査、研究、政策提言を行う。本年度も社会福祉推進事業を応募。

※厚生労働省平成27年度社会福祉推進事業生活困窮者自立支援法における就労準備支援事業評価ガイドライン作成事業

※厚生労働省平成28年度社会福祉推進事業就労準備支援事業評価ガイドライン検証事業

※厚生労働省平成29年度社会福祉推進事業自立相談支援事業評価ガイドライン作成・検証事業

※厚生労働省平成30年度社会福祉推進事業自立相談支援事業評価実践ガイド普及展開方法検討事業

【結果】本年度社会福祉推進事業は不採択。

### 4-3. ちばユニバーサル農業フェスタ 2019 の広報を実施

本団体はちばユニバーサル農業フェスタに協賛を行い、埼玉県熊谷市の第13回こうなん祭り、太鼓祭 in 彩の国くまがやドーム 2019 和太鼓&よさこい大祭典等で広報を実施した。

【期間】2019年4月から12月



## 5. 大規模災害時における復興支援活動事業

### 5-1. 復興活動に取り組む支援団体とのネットワークおよび情報交換、コーディネート等

東日本大震災や熊本地震等、大規模災害時に復興支援活動を行うとともに、復興支援活動に同様に取り組んでいる団体と意見交換の場を開催する(※7)。また、企業等(※8)による被災地支援におけるコーディネートを行う。

※7 東日本大震災支援全国ネットワークには、当団体が世話団体として参画

※8 企業等による被災地支援におけるコーディネートは当法人単独の事業として実施、これまでに、日本ヒューレット・パッカー社の福島県の高校等への社会貢献活動のコーディネート、日本マイクロソフト社による熊本市の避難者支援システムくまもと R ネットにおける協働事業、などに取り組んでいる。ほか、当団体が行ってきた復興支援 IT ボランティアにおいては、文部科学省、ヤフー株式会社、株式会社バッファロー、デル株式会社、一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)、株式会社NTTドコモ、KDDI株式会社などと協働している。

#### 【東日本大震災支援全国ネットワーク】

本年度も東日本大震災支援全国ネットワークに、世話団体として参画。

#### 【協働型災害訓練】

市民キャビネット災害支援部会が中心に取り組む令和元年度「広域的地域間共助」推進協働型災害訓練等で復興支援活動の報告や防災訓練等を実施。

#### 【企業の社会貢献活動支援】

日本ヒューレット・パッカー社の社会貢献活動(FY19 Social Impact Activity Program~福島グループ)のサポートとしてコーディネート、前日研修実施及び現地同行を実施。

### 5-2. 地域コミュニティ活動支援

専門家と連携し地域における防災教育システムを用意し、公民館や仮設住宅・復興住宅の集会所等を軸としたコミュニティの活性化のための支援事業を被災地の支援団体と連携し取り組む。

#### ①東日本大震災復興支援

昨年に引き続き、福島県川内村において復興支援活動を実施。

【協力】特定非営利活動法人加須ふれあいセンター、特定非営利活動法人川内村NPO協働センター

【内容】音楽ライブ、和太鼓、お囃子、獅子舞

【日程】2019年9月29日

#### ②台風15号災害支援

ちばのWA地域づくり基金等へのメルマガ、SNS、ホームページでの広報協力を実施。

#### ③台風19号・10月豪雨災害支援

市民キャビネット災害支援部会が中心に支援活動を実施。

(活動記録)

2019年

10/13(日)市民キャビネット災害支援部会情報計画部：隊員3名、入間川・荒川合流地点

(開平橋周辺)、吉見町、東松山、鴻巣市、熊谷市の被害状況確認を行ないました。

10/14 (月)市民キャビネット災害支援部会は、予定されていた、太鼓祭 in 彩の国くまがやドームに参加して、台風被害者への黙とう、東日本大震災被災者(加須ふれあいセンター、あゆみの会、ターニャの店)と出演者・来場者との交流会を行いました。被災地調査。

10/15 (火)情報収集。さいたま市西区、上尾市の冠水地区への支援活動決定。出動準備指令発令。

10/16 (水)上尾市平方、上宿公民館避難所(自治会運営)に対し支援活動開始。

要請に基づき支援物資(フードバンク埼玉提供:タオル、洗面道具、飲用水、お米、アルファ米等、市民キャビネット災害支援部会:ラザージャケット食器等)、炊き出し(加須ふれあいセンター:カレー50食)の支援を行いました。社会福祉協議会登録災害ボランティアの皆さんが清掃活動に従事されていました。

10/19 (土)支援物資(フードバンク埼玉提供)を搬入

10/20 (日)上尾市平方避難所閉鎖に伴い、同所での支援活動終了。於きたまちしましま公園支援金募金活動。

10/21 (月)福島県いわき市冠水地区からの支援要請に基づき、2019/10/24(木)断水状態の地域に、飲用水150箱(21×12本×150箱)等を第一弾として、支援要請があった避難所に物資輸送を行いました。

飲用水はフードバンクから提供、トラックは埼玉労福協の物を使います。積み込みボランティア、絆ジャパン、日進親和会の協力を受けました。

10/24 (木)東松山市内での浸水地区被災者に対し、お米、食料品の支援物資を東松山市の支援団体に輸送しました。(提供フードバンク埼玉)

10/27 (日)東松山市内での浸水家屋(高齢者避難済で社会福祉協議会対象外)の清掃活動を行いました。(協力絆ジャパン、チーム東松山)

10/30 (水)追加の食料等の支援物資を東松山市の支援団体に輸送しました。(提供フードバンク埼玉)



### 5-3. 地域における震災を踏まえた調査研究

地域における震災を踏まえた調査研究を行なう。また、その成果を学会等のシンポジウムやポスター展示等で発表する。

【結果】本年度は未実施。

## 6. 機関運営（総会、理事会、事務局体制）

### ① 総会

2019年6月18日 17時30分～19時 連合東京会議室

### ② 理事会

第1回理事会 2019年6月18日 15時30分～17時 定例 連合東京会議室

第2回理事会 2019年6月18日 15時30分～17時 代表理事選出 連合東京会議室

第3回理事会 2020年2月3日 13時～13時15分 助成先承認 みなし理事会

第4回理事会 2020年3月17日 15時30分～17時30分 定例 TKP 浜松町

### ③ 事務局体制

常勤2名（                    ）、非常勤（      ）

## 7. 資金状況報告

別紙

## 8. その他

公益社団法人ユニバーサル志縁センター  
2020年度事業報告

<はじめに>

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、当センターの会員・理事の皆様のご生活にも影響が及び、所属されている団体に置かれましても事業変更など様々な対応に迫られたことと思います。この場を借りて謹んでお見舞いを申し上げます。当センターは平常時より厳しい状況にある方々に支援を届ける活動を行っており、そのような方々は普段よりも更に厳しい生活を強いられていることがわかってきました。そのため出来る限り柔軟に事業を組み替え、多くの皆様からの援助をいただくことで、大半の事業を実施することが出来ました。本当にありがとうございました。冒頭、本年度特に重点を置いて取り組んだ2つの事業を紹介させていただきます。

1つ目は首都圏若者サポートネットワークの活動です。2015年総会で子どもの貧困について議論を進めていくことが決定し、理事を中心に議論を進め、2016年度社会的養護下にある子の自立を考える研究会を発足し、研究会の報告書に基づき、措置経験の有無にかかわらず、家族の後ろ盾もなく困難に直面する子ども・若者が自立するのに必要な支援の仕組みを構築するため「首都圏若者サポートネットワーク」を立ち上げました。2018年から補助金とは異なる支援者にとって使い勝手の良い助成制度を立ち上げるために「若者おうえん基金」を創設し、基金に集まった寄付金額に応じて支援者への助成事業を開始しました。そのような中、今年度は定例で実施する「第3回若者おうえん基金助成」に加えて、新型コロナウイルス感染拡大を受け、助成先団体にどのような影響があるかアンケートを実施し、業務増加に伴うスタッフ人件費の増加、マスク・消毒液等物資の不足など、厳しい現況について報告を受けたことをきっかけに、「若者おうえん基金新型コロナ緊急助成」「チャリティスマイル新型コロナ助成」の2つの事業を行い、全国の社会的養護で育つ(育った)若者たちを、伴走者を通して支援しました。また、選考や報告会等はオンラインで開催いたしました。

2つ目はMinecraftカップ2020全国大会を通じた困難を抱えた子どもたちへのコンピューターサイエンス教育の機会の提供です。2020年から小学校においてプログラミング教育が必修化され、プログラミング体験を通してプログラミング的思考を育み、また身近な問題発見・解決にコンピュータやソフトウェアの働きを活かし、よりよい社会を創っていく態度を養成することが期待されていますが、現時点では子どもたちがプログラミングに接する機会は限定的であり、地理的、或いは、環境的な差異なく、プログラミング体験の機会を提供することが急務となっています。新型コロナウイルス感染拡大で、GIGAスクール構想の推進やオンライン授業が普及する中でICT教育のニーズが高まる中で、昨年に引き続きプログラミング体験および、デジタルなものづくりを通じた問題発見・解決を目指すツールとして、世界的に人気のある「Minecraft」を活用し、全ての子どもたちがプログラミング教育や、デジタルなものづくりに触れる事のできる機会創出を行っていくことを考え、Minecraftカップ2020全国大会を実施しました。前回大会は3人以上30人以内のチーム参加でしたが、密になることを避けるために個人戦での開催となりました。また、特に、“届き辛い”とされる子供たちに対しては、オンラインサーバーなどクラウド技術を駆使し、対面での支援が難しい中でも技術者と支援者とが連携したサポート体制を組むことで、作品づくりにチャレンジする環境創りを行い、最終審査会・表彰式もオンラインで実施しました。

今年度は、残念ながら、実施できない事業もありましたが、お陰様で大半の事業は継続実施をすることが出来、前述したような緊急対応も行うことが出来ました。このような活動を推進できたのも会員団体、理事団体の皆様との活動の連携の成果であり、この場を借りて御礼申し上げます。

## <当センターの事業内容>

当センターはNPO法人や社会福祉法人、労働組合、生協等の協同組合、社会的企業も含めた社会的経済セクターがゆるやかにつながることにより、子ども・若者の自立支援、社会的経済セクターの協働、ユニバーサルなはたらく場づくり支援、大規模災害支援等によって、誰にとってもユニバーサルな地域社会づくりに寄与する5つの事業を行う。

## 1. 子ども・若者の自立支援事業

### 1-1. 子ども・若者等の自立を支える支援の仕組みの構築

児童養護施設在籍児の高等学校卒業後の進学率は全高卒者の割合に比べ著しく低く、進学しても一般の学生に比べ中退率も高い。退所後は生活等で困難に直面した際には家族の後ろ盾もない。そのような子ども・若者が自立していくために学識経験者や支援団体の関係者等が参画する首都圏若者サポートネットワーク運営委員会(※1)を組織し、必要な支援の仕組みを構築する。そのために、以下の4つの活動を行った。

※1 首都圏若者サポートネットワーク運営委員会は、当団体が推進する首都圏若者サポートネットワークおうえん基金事業の諮問機関であり、当団体の内部組織。

#### 1-1-1. 首都圏若者サポートネットワーク 若者おうえん基金の運営

困難に直面する子ども・若者たちに伴走する支援者(退所児童等アフターケア事業、自立援助ホーム等のスタッフを想定)は行政からの補助金で主たる活動を行っており、使途の制約があるため子ども・若者の相談内容によっては補助金を活用できず自己資金やスタッフの自腹で対応する場合があります。そのため昨年度補助金とは異なる支援者にとって使い勝手の良い資金が継続的に集まる若者おうえん基金を創設し、公募を行い、基金に集まった寄付金額に応じて支援者への助成を行った。支援者による支援の対象者は、首都圏(東京都、埼玉県、神奈川県)の支援者が伴走可能な、措置経験の有無に係らず支援が薄い若者(おおむね30歳未満)とする。支援者は支援対象者と相談して支援申請を決める。

#### 1 基金造成：基金造成のための活動と募金額について

【寄付金募集期間】2020年1月1日から12月31日まで

【基金造成のキャンペーン期間】2020年9月から12月まで

【シンポジウム】2020年10月3日(土)13時30分～16時30分

プログラム

- ・主催者挨拶 [REDACTED]
- ・共催団体挨拶 [REDACTED] (生活クラブ連合会会長)
- ・首都圏若者サポートネットワークの現状報告 [REDACTED]
- ・助成先団体の活動報告

報告① 若者おうえん基金2019年度採択団体

K2 インターナショナルグループ

NPO法人ヒューマンフェローシップ

[REDACTED]

報告② 若者おうえん基金研修枠採択団体  
認定 NPO 法人育て上げネット  
教育支援事業事務局

報告③ 新型コロナ緊急助成採択団体  
NPO 法人日向ぼっこ

- ・ 体験就労について [ ] (一般社団法人くらしサポートウィズ)
- ・ 体験就労協力事業者の活動報告  
報告④ 体験就労受け入れ事業者  
ワーカーズコレクティブ凜  
[ ]
- ・ 講演「最新の社会的養護関連施策について」  
講師： [ ] (厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課長)
- ・ パネルディスカッション  
テーマ：「社会的養護における就労支援の現状と課題」  
コーディネーター  
[ ] (首都圏若者サポートネットワーク副委員長)  
パネラー  
[ ] (自立援助ホーム マラナ・タ ハウス)  
[ ] (よいしごとステーション・ワーカーズコープ)  
[ ] (ワーカーズコレクティブ凜)  
[ ] (認定 NPO 法人ブリッジフォースマイル)  
[ ] (一般社団法人くらしサポートウィズ)  
[ ] (生活クラブ連合会)  
助言者  
[ ] (厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課長)
- ・ 閉会挨拶 [ ] (首都圏若者サポートネットワーク 顧問)



【広報】WEB サイト、SNS での周知や、You Tube でのライブ配信イベント等を実施。

○第2回若者おうえん基金助成報告会の実施

【報告会日程】2020年7月4日開催 13時30分～16時30分

開会挨拶・基調講演 運営委員長 [ ]

2019年度活動報告 事務局長 [REDACTED]

第2回若者おうえん基金助成先団体活動報告第一部

- (1) 一般社団法人 Masterpiece
- (2) NPO 法人フェアスタートサポート
- (3) こもれびホーム

第2回若者おうえん基金助成先団体活動報告 - 第二部

- (4) 一般社団法人若草プロジェクト
- (5) 自立援助ホーム樹の下ホーム
- (6) 児童養護施設聖ヨゼフホーム

総括コメント 運営委員・選考委員 [REDACTED]

閉会挨拶 運営委員 [REDACTED]

顧問 [REDACTED]

○伴走支援者インタビューライブ配信

#1 一般社団法人 Masterpiece 代表 [REDACTED] さん

10月27日(火)、19時半～20時半



#2 アフターケア相談所ゆずりは ████████ さん  
11月22日(日)、19時～20時

“勇気をもって相談してくださった方に  
「出会えてよかった」  
と思ってもらえるように”

伴走支援者  
インタビュー

社会的養護を巣立った若者に  
寄り添うということ

若者おうえん基金Live

11月22日(日)19:00～20:00  
Facebook Liveで配信

アフターケア相談所ゆずりは  
高橋 亜美 さん

#3 クローバーハウス (コンパスナビ) 管理責任者 ████████ さん  
11月24日(火)、19時半～20時半

～社会的養護を巣立った若者に寄り添う～  
11月24日(火) 19:30～20:30  
Facebook Liveで配信

伴走支援者  
インタビュー

クラウドファンディング  
実施中!!

伴走支援者  
インタビュー

ユニバーサル 志保センター

受付中!

池本雅信◎若者おうえん基金

田村さとし

クラウドファンディング

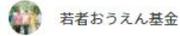
#### 【クラウドファンディング】

○ゆにふぁん連動クラウドファンディング

- ・実施期間  
2020年2月12日から5月12日
- ・達成金額  
7,574,000円(1件、誤入金)

- ・寄附者  
520人

## 施設や里親の下で育った若者たちをサポートする若者おうえん基金



寄附総額

**7,844,000円** 目標金額 3,000,000円

寄附者 募集終了日  
520人 2020年5月12日

プロジェクトは成立しました！

♡  
43

終了報告を読む

シェア ツイート LINEで送る noteで書く

### ○第3回若者おうえん基金クラウドファンディング

- ・実施期間

2020年8月28日から11月26日

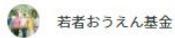
- ・達成金額

3,739,000円

- ・寄附者

255人

## 養護施設や里親の下で育った若者をサポートする若者おうえん基金



寄附総額

**3,739,000円** 目標金額 3,000,000円

寄附者 募集終了日  
255人 2020年11月26日

プロジェクトは成立しました！

♡  
16

シェア ツイート LINEで送る noteで書く

## 【2020年に造成された若者おうえん基金の内訳】

募金先	金額
生活クラブ東京	6,397,000円
生活クラブ埼玉	5,232,000円
生活クラブ神奈川	3,096,000円
生活クラブ東京単協寄付付きカレンダー寄付金	201,573円
コープみらい財団	200,000円
チャリティ自販機(生活クラブ飯能DC)	569,704円
チャリティ自販機(伊藤園)	525,033円
チャリティ自販機(ハチヨウ飯能営業所)	91,666円
ゆにふあん連動クラウドファンディング	7,574,440円
第3回若者おうえん基金クラウドファンディング	3,739,000円
口座振込、クレジットカード寄付	2,005,080円
受取利息	106円
合計	29,631,602円

## 2 第2回若者おうえん基金助成事業

## ■第2回若者おうえん基金助成二次公募

2019年支援総額の85%が15,497,163円であり、現在助成額が9,294,000円のため、2018年度の剰余金(1,089,463円)に6,203,163円を加えた7,292,626円を上限として二次公募を実施。公募については一般枠の名称を伴走支援枠としたうえで伴走支援枠(上限150万円)のみ2020年3月1日より公募を実施。

第2回若者おうえん基金二次公募 採択団体決定金額一覧 採択団体：6団体 計5,457,000円

(参考)別紙1 首都圏若者サポートネットワーク 2019年度活動報告書

NO.	助成先団体	申請内容	金額
1	DV対策センター	アスペルガー症候群で、集団での学習に困難のある高校生の伴走支援。コロナの影響でオンラインとなった授業を受けるためのパソコン購入と学習サポートを行う。	¥100,000
2	自立援助ホーム ヒューマンフェローシッ プ	発達障害や引きこもりなどで自立に困難がある若者に対し、再就職や就労継続に向けたサポートを行う。伴走者が寄り添い、生活面・メンタル面の継続的な支援を行う。	¥1,500,000
3	自立援助ホーム マラナ・タハウス	母親の虐待を受け、母親から子ども名義の不動産があり、それが他の住人に損害を与えたため、本人が不利益を被るといわれた高校生のサポート。弁護士の協力を得る。	¥360,000
4	待学園スクオーラ	第三者のサポートが必要な若者にとって、高校進学や再入学に向けて、衣食住についての基礎を学ぶ機会や、コミュニケーションの実践の機会を強化していく。	¥1,485,000

5	神奈川県子ども支援センターつなぐ	家庭内で過酷な性被害を受けた子どもに対し、学習費用や生活費の支援に加えて、ケースワーカーの派遣やセラピーの活用に取り組み、苦痛の軽減を目指す。	¥662,000
6	特定非営利活動法人 なんとかなる	施設等を退居した子どものアフターケア。カウンセラーの定期訪問により当事者の心理の安定や、自立支援に向けた生活費や食育の援助に取り組む。	¥1,350,000

#### ■若者おうえん基金研修枠助成

首都圏若者サポートネットワーク「若者おうえん基金」は、通常のカンパ等とは別に「ゆにふぁん(※2)」と連携して実施しているクラウドファンディングの寄付金を財源とした「若者おうえん基金(研修枠)助成」を設置。

※2 ゆにふぁんとは日本労働組合総連合会(連合)が中心となり、労働組合や地域のNGO・NPOによる「支え合い・助け合い」活動を紹介、サポートする取り組み。

#### 【趣旨】

社会的養護の下に暮らす(暮らした)子どもたち等の多様な自立を応援するために、全国の都道府県に専門的な伴走者を擁し、利用者が安心して信頼できる持続的な支援体制を整備する一助となる事業を実施することを応援するために助成を実施。

#### 【対象】

全国の社会的養護の下に暮らす(暮らした)おおむね30歳までの子ども・若者を支援する「伴走者」(既存の専門機関、児童養護施設、自立援助ホーム、里親家庭、アフターケア事業者、生活困窮者自立支援相談窓口、若者サポートステーションなど)ただし、応募に際しては、全国自立援助ホーム協議会、首都圏若者サポートネットワーク運営委員・オブザーバー所属団体の推薦を必要とする。

#### 【助成内容】

専門的な伴走者を擁し、利用者が安心して信頼できる持続的な支援体制を整備する一助となる事業(上限30万円、例:集合研修開催支援、見学研修開催支援)

【募集期間】2020年3月10日から4月30日

【選考委員会】2020年5月18日

【助成金分配】2020年6月

【採択団体】2団体 計511,500円

NO.	団体名	申請内容	金額
1	認定NPO法人育て上げネット	社会的養護下にある・あった若者が就労支援を必要とした時に、プロアクティブに支援できる体制、伴走支援できる体制構築のためのオンライン研修を実施(その後研修報告をwebで公開)	¥287,500
2	NPO法人そだちの樹	若年者を対象とするソーシャルワークに関する総合的な研修②地域におけるアフターケアの連携体制づくりに関する研修	¥224,000

¥511,500

■若者おうえん基金 新型コロナ緊急助成

新型コロナウイルスの流行や緊急事態宣言を受けて、若者おうえん基金の助成先団体より、業務増加に伴うスタッフ人件費の増加、マスク・消毒液等物資の不足など、厳しい現況について報告を受けた。こうした状況を踏まえ、社会的養護からの自立支援を行う「伴走者」に対して、緊急支援が必要と判断。感染予防や様々な活動自粛の影響を、資金面で支える目的で、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急助成事業を実施。

【対象】

全国の社会的養護の下に暮らす（暮らした）おおむね30歳までの子ども・若者を支援する「伴走者」（既存の専門機関、児童養護施設、自立援助ホーム、里親家庭、アフターケア事業者、生活困窮者自立支援相談窓口、若者サポートステーションなど）。

\*以下のいずれにも該当しない団体であること

- ・個人的な活動や趣味的なサークルなどの団体
- ・政治活動や宗教活動を主たる目的とする団体
- ・反社会的勢力と関係のある団体

【対象事業】

新型コロナウイルスの影響への対応として必要となる活動。

\*用途について、使用実績のご報告を依頼

\*以下、想定している対象事業例

- ・当事者支援のために必要な活動
  - 就労リスク対応：生活支援、食料配達、シェルター確保
  - 精神面のケア：相談員の充実、子どもの余暇の充実（玩具等の購入）
- ・団体運営継続のために必要な活動
  - 感染リスク対応：マスク等の予防衛生物資の購入、宅食の充実、職員の車通勤支援、オンライン購入にかかる配送料確保、オンライン事業の充実
  - 人手不足対応：スタッフの補充、既存スタッフの人件費補充
  - 感染時リスク対応：隔離場所確保、防護服等の衛生物資の購入

【助成内容】

1団体あたり上限10万円（総額は200万円を想定）

【募集期間】

2020年4月23日から5月7日

【応募方法】

申請書（緊急助成用）に必要事項を入力の上、メールにて送付。\*押印は不要

【選考委員会日程】

第1回選考委員会 2020年5月15日（金）11時～12時

第2回選考委員会 2020年5月18日（月）11時～11時15分

【選考委員】

生活クラブ共済事業連合生活協同組合連合会

浦和大学社会学部准教授

元厚生労働省 障害保健福祉部長

【選考方法】

書面審査で選考を行い、3名の審査員が以下の選考基準5項目について評価。

**【選考書類】**

助成金交付申請書。その他、応募事業の参考となる添付資料（任意）。

**【評価項目】**

以下の評価基準について各審査員評価を行う。

選考5項目

信頼性：連携している機関・団体があるか。【連携している機関・団体】

緊急性：新型コロナの影響による緊急性があるか。【コロナの影響、現在の運営状況】

必要性：どのような活動に助成金が使われるか明確であるか。【想定される助成金の使途】

実行可能性：支援対象の当事者がいるか。【使途、支援対象者数】

継続性：今回申請した活動が、今後の団体の活動継続のきっかけとなることが期待できるか。

申請件数	申請金額合計	選考結果金額合計
52件	497万円	457.075万円

番号	申請団体名	申請内容	選考結果金額
001	自立援助ホーム元気さん	マスク購入	9,075万円
002	児童アフターケアセンターおおい(特定非営利活動法人おおい子ども支援ネット)	衛生、食材	10万円
003	特定非営利活動法人マナーズ 自立援助ホーム「ハレルヤ・ファミリー」	マスク等購入	10万円
004	自立援助ホームKCカルム	マスク等購入	7万円
005	一般社団法人Masterpiece	食糧支援	10万円
006	とらぎユースアフターケア事業協同組合	衛生、食材等	10万円
007	アフターケア事業所ほつぷすてっぴ「さくらハウス」	衛生、食料	10万円
008	退所児童等アフターケア事務所めぐり	シェルター等	10万円
009	自立援助ホーム Cape Diem(カーペ・ディー・エム)	マスク、賃料等	10万円
010	聖ヨゼフホーム	ブリカ、容器	10万円
011	湘南つばさの家(自立援助ホーム)	マスク、賃料等	10万円
012	自立援助ホーム こたにがわ学園	マスク等購入	8万円
013	自立援助ホーム マルコの家	衛生、生活、人件費	10万円
014	NPO法人なんとかなる(自立援助ホーム)	衛生、人件費、余暇の充実	10万円
015	特定非営利活動法人そだちの樹	衛生、テレワーク等	5万円
016	自立援助ホーム まつぼっくり	予防・生活支援、シェルター準備	10万円
017	社会福祉法人 生活クラブ風の村 ちばアフターケアネットワークステーションCANS	食料・生活支援	10万円
018	自立援助ホーム「みんなのいえ」	在宅による生活費増	5万円
019	自立援助ホーム WARAKU	衛生用品、生活支援	10万円
020	三宿憩いの家、経堂憩いの家、祖師谷憩いの家	食費援助	10万円
021	特定非営利活動法人 日向ぼっこ	人件費等、ネット回線	10万円
022	京都 YWCA 自立援助ホーム カルーナ	学習支援、ケアプログラム、衛生	10万円
023	自立援助ホーム アシュレー	支援充実人件費	10万円
024	少年の家「ロージーハウス」	人件費、衛生品	10万円
025	自立援助ホーム ケイ・自立援助ホーム ケイセカンド・自立援助ホーム ケイアネックス	職員車通勤経費	10万円
026	コロンスアカデミー	マスク等購入	10万円
027	こどもの里自立援助ホーム	余暇・食料支援、衛生	10万円
028	湘南・横浜若者サポートステーション	PC増設	10万円
029	自立援助ホーム カリヨンとびらの家	食糧支援、衛生・隔離費	10万円
030	児童養護施設 若草寮	生活費振込、食料支援	10万円
031	社会福祉法人青少年福祉センター 自立援助ホーム長谷場新宿寮	衛生、生活、隔離テント等	10万円
032	仙台市生活自立・仕事相談センター 他仙南、黒川、北部、多賀城、富谷事務所	食糧支援	10万円
033	自立援助ホーム カリヨンタやけ荘	IT整備、衛生・食料物資	10万円
034	ヤング・アシストいっぽ(一般社団法人ヤング・アシスト)	衛生・食料の購入等	10万円
035	東京都養育里親(夫婦)	生活・食料支援	8万円
036	自立援助ホーム マラナ・タハウス	レンタカー代等	10万円
037	自立援助ホーム Ohanaの家、Lalaの部屋	衛生・食料等、その他	10万円
038	特定非営利活動法人 学生支援ハウスようこそ	補充人件費、衛生品購入	10万円
039	社会福祉法人ミッドナイトミッションのぞみ会 自立援助ホームマナの家	食料・生活支援、衛生	10万円
040	自立援助ホーム 樹の下ホーム	相談生活支援、衛生等	10万円
041	社会福祉法人 中央有鄰学院 自立援助ホーム きょうわ	余暇充実費	5万円
042	認定NPO法人D×P	PC提供、人員補充	10万円
043	児童養護施設 舞鶴双葉寮	余暇充実費	10万円
044	自立援助ホーム あすなろ荘	食糧支援	10万円
045	若草ハウス	ストレス緩和、駐車代、オゾン発生器	10万円
046	児童自立援助ホームしもつけ	オンライン環境整備費	10万円
047	ゆずりは学園 田原校	人件費補充、オンライン事業充実	10万円
048	自立援助ホームいっぽ	余暇充実、食糧支援	10万円

### ■チャリティスマイル緊急助成

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、首都圏若者サポートネットワークが実施している「若者おうえん基金」助成先である社会的養護下からの自立を支援している施設や事業所、団体より、若者たちの生活や就労面等の相談や感染症予防に伴うマスク・消毒液等衛生物品の不足など、厳しい現況が多く寄せられている。そうした影響が長期に及んでいることを受け、社会的養護下の

若者たちへの自立支援を行う施設、事業所、団体に対して、緊急的な活動に対する支援が必要と判断し、ソフトバンク株式会社、社会福祉法人中央共同募金会、首都圏若者サポートネットワークの三者が協働し、ソフトバンク「チャリティスマイル」と首都圏若者サポートネットワーク「若者おうえん基金」により、感染症拡大による影響を受け困難をきたす若者の自立に寄り添ってサポートする取り組みに対して本緊急助成事業を実施。

**【実施団体】**

ソフトバンク株式会社・社会福祉法人中央共同募金会・首都圏若者サポートネットワーク

**【助成対象者】**

全国の社会的養護の下に暮らす（暮らした）おおむね30歳までの若者たちの自立を支援する施設、事業所、団体施設・事業所・団体については、児童養護施設や自立援助ホーム、里親家庭、アフターケア事業所、若者サポートステーション、また上記施設をサポートする団体を対象とする。なお、法人格の有無は問わない。

首都圏若者サポートネットワーク「若者おうえん基金」が5月に実施した「新型コロナ緊急助成」に応募している場合や、これまでソフトバンク株式会社「チャリティスマイル」に応募している場合も応募可。ただし、今回初めて応募した施設・事業所・団体等を優先して採択する場合がある。以下に該当する場合は対象外とする。

個人的な活動や趣味的なサークルなどの団体、政治活動や宗教活動を主たる目的とする団体、反社会的勢力と関係のある団体

**【助成対象事業】**

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により困難な状況をきたしている当事者への緊急支援を行う活動

(想定している活動例)

- ・生活・就労のケア : 相談支援（困りごと等）、生活支援（食料や宅食の配達）、住居支援（シェルター確保等）
- ・精神面のケア : オンライン相談のための環境整備
- ・学習面のケア : オンライン学習のための環境整備
- ・感染リスク対応 : 感染予防衛生用品の購入、隔離場所確保等

\*ただし、人件費は対象外とする。

**【助成額】**

1団体あたり上限10万円（助成総額は350万円を予定）

**【募集期間】**

2020年5月28日から2020年6月18日

**【応募方法】**

申請書に必要事項を入力の上、メールにて首都圏若者サポートネットワーク宛に送付。

\*押印は不要

**【選考方法】**

各団体の申請内容を見て、必要性、緊急性、信頼性の3項目について選考委員が評価し選考を行った。

選考の基準

- ・どのような活動に助成金が使われるか明確であるか。
- ・支援対象の当事者がいるか。

( 第 1 号議案 )

- ・新型コロナの影響による緊急性があるか。
- ・連携している機関・団体があるか。
- ・助成対象事業としての的確かどうか。

**【選考委員】**

ソフトバンク株式会社・社会福祉法人中央共同募金会・首都圏若者サポートネットワークの各団体から選考委員を出して選考を実施。首都圏若者サポートネットワークからは、XXXXXXXXXX副委員長に選考を依頼。

**【選考委員会日程】**

2020年6月19日(金)10時～12時

## ■採択団体について

38団体 378.5万円

番号	施設名	審査額
1	自立援助ホーム Cape Diem	10万円
2	退所児童等アフターケア事務所 めぐり	10万円
3	自立援助ホームノースガイア	10万円
4	特定非営利活動法人CAN	10万円
5	とちぎユースアフターケア事業協同組合	10万円
6	自立援助ホーム こたにがわ学園	10万円
7	自立援助ホームアシュレー	10万円
8	児童アフターケアセンターおおいた	10万円
9	自立援助ホームhome	10万円
10	児童養護施設 みどり自由学園	10万円
11	湘南・横浜若者サポートステーション	10万円
12	一般社団法人 Masterpiece	10万円
13	自立援助ホームマナの家	10万円
14	児童養護施設 クリスマス・ヴィレッジ	10万円
15	ぬっくハウス(子どもシェルター)、自立援助ホーム Re-Co(りこ)	10万円
16	児童養護施設 聖家族の家	10万円
17	自立援助ホームゆらい	10万円
18	若草ハウス	10万円
19	特定非営利活動法人おかえり	10万円
20	ヤング・アシストいっぽ	10万円
21	マラナ・タハウス	8.5万円
22	二葉むさしが丘学園	10万円
23	自立援助ホーム カリヨンタやけ荘	10万円
24	特定非営利活動法人グッド東京オフィス	10万円
25	京都市中央青少年活動センター(他6施設運営:北・東山・山科・下京・南・伏見)	10万円
26	みんなの広場・つばさ2020	10万円
27	一般社団法人青少年自助自立支援機構	10万円
28	小規模住居型児童養育事業 村形ホーム	10万円
29	認定NPO法人コロンブスアカデミー	10万円
30	特定非営利活動法人日向ぼっこ	10万円
31	湘南つばさの家	10万円
32	アフターケア相談室 にじのしずく	10万円
33	自立援助ホームKCカルム・KCホームズ	10万円
34	自立援助ホーム長谷場新宿寮	10万円
35	ゆずりは学園	10万円
36	自立援助ホーム とびらの家	10万円
37	自立援助ホーム あいらんど佐世保	10万円
38	少年の家 ロージーハウス	10万円

■第3回若者おうえん基金助成

【目的】

社会的養護の下に暮らす（暮らした）子どもたちをはじめ、社会的自立が困難な状況に置かれている若者の多様な自立を、伴走者と共に支援する。

【対象】

社会的養護の下に暮らす（暮らした）子どもたちをはじめ、社会的自立が困難な状況に置かれている若者への支援を、埼玉県、東京都、神奈川県内で行う「伴走者」。

【助成内容】

・伴走支援枠

子ども・若者たちに寄り添う伴走者の経費の補助（上限150万円）

・先駆的实践枠

既存の制度では支援や活動が難しい先駆的实践（上限300万円）

【募集期間】

2020年9月1日（火）～11月30日（月）

【選考方法】

・一次審査：書類選考

・二次審査：面接

選考委員が必要性、緊急性、信頼性の評価基準を5点満点で評価し、その点数を踏まえて、選考委員の合議の上、理事会で決定します。

## 伴走支援枠

\* 7 団体に総額 5,825,200 円を助成。

助成先団体	所在地	申請内容(概要)	助成額(万円)
自立援助ホーム フィオーレ	埼玉県	自立援助ホーム退所後に生活が行き詰まってしまった若者への伴走支援。住居支援の初期費用を助成し、病院への通院や、金銭管理の支援をおこない、自立に向けた支援をおこなう。	78
一般社団法人 Masterpiece	神奈川県	親からの身体的・精神的虐待により、2歳から18歳まで施設で生活をした児童への伴走支援。資格取得のための学費を助成金で補助する他、精神科に通院する対象者のメンタル面のサポートをおこなう。	75
自立援助ホーム home	神奈川県	自立に困難を抱える施設退所児童(主に支援対象者4名)に、安心して共に生活、あるいは生活の一部を支援者と共にすごせる場を提供する。支援スタッフが居住し、随時対応できる環境を整え支援をおこなう。	150
NPO法人 神奈川子ども支援センター つながぐ	神奈川県	性被害から避難をしている児童2名への伴走支援。大学の学費の一部補填や、参考書の購入費などを助成。緊急支援終了後も定期的に連絡を取り長期的に伴走支援をおこなう。	35
自立援助ホーム カリヨンとびらの家	東京都	親からの虐待から逃れ、自立援助ホームに入所した児童に対する学習支援費用への助成。成績優秀で上位大学を目指す児童へ大学進学後の一人暮らしに向けて伴走支援をおこなう。	90.22
自立援助ホーム マラナ・タ ハウス	東京都	自立援助ホーム退所後に生活が行き詰まってしまった若者への伴走支援。当面の住居費用や病院への付き添いの支援をおこない、自立に向けてサポートする。	118.5
自立援助ホーム 経堂憩いの家	東京都	退所後再び支援が必要になった3名への伴走支援。新型コロナにより収入が減少した学生への学費支援や、定期的な面談による伴走支援のための費用に充てる。	35.8

## 先駆的実践枠

\*8団体に総額13,390,000円を助成。

助成先団体	所在地	申請内容(概要)	助成額(万円)
認定NPO法人 みらいの森	東京都	児童養護施設で暮らす高校生に向けた「リーダー実習プログラム」卒業生のネットワーク構築。卒業生同士がお互いを支え合い、必要に応じてスタッフやボランティアの支援を受けられる居場所を確立する。	140
一般社団法人 Masterpiece	神奈川県	社会的養護を巣立った若者向けに、空き家をリフォームしたシェアハウスを新規開設する事業。生活困窮や孤立などの課題を抱える若者の衣食住を支援する。	250
自立援助ホーム Cape Diem	埼玉県	自立援助ホームの入所児童が一人暮らしを1～3ヶ月ほど体験するステップハウスを運営する事業。施設退所前に一人暮らしをすることで、自立に向けた課題などを体験する。	99
NPO法人 プレイグラウンド・オブ・ ホープ	東京都	社会的養護経験者に対し、「実社会生活訓練プログラム」を提供する事業。在学中からの職場見学や、自立生活をしながらの1年間のトライアル就業をおこない自立に向けた支援をおこなう。	200
NPO法人 フェアスタートサポート	神奈川県	児童養護施設等で生活する児童に、職業適性検査や会社見学、就労体験等の機会を提供。自身の興味や適正を十分に加味した就労を支援し、就職後の定着支援も実施することで離職率の低下につなげる。	200
一般社団法人 青少年自助自立支援機構	埼玉県	高年齢で保護され、公的サポートが不十分なまま自立を迫られ生活困窮に陥っている社会的養護出身者に対し、それぞれの特性に合わせたパーソナルな就労前訓練プログラムを実施する。	290
NPO法人 パノラマ	神奈川県	校内居場所カフェの卒業生に対する、LINEを利用した相談支援体制を構築し、アウトリーチを介した相談伴走支援をおこなう。事例の分析・検討をおこない社会に発信をする。	110
NPO法人 学生支援ハウスようこそ	東京都	児童養護施設等を退所した学生向けシェアハウスの新型コロナウイルス感染対策費用を助成。感染症対策の担当職員を配置する人件費や、マスク、消毒液などの購入費。	50

## (別紙2) 首都圏若者サポートネットワーク 2020年度上半期報告書

## 3 チャリティ自販機

(伊藤園自販機)

5台：生活クラブ風の村、山九(株)

3台：(株)石井鐵工所

1台：パルシステム 熊谷セットセンター、くらしサポート・ウィズ、かどや製油(株)、のむら産業、XXXXXXXXXX様

(生活クラブ自販機)

7台：生活クラブ飯能デリバリーセンター

#### 4 その他

##### ■生活クラブ連合会 新型コロナウイルス感染拡大にともなう米の緊急支援

###### 【内容】

米の緊急支援。詳細は別紙。

###### 【主催】

生活クラブ連合会

###### 【協力】

全農山形、全農パールライス

###### 【支援内容】

山形県産「はえぬき」

###### 【時期】

2020 年 6～7 月

###### 【支援対象】

首都圏若者サポートネットワーク運営委員会参加団体

若者おうえん基金助成先団体（一般枠・先駆的实践枠）

##### ■児童養護施設対象・児童・生徒を対象とした iPhone の無償貸出

ソフトバンク株式会社と首都圏若者サポートネットワークが共同で、児童養護施設の児童・生徒を対象に学習端末として iPhone を無償で貸与する『みらいスマイルプロジェクト』を緊急実施。

###### 【企画趣旨】

『みらいスマイルプロジェクト』とは、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休校措置により、学習の遅れや、コミュニケーションの壁にお困りの子ども達をサポートするため、ソフトバンク株式会社と首都圏若者サポートネットワークが連携して実施するプロジェクト。児童養護施設で生活する児童・生徒、とりわけ、受験を控えた中学 3 年生や高校 3 年生を中心に、iPhone を無償で貸し出す。

###### 【応募期間】

2020 年 6 月末日まで随時受付

###### 【応募対象】

児童養護施設

###### 【貸与物】

iPhone 6S、USIM カード(端末に内蔵)、充電器等のソフトバンクが定める標準装備の備品

貸出期間中の上記貸出機に係る以下のサービス

- ・通話料金・通信料金（海外利用不可）
- ・ウェブ利用料金（有料アプリケーションのコンテンツ料金については利用者負担）

###### 【貸与台数】

各施設からの貸出しの希望台数をもとに、当社にて調整のうえ、決定。貸出しに際しては、用意できる端末台数に限りがあることから、必ずしも希望に沿うことができない場合あり。

###### 【貸与期間】

2021 年 3 月末日まで

###### 【費用】

無償（ただし、有料アプリケーションのコンテンツ料金や破損時の修理費用等は利用者負担）

###### 【利用者】

受験学年を中心とした児童・生徒

**【発送時期】**

応募いただいてから発送まで、最長2週間程度。

**【主催】**

ソフトバンク株式会社、首都圏若者サポートネットワーク

**【協力】**

一般財団法人LINE 未来財団、LINE 株式会社、全国児童養護施設協議会

**■生活クラブ連合会 2020年度新型コロナウイルス感染拡大下の緊急助成**

若者おうえん基金の過去採択団体について、申請を希望する団体に推薦を行った。

**【趣旨】**

新型コロナウイルスの緊急事態宣言による経済活動の縮小は、契約社員や一時雇用者にしわ寄せが出ています。生産者をつながる生活クラブだからこそできる支援として生活クラブグループと全農パールなどの生産者団体の協力により緊急のお米の支援を実施しました。今後、感染のさらなる拡大により市民生活への影響は今後より深刻化することが予測されます。その継続的支援として、生活に困窮している社会的弱者への支援活動を実施している団体に対し、助成事業を実施します。

**【主催】**

生活クラブ福祉事業基金

**【助成対象期間】**

2020年8月～2021年3月

**【助成の金額】**

1団体上限 30万円

**1-1-2. 就労・キャリア支援**

困難に直面した子ども・若者たちが安心して働ける環境を提供できる事業者を開拓し、それらの事業者と連携して、支援対象者にとって就労やキャリア向上につながるインターンシップ、アルバイト、中間就労、一般就労等の機会を用意する。具体的な活動としては、三菱財団助成を活用し、自立援助ホームに入所した若者に対して就労体験の機会を提供する。協力事業者の開拓・リストアップ、支援対象者と協力事業者のマッチング等を支援対象者の希望に応じて行う。

**【期間】** 2020年8月～2021年3月（以降も継続予定）

**【エリア】** 東京都内全域

**【対象者】** 原則、東京都の自立援助ホームジョブトレーナーが関わる、概ね30歳までの若者

\*ただし、アフターケア相談所など支援者のかかわりがある若者も対象とする。

## 【相談・体験就労の状況】 面談実施者4名 体験4か所3名

NO.	属性	相談理由	申込	体験日	体験先	体験後
①	17歳 男性	引っ越し会社の正社員退職後、仕事が決まらない。知的障害あり。	9月	10/25～	ワーカーズコープ 児童館（3か所）	面接を経てワーカーズコープに就労。
②	16歳男性	施設退所者。前職のラーメン屋は親の紹介。自分で仕事探せない。	9月	10/5～	(株)ロジカル パル システム配送同乗	アルバイトとして就労後、2週間で退職。
③	16歳男性	自分で仕事探せない。就労経験少ない。	10月	11/2～	生活クラブ 配送同乗	施設退所。
②-2	16歳男性	ロジカル退職者。仕事を見つけるのが難しい。	11月		生活クラブデポー希望だったが、確認している間にアルバイトが決まった。	
④	16歳男性	就労経験なし。8社受からず。知的障害あり。	12月		探している期間内にとび職の仕事が決まり、実施なし。	
③-2	16歳男性	11月に体験就労した生活クラブに就労希望。  緊急事態宣言中は配送同乗の仕事ができないため、他の体験就労を希望。	2月	2/17～	①一社) よって屋  ②おひさまネットワークごはん会 (コロナの関係で体験キャンセル)	生活クラブ小平センター 面接

### 1-1-3. 調査研究・政策提言

調査研究・政策提言のための組織体制の見直しを実施。各ワーキンググループを以下のように再編し、目的の達成に向けた運営の改善を検討するための仕組みを作るとともに、政策提言に向けた戦略立案や調査研究を行っていく。

(参考)

- ・ 選考管理 WG  
各助成金の選考過程を管理し助成金審査の透明化を図る。
- ・ 公募要項策定 WG  
公募要項、申請書類等の見直しを行い、基金の目的を達成するための改善を行う。
- ・ 助成先団体調査 WG  
助成先団体に対しヒアリング等を行い、各採択団体の調査を行う。
- ・ 研修 WG (採択団体フォローアップ WG 等)  
助成先団体への研修やサポートの内容を検討し、支援体制作りをサポートする。
- ・ 基金造成 WG  
基金造成に向けた各組織の連携をより緊密に行う体制を作る。
- ・ 就労・キャリア WG  
資金基盤を確立し継続的に体験就労支援事業を実施できる体制を作る。
- ・ 政策提言 WG  
各 WG と連携し政策提言に向けた戦略を検討する。

### 1-1-4. 休眠預金等活用法に基づく休眠預金を活用した助成金事業

#### ■ JANPIA「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」

日本民間公益活動連携機構 (JANPIA) が募集する「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」実行団体採択に伴い、助成事業を実施する。

- ・ 採択額 : 89,796,000 円
- ・ 助成団体の公募開始 : 2021 年 3 月～4 月

#### 【2021 年度スケジュール】 (予定)

採択団体の決定 : 4 月～5 月

研修の実施 : 5 月から 6 月

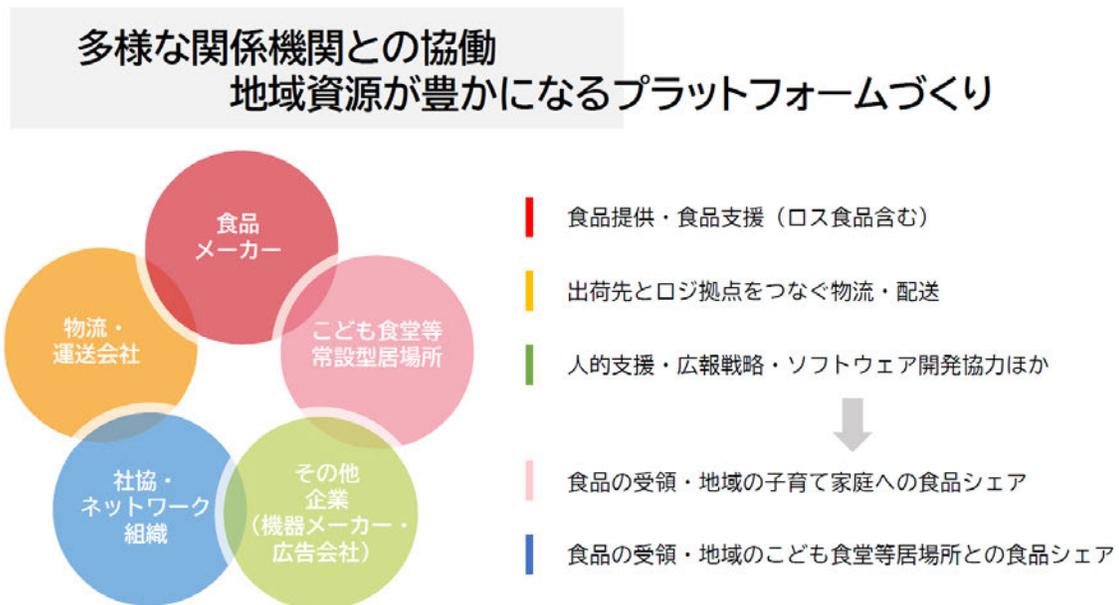
中間報告 : 10 月頃

(事業完了報告 : 2022 年 4 月以降)

## 1-2. 子どもの貧困対策に関する各種事業の推進（関連団体とのネットワークおよび情報交換、学習会への参加、研修会の開催等）

家庭間の経済格差が進み子どもの貧困が深刻化する中で2014年子どもの貧困対策法が施行され、子ども食堂、学習支援等が各地で急増したが、これらの事業者の運営基盤は脆弱である。そこで、一般社団法人全国食支援活動協力が各地の子どもの貧困支援の事業者(※3)と連携し、運営支援や地域支援の紹介等を行う。※3 各地の子ども食堂が活動しやすくなるように、情報を流す仕組みをつくり、企業等と連携して、活動の環境整備を応援するプロジェクト「子ども食堂サポートセンター」に参加・協力。

関連する下記の委員会に■■■■専務が参加。



© 2020 mow

### 【「子ども食堂サポート機能設置事業」評価委員会】

「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づく資金分配団体として平野理事が専務理事を務める一般社団法人全国食支援活動協力が採択され、子ども食堂の持続的な運営に資する「子ども食堂サポートセンター」機能を設置する中間支援組織に対して助成を実施。

第1回評価委員会	2020年6月15日
第2回評価委員会	2020年9月13日
第3回評価委員会	2021年2月9日

### 【「子どもの居場所づくり応援事業」助成選定委員会】

下記の解決に向けて子ども食堂等居場所に食を確保するしくみを整備する団体を募集。

- ◆コロナ禍において自己資金を拠出して子ども食堂等の運営をしている団体が多く、継続が難しい
- ◆食材を寄付したいと思う企業に対し、冷凍冷蔵設備の未整備により食品を受け取る環境がない
- ◆特に生鮮食品（野菜、食肉当）や冷凍総菜などのマッチングが進みにくい現状がある

(本事業の達成目標)

- ・ こども食堂等居場所が地域で孤立せずに、多団体や関係機関と資源を共有しながら活動を続けられる
- ・ 「食」「居場所」の確保に向けた連携の素地ができ、子どもの健やかな成長のためにネットワークする地域づくりが進む基盤が整う



(第1次)

第1回選定委員会 (趣旨説明)	2020年8月5日
第2回選定委員会 (書類選考)	2020年9月13日
第3回選定委員会 (面接選考)	2020年9月23日

(第2次)

第1回選定委員会 (趣旨説明)	2020年11月21日
第2回選定委員会 (書類選考)	2021年1月24日
第3回選定委員会 (面接選考)	2021年2月7日

【「食の物流ネットワーク整備プロジェクト」助成選定委員会】

2021年4月に開始し、2024年3月までに完了するプロジェクトが、本事業の助成対象。(3カ年事業のみ) 下記の解決に向けて、物流ネットワーク整備の一環として「ロジスティック拠点」を担い、「ハブ拠点」を設置することで、食支援活動を行う地域の団体を圏域で支援する中間支援団体

- ◆こども食堂に寄付される食品に多様性が乏しく、子どもの食の乱れの改善に結びついていない現状
- ◆こども食堂実施団体の運営基盤が脆弱にもかかわらず自己資金で食品を購入し、活動を続けている現状
- ◆販売されない未利用品を受けとめる物流ネットワークがないことで、食べられる食品が廃棄されている現状

(本事業の中長期目標)

- ・ 企業・NPO・地域住民・行政によって、多様な地域資源が豊饒化するプラットフォームが地域に生まれ、子ども・子育て家庭分野における互助サービスが充実する。
- ・ 「廃棄にしない」食品・物品の利活用のためのロジシステムを通じ、より多くの子ども達へ食支

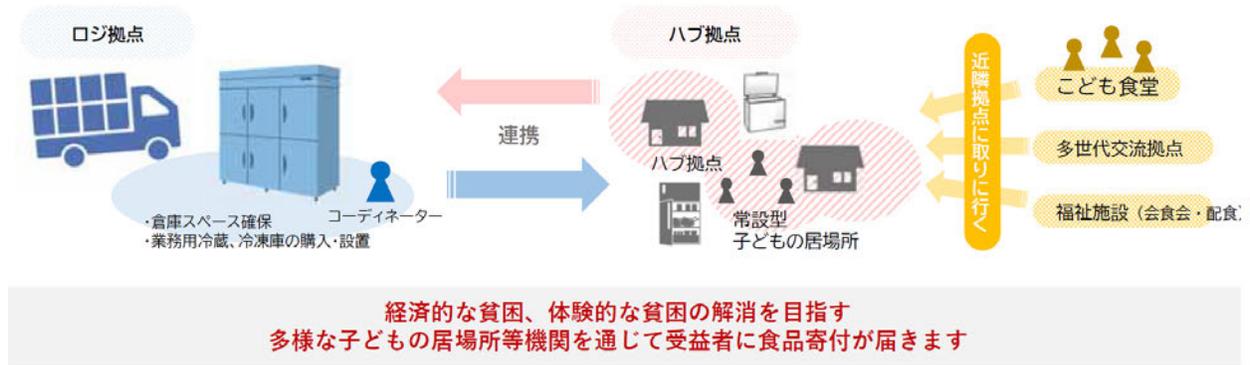
援をはじめとする資源の循環が生まれる。

(ロジスティック拠点 (以下、ロジ拠点) とは)

企業等から寄付食品を受け入れ、適切 (温度・衛生状態・消費期限) に管理し、ハブ拠点への小分け配達作業を担う。

(ハブ拠点とは)

ロジ拠点からの食品を受け入れてストックする、活動団体が取りに行ける場所に設置するランチ



第1回選定委員会 (趣旨説明)	2020年11月21日
第2回選定委員会 (書類選考)	2021年1月24日
第3回選定委員会 (面接選考)	2021年2月7日

【「子ども食堂運営継続 応援プロジェクト」毎日新聞東京社会事業団助成 選定委員会】  
本プロジェクトは毎日新聞東京社会事業団からの寄付助成を受け実施する助成事業です。子ども食堂を運営する団体に対し、安定的な活動に要する経費の一部助成を目的としている。  
申請対象団体：東日本で活動する子ども食堂等居場所 (フードパントリーやお弁当配布を含む)  
対象経費：子ども食堂の運営に要する経費のうち、食材購入費・感染症対策費用など備品購入費、弁当容器代等消耗品費、運営に係る経費全般※但し会場借料、人件費は除く  
助成総額：300万円 (1件6万円)

選定委員会 2021年2月7日

【日本財団寄付情報システム構築プロジェクト：システム開発委員会】  
企業等の大規模組織から地域の小規模団体への食品寄付や未利用食品の活用ができる情報システムの整備・システム開発委員会の立ち上げ

第1回 システム開発委員会	2020年11月4日
第2回 システム開発委員会	2020年11月26日
第3回 システム開発委員会	2020年12月16日
第4回 システム開発委員会	2021年1月12日

【食フェスタ東京】

コロナにより人との距離が求められる中、改めて「居場所」の持つ力が注目され、今まで見えなかった課題が顕在化し、新しい地域資源とのつながりが生まれた。今回のセミナーでは、そうした様々な立場の方にご登壇いただき、コロナ禍の食育、助成の活用、活動方法や連携について議論を実施。池本専務が分科会のファシリテーターを務めた。

食フェスタ東京

2020年11月22日

【「広がれ、こども食堂の輪！」推進会議】

「広がれ、こども食堂の輪！」推進会議は、子育てひろば、冒険遊び場、児童館、母子生活支援施設など多様な機関がゆるやかに連携し、活動を支える仕組みの構築を目指し定期的に会議を開催。

第5回推進会議	2020年7月10日
第6回推進会議	2020年8月17日
第7回推進会議	2020年10月16日
第8回推進会議	2020年11月30日
第9回推進会議	2021年2月16日



## 2. 社会的経済セクターの協働事業

### 2-1. 人材育成研修の実施

特定非営利活動法人等で働くスタッフの人材育成研修は企業と比べ充実していないため、キャリア形成を含め、特定非営利活動法人等のスタッフの人材育成事業(関連団体とのネットワークおよび情報交換、講師派遣を実施)。

【目標】年4回開催

【結果】1回実施

2021年1月9日 チャレンジいばらき県民運動主催コミュニティワーク実践講座事業

主催：NPO法人 セカンドリーグ茨城

テーマ：交渉・行政との協働

■専務が講師として参加。



### 2-2. 政策提言のためのプラットフォーム運営

社会課題(地域共生、子どもの貧困、震災復興等)に取り組む事業者と連携し、現状の制度では対応できない事例を集め、NPO、生活協同組合、労働組合、共済、社会的企業等社会的経済セクター等のステイクホルダーが集まり、政策提言のためのプラットフォーム(※4)を形成し、課題解決のための政策を検討する場を設ける。

#### 【通常のプロセス】

1. 制度提案をするタイミング(選挙や毎年の概算要求の前など)に、運営委員や参加団体に対して、現状の制度では対応できない課題を募集する。
2. 集まってきた課題を集約し、提言の形にまとめる。
3. まとまった提言を制度作りに係る人たち(候補者、役所の担当部局)などに届ける。
4. 必要に応じて公開シンポジウム等を開催する。

※4 2011年に発足した政策提言プラットフォーム「市民キャビネット」の事務局の運営を当団体が担い、各ステイクホルダーへの働きかけや意見調整、関係機関(行政機関・議員を含む)への働きかけを行っている。また2017年に発足した首都圏若者サポートネットワークも各地域のアフターケアの課題を政策提言していくプラットフォームとしての機能を持つ。

## 1 「広域的地域間共助」第8回推進協働型災害訓練 in 杉戸への参画

東日本大震災においては、都市と農村の交流連携や姉妹都市・友好都市連携など、地域活性化や地域振興を目的とした遠隔地との連携・交流の取組がきっかけとなって被災地の支援活動に発展するなど、平時に構築した連携の枠組みが有事の助け合いにおいて効果的に機能を発揮した。本法人理事団体の NPO 埼玉ネット、一般社団法人協働型災害訓練は行政間、行政と NPO・市民団体（以下 NPO 等という）との連携を支援し多数の広域的な地域間の相互支援（共助）活動を進めてきた。このような取組を有効に機能させるために、常日頃から連携する地域同士が「顔の見える関係」づくりを継続的に進めておくとともに、いざという時の手厚い支援に繋げるために、行政関係者のみならず、地域住民や企業、NPO 等など幅広い関係者を巻き込み、多様な階層が重層的な連携体制を構築することが必要と考え協働型災害訓練に参画した。今回の訓練は新型コロナ感染拡大を受け、現地と ZOOM、Youtube を活用したハイブリッド形式で開催。



【事業主体】埼玉県杉戸町、福島県富岡町・川内村、（一社）協働型災害訓練、NPO 埼玉ネット

【参加者数】 延べ180名（オンライン参加含む）

### 1 日目

- ・ 災害対策本部訓練（日本防災教育訓練センター・ ████████ 氏）
- ・ 著書「マンション防災の新常識」から（防災コンサルタント・ ████████ 氏）、
- ・ コロナ禍における地域連携医療支援（東埼玉総合病院・ ████████ 氏）、
- ・ 郷土史から読み解く災害の避け方（防災科研・ ████████ 氏）、
- ・ 近年の水害と BSP（災害リスク研究所・ ████████ 氏）

## 2 日目

- ・活動の要ファンドレイジング (佐賀未来創造基金、                    氏)
- ・真備町で家族を救う活動 (ペアレント・サポートすてっぷ、                    氏)
- ・クライスマッピングとドローンボード (青山学院大・                    氏)
- ・DMTC 活動報告と ICS 講座 (東大生研、                    氏)
- ・IPW 版 CDT と協働型災害訓練 DX (立正大、                    氏)

### 2-3. 社会課題解決に取り組む事業者の情報発信支援

ホームページ (年 12 回程度)、メールマガジン (月 1 回)、インターネット放送 (月 1 回) 等情報発信支援のツールを用意し、社会課題解決に取り組む事業者の活動を全国の中間支援 NPO 等に紹介しました。

#### 1 メールマガジン

通常版：月 1 回発行・臨時号：随時

#### 2 イベント

今年度はコロナのためリアルイベントでの告知は未実施

#### 3 動画配信

埼玉 NPO 放送局「キミに、つながってテレビ!」、地域情報局「つながレポート SAITAMA」事務局 (                    ) が MC 担当

今年度はコロナのため未実施

### 2-4. 特定非営利活動法人等の基盤強化

特定非営利活動法人等からの起業・運営や会計・税務の相談を随時受け付けるとともに、必要に応じて専門家(当団体の NPO 設立・運営相談インストラクター)による相談業務、法人運営者向けの研修会の開催、支援ツール (NPO 活動保険、会計ソフトウェア、NPO 法人会計日誌等) 提供、特定非営利活動法人等のネットワーキングの場等の支援メニューを通して、特定非営利活動法人等の基盤強化を行う。特定非営利活動法人の起業・運営や会計・税務等の相談会や研修会は、当団体が主催して実施し、実施に際して、NPO 支援東京会議(※5)に所属している税理士、公認会計士の先生方などに講師や相談員を依頼している。

※5 NPO 支援東京会議は、NPO 支援組織や公認会計士、税理士、社会保険労務士、行政書士などの有志により、専門家の立場から NPO や市民活動団体に対する団体運営や日常的な実務のサポートを東京都内を中心に行う団体で、当団体が事務局を担っている。

#### 1 支援ツールの提供による機能強化

専門家派遣や講演会、NPO 支援ツールの販売等を継続して行う。

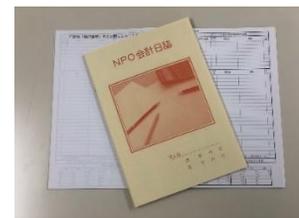
【専門家による起業・運営相談 (会計・税務)】

目標：5 団体 結果：0 団体 (コロナのため未実施)

【支援ツールの普及 (NPO 活動保険、会計ソフトウェア等の販売)】

NPO 活動保険 (保険代行社、あいおいニッセイ同和損害保険)

N-books 紹介 (問い合わせ対応)



チャリティ自販機の設置（生活科学運営、生活クラブ風の村等）  
会計日誌等ツールの販売（販売冊数は652冊）

2 NPO 支援東京会議の事務局運営  
NPO 支援東京会議（会計士、税理士等の専門家ネットワーク）の事務局。  
【定例セミナー】年0回

今年度はコロナのため未実施

### 3. ユニバーサルな地域社会づくり事業

#### 3-1. 志縁をつなぐ文化芸術活動の実施支援

普段 NPO 活動に接点を持たない住民が、地域で活動している NPO を知り、地域における関係構築を志縁(支援)することを目的に、地域の NPO 等がアーティストと連携した、チャリティコンサート等の文化芸術活動(文化祭)の開催支援を実施する。

【目標】ぬちゆいトークライブを1回開催

【結果】本年度は未実施。来年度以降、首都圏若者サポートネットワーク主催として「若者おうえん基金」を呼び掛けるような企画・開催をトキコ・プランニングと協議中

#### 3-2. 困難を抱えた子どもたちへのコンピューターサイエンス教育の機会を提供

2020 年から小学校においてプログラミング教育が必修化され、プログラミング体験を通してプログラミング的思考を育み、また身近な問題発見・解決にコンピュータやソフトウェアの働きを活かし、よりよい社会を創っていく態度を養成することが期待されている。しかし、現時点では子どもたちがプログラミングに接する機会は限定的であり、地理的、或いは、環境的な差異なく、プログラミング体験の機会を提供することが急務となっている。

このような状況を踏まえ、プログラミング体験および、デジタルなものづくりを通じた問題発見・解決を目指すツールとして、世界的に人気のある「Minecraft」を活用し、全ての子どもたちがプログラミング教育や、デジタルなものづくりに触れる事のできる機会創出を行っていくことを考え、特に、“届き辛い”とされる子供たちに対しては、技術者と支援者とが連携したサポート体制を組むことで、作品づくりにチャレンジする環境創りを行う。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響から個人参加の形で開催。表彰式もオンライン上で開催しライブ配信を行った。





**【大会テーマ】**

「未来の学校～ひとりひとりが可能性に挑戦できる場所～」

将来どんな学校になったらいいか？教室・体育館・音楽室・運動場など、学校の施設は将来どんな形になっているか？” Society5.0” ” 持続可能な開発目標（SDGs）” など、未来を考えるテーマを元に構想を広げて「Minecraft: Education Edition」のワールドで表現する。

**【大会概要】**

応募期間：2020年7月22日(水)～11月23日(月・祝)

参加対象：2021年3月31日時点で18歳以下の個人

各部門：

小学生低学年部門：9歳（小学3年生）以下

小学生高学年部門：9歳（小学4年生）から12歳（小学6年生）

中学生部門：12歳（中学1年生）から15歳（中学3年生）

高校生部門：15歳（高校1年生）から18歳（高校3年生）

**【後援】**

文部科学省、総務省、経済産業省

**【表彰式】**

2020年2月21日（日）

**【審査委員】**

■■■■■（東京大学教授、慶應義塾大学教授）

■■■■■（プロフェッショナルラグビーコーチ）

■■■■■（動画クリエイター）

■■■■■（株式会社インプレス「こどもとIT」編集記者）

■■■■■（王立英国建築家協会名誉フェロー建築家）

■■■■■■■■■■ (プロマイクラフター、マイクロソフト認定教育イノベーター (MIEE))  
コロコロコミック編集部

【アドバイザー】

■■■■■■■■■■ (全国子どもの貧困・教育支援団体協議会 代表幹事)  
■■■■■■■■■■ (日本教育情報化振興会会長、ICT CONNECT 21 (みらいの学び共創会議) 会長)  
■■■■■■■■■■ (東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 会長代行・自民党 2020 オリンピック・パラリンピック東京大会実施本部長)  
■■■■■■■■■■ (元サッカー日本代表監督)  
■■■■■■■■■■ (UUUM 株式会社 代表取締役 CEO)  
■■■■■■■■■■ (株式会社オリィ研究所 代表取締役 CEO)  
■■■■■■■■■■ (最年長プログラマー)

【技術アドバイザー】

■■■■■■■■■■ (Minecraft 公式プロマイクラフター)

【技術サポーター教員 (マイクロソフト認定教育イノベーター)】

■■■■■■■■■■ 愛知県江南市立西部中学校  
■■■■■■■■■■ 神戸学院大学附属中学校・高等学校  
■■■■■■■■■■ 八王子市立第八小学校  
■■■■■■■■■■ 東松島市立鳴瀬未来中学校  
■■■■■■■■■■ 登米市立佐沼小学校  
■■■■■■■■■■ 千葉大学教育学部附属小学校  
■■■■■■■■■■ 北海道星置養護学校ほしみ高等学園  
■■■■■■■■■■ 埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学校  
■■■■■■■■■■ 徳島大学  
■■■■■■■■■■ 名護市立名護中学校  
■■■■■■■■■■ 東みよし町立昼間小学校  
■■■■■■■■■■ 大田区立大森東小学校  
■■■■■■■■■■ 東京都立多摩桜の丘学園  
■■■■■■■■■■ 東京都立三鷹中等教育学校  
■■■■■■■■■■ 堺市立百舌鳥支援学校  
■■■■■■■■■■ 多久市立西溪校  
■■■■■■■■■■ 那須町教育委員会学校教育課  
■■■■■■■■■■ 札幌学校 ICT 活用勉強会  
■■■■■■■■■■ つがる市立育成小学校  
■■■■■■■■■■ 加東市立東条中学校  
■■■■■■■■■■ 高槻中学校高等学校

【主催】

Minecraft カップ 2020 全国大会運営委員会

(構成団体：ICT CONNECT 21、日本マイクロソフト、ユニバーサル志縁センター)

運営委員長：■■■■■■■■■■、運営委員：■■■■■■■■■■ 監事：■■■■■■■■■■

【参加について】

エントリー数：1,770人

応募数：483作品

【入賞】

※ファイナリストの詳細一覧は別紙5参照

賞名	授与作品	
・大西一平賞	1094_	光る学校
・Kazu賞	1010_	ゆっぴースクール
・神谷加代賞	3009_	未来地区小学校
・鈴木寛賞	2037_	未来の学校
・タツナミシュウイチ賞	2040_	電気学校
・高崎正治賞	2128_	未来の学校
・ココロコミック賞	1049_	天空の学校
・Microsoft賞	2032_	Sea school
・小学校低学年部門 優秀賞	1023_	レッドストーン小学校
・小学校高学年部門 優秀賞	2205_	エネルギーが学べる学校
・中学生部門 優秀賞	3081_	未来の学びの島
・高校生部門 優秀賞	4018_	科学と社会の学校
・大賞	2206_	未来への5つの約束



(大賞：未来への5つの約束 ～キレイな水と溪谷の洞窟学校～)

【特別な支援が必要な団体の参加サポート】

“すべての個人とすべての組織が、より多くのことを達成できるようにする”という Microsoft のミッションを実現するために、Minecraft カップでは、子どもたちの学びの場をサポートする団体と協力して、Minecraft をつかった学習のサポートを実施。

特別サポートを行った団体

- ・NPO 法人青少年自立援助センター YSC グローバルスクール
- ・NPO 法人 さいたまユースサポートネット
- ・NPO 法人アスイク

○特別支援団体で Minecraft を体験した人数

約 57 名 (13 拠点)

○特別支援団体での大会エントリー人数

計 26 名

○特別支援団体での大会応募人数

計 14 名

#### 【教育効果】

一般社団法人次世代教育・産官学民連携機構によるループリックに基づく教育効果評価を実施。

(別紙 4) Minecraft カップ 2020 全国大会報告書 (速報版)

(別紙 5) Minecraft カップ 2020 全国大会ファイナリスト一覧

(別紙 6) Minecraft カップ 2020 全国大会ループリック評価レポート

## 4. ユニバーサルなはたらく場づくり支援事業

### 4-1. ユニバーサル就労の普及

ユニバーサル就労(障がいがあったり、生活困窮状態にあるなど、様々な理由で働きたいのに働きづらいすべての人が働けるような仕組みを作ると同時に、誰にとっても働きやすく、働き甲斐のある職場環境を目指していく取り組み)に取り組む企業団体(※6)を増やすための普及啓発事業(シンポジウム、メールニュースの配信、イベント等での展示、各種メディアの取材対応 等)を実施する。

※6 ユニバーサル就労に取り組んでいる、NPO 法人ユニバーサル就労ネットワークちば、社会福祉法人生活クラブ風の村と連携している。

#### 【活動内容】

2020 年 12 月 22 日一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク九州・沖縄ブロック研修「自立相談支援事業評価ガイドライン作成・検証事業から考える事業拡充に向けた方策」協力。

### 4-2. ユニバーサル就労を推進するための調査、研究、政策提案

ユニバーサル就労等を地域社会において推進するために、これまで取り組んできた「生活困窮者自立支援制度における就労準備支援事業の評価ガイドライン」「自立相談支援事業の評価ガイドライン」を踏まえた調査、研究、政策提言を行う。

※厚生労働省平成 27 年度社会福祉推進事業生活困窮者自立支援法における就労準備支援事業評価ガイドライン作成事業

※厚生労働省平成 28 年度社会福祉推進事業就労準備支援事業評価ガイドライン検証事業

※厚生労働省平成29年度社会福祉推進事業自立相談支援事業評価ガイドライン作成・検証事業  
※厚生労働省平成30年度社会福祉推進事業自立相談支援事業評価実践ガイド普及展開方法検討事業

【活動内容】

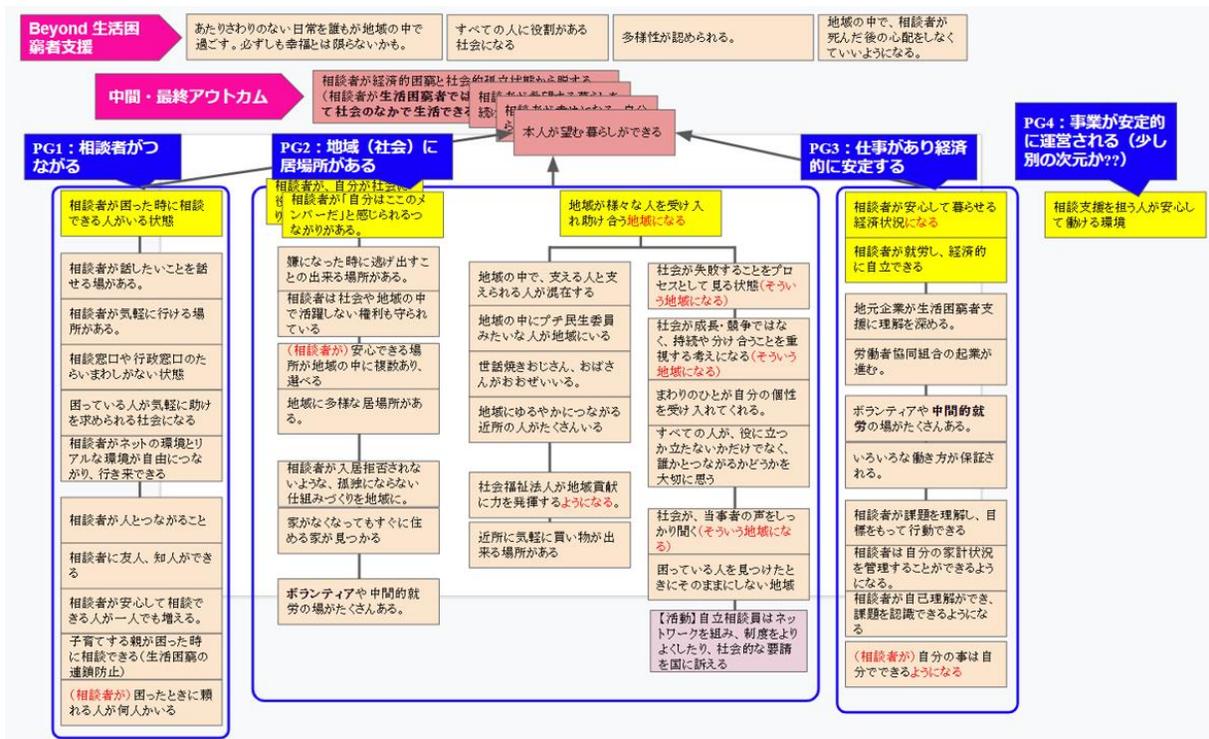
文部科学研究基盤研究B・補助事業「福祉課題への変革プログラムに取組む実践家と組織の評価キャパシティ形成支援法の開発」研究プロジェクトに参画し、厚生労働省社会福祉推進事業で作成した自立相談支援事業評価ガイドラインの改善作業を行う。

プロジェクトメンバー

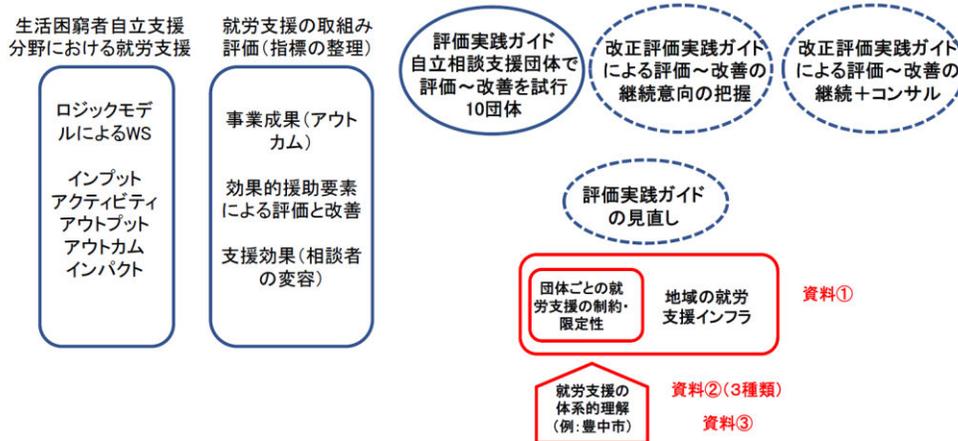
- 日本社会事業大学 ■■■氏
- 群馬医療福祉大学 ■■■氏
- A' ワーク創造館 ■■■氏、他

2021年2月8日 千葉県内生活困窮者自立支援事業関係者向け自立相談支援事業評価ガイド説明  
2021年3月2日 自立相談支援事業評価ツールバージョンアップのためのワークショップ

(参考) ワークショップで作成したロジックモデル



(参考) ■■■氏作成資料



#### 4-3. ちばユニバーサル農業フェスタ 2020 の広報を実施

本年度は「ちばユニバーサル農業フェスタ」の広報としてメールマガジン・ホームページ・SNSの掲載、11月23日NPO防災訓練 in 日進等で広報を実施した。

【期間】2019年4月から12月



### 5. 大規模災害時における復興支援活動事業

#### 5-1. 復興活動に取り組む支援団体とのネットワークおよび情報交換、コーディネート等

東日本大震災や熊本地震等、大規模災害時に復興支援活動を行うとともに、復興支援活動に同様に取り組んでいる団体と意見交換の場を開催する(※7)。また、企業等(※8)による被災地支援におけるコーディネートを行う。

※7 東日本大震災支援全国ネットワークには、当団体が世話団体として参画

※8 企業等による被災地支援におけるコーディネートは当法人単独の事業として実施、これまでに、日本ヒューレット・パッカー社の福島県の高校等への社会貢献活動のコーディネート、日本マイクロソフト社による熊本市の避難者支援システムくまもと R ネットにおける協働事業、などに取り組んでいる。ほか、当団体が行ってきた復興支援 IT ボランティアにおいては、文部科学省、ヤフー株式会社、株式会社バッファロー、デル株式会社、一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)、株式会社NTTドコモ、KDDI株式会社などと協働している。

【東日本大震災支援全国ネットワーク】

本年度も東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)に、世話団体として参画。

【Voice from 3.11】

JCNが中心となって実行委員会形式で開催するVoice from 3.11の実行委員に[ ]専務が参画。

・Voice from 3.11 主旨

2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災（以下、3.11）から10年が経過します。社会的な節目となる2021年3月に、被災された方や避難を余儀なくされた方、そしてその人々を支えてきた支援者や心を寄せてくれた方々と共にこの10年を振り返り、それぞれのことばに耳を傾けることで、3.11という事象について広く知って頂く機会に、そしてその経験と教訓を未来へとつなげる機会にしたいと考えています。

・Voice from 3.11 目的

社会的節目となる震災10年を機に、一人ひとりの復興に向けた取り組みの中で、被災された方や避難を余儀なくされた方、その人々を支える支援者、私たちが経験して気がついたことや大切にしてきた「それぞれの言葉」を広く伝えていくと共にアーカイブ化を図ります。そして地震と津波、原発災害によって及ぼした大きな課題とその解決に向けた取り組みを振り返り、このような惨劇を繰り返さないために、多くの方と共に考え、震災での教訓・気づきを、次の世代につなげ、社会化していくことを目的とします。

・Voice from 3.11 主な事業

①ことばの集い（被災者・避難者・支援者の声のアーカイブ化事業）

内容：これまでの思いやこれからの願いを「ことば」として集め、WEBサイトで発信

期間：2020年秋～2021年3月

方法：①WEBへの直接投稿（つぶやき）<https://voicefrom311.net>

②インタビューによる掲載（インタビューレポート）

③証言集を集めたページの設置

対象：①被災された方々の声

②避難されている方々の声

③支援に携わっている方々の声

寄せられた声はTwitterでも発信。@voicefrom311 | <https://twitter.com/voicefrom311>

②みんなの集い（メモリアルイベント事業）

内容：①フォーラムの開催（オンライン開催が前提）

キーノートスピーチの実施/分科会の実施（5～6テーマ）

②わたしたちの宣言：3.11「ことばの集いで集めたことば」から大切なことを紡ぎ、宣言する

日時：2021年2月11日（木）終日

場所：東京都内から開催（オンライン開催）

対象者：東日本大震災に関心ある人（誰でも）/200名予定

③つながりの集い（つながりの再構築事業）

内容：特定の地域の日を設けて、オンラインでその地域の住民や支援団体、その地域に関わった支援団体、企業、ボランティア等が集まれる場を作ります。新型コロナウイルスの影響により人との接触が制限され、改めて人と人のつながりや対話の大切さが見直されている中、被災した地域とそこに関わった人をつなぎなおし、お互いが元気になる場を作ります。

日時：2021年1月から随時

場所：オンライン上で開催

④それぞれの集い～わたしたちの思いと願い～

内容：2011年3月11日14時46分に発生した「東日本大震災」から今年2021年3月11日で10年が経過し、社会的な節目となるであろう2021年3月に先立ち、被災された方や避難を余儀なくされた方、そしてその人々を支えてきた支援者や心を寄せてくれた方々と共にこの10年を振り返り、それぞれのことばに耳を傾け、その経験と教訓を東北の未来へとつなげる機会として、座談会形式でVoice from3.11～わたしたちの思いと願い～「それぞれの集い」を開催。コロナ禍の中だからこそ、東北の被災者の声に耳を傾け、東北の未来についてみんなで集い、東北のこれからについて考えたいと願って企画。■■■■専務が座談会に参加。

日時：2021年3月18日（木）18:30～20:30



【協働型災害訓練】

2-2において詳細掲載。東日本大震災の経験と教訓を生かすべく、平成25年度国土交通省広域的地域間共助推進事業としてスタートした「協働型災害訓練 in 杉戸」に本年度も協力。市民キャビネット災害支援部会、(一社)協働型災害訓練、NPO埼玉ネットが中心に取り組み復興支援活動の報告や防災訓練等を実施。大規模災害時には一人でも多くの命を助けるために、効率と統一された災害対応が必要になるが、この訓練では米国で誕生したICS（アイシーエス※）を用い、将来発生し得る大規模災害発生時に即時助け合いの対応ができる仕組みをつくることを目指し活動を行っている。※Incident(現場)Command(指揮)System(システム)の略

【企業の社会貢献活動支援】

日本マイクロソフト株式会社における10年間の振り返りに連携パートナーとして参加。

5-2. 地域コミュニティ活動支援

専門家と連携し地域における防災教育システムを用意し、公民館や仮設住宅・復興住宅の集会所等を軸としたコミュニティの活性化のための支援事業を被災地の支援団体と連携し取り組む。

①東日本大震災復興支援

2011年より実施してきた復興支援ITボランティアで関わった大槌町、大船渡市、陸前高田市の関係者と当時学生であったボランティアリーダーと一緒に震災から10年の節目のタイミングということで、2021年度交流イベントを実施することを企画。

【ITボランティア大交流会～震災後10年企画】

2021年3月11日で東日本大震災の発生から10年という節目を迎えるにあたり、ITボランティアでも現地との情報交換を通じ、交流の維持・活性化を図るイベントを実施する。

・主旨・目的

交流維持・活性化（主な活動地との交流維持・活性化／参加メンバー同士の交流維持・活性化）

情報整理・情報交換（活動地の現状の認識・発信／IT ボランティアの活動の振り返り）

・日時：2021年6月以降の土日 14時～16時※16時～17時はZoom上で各自での懇談可

・交流地域：①【大槌伝承館】岩手県上閉伊郡大槌町

②【長洞元気村】岩手県陸前高田市広田町長洞地区

③【末崎】岩手県大船渡市末崎町

・東京側拠点：霞が関ナレッジスクエア スタジオ

・交流手段：Zoom ミーティング

・声掛け対象者：過去に活動した社会人・元学生、スポンサー企業関係者

・主催

IT ボランティア震災後10年企画 実行委員会（母体：復興支援 IT ボランティア）

公益社団法人ユニバーサル志縁センター

・協力

霞が関ナレッジスクエア

（母体：一般財団法人高度映像情報センター(AVCC)）

### 5-3. 地域における震災を踏まえた調査研究

地域における震災を踏まえた調査研究を行なう。また、その成果を学会等のシンポジウムやポスター展示等で発表する。

【結果】本年度は未実施。

## 6. 機関運営（総会、理事会、事務局体制）

### 1 総会

2020年8月20日16時30分～（新型コロナウイルス感染拡大防止のためみなし総会）

### 2 理事会

第1回理事会 2020年5月23日13時～13時15分 若者おうえん基金コロナ枠助成先承認

第2回理事会 2020年6月30日13時～13時15分 定例

第3回理事会 2020年8月18日15時～ 定例

第4回理事会 2021年1月29日13時～13時15分 第3回若者おうえん基金助成先承認

第5回理事会 2021年3月12日10時～12時 定例

### 3 事務局体制

常勤3名（XXXXXXXXXX）

## 7. 資金状況報告

別紙

## 8. その他

公益社団法人ユニバーサル志縁センター  
2021年度事業報告(案)

<はじめに>

2022年2月24日にロシア連邦がウクライナ侵攻を開始し、平和に暮らしていた人々の生活が一変し、戦闘によって多くの方が犠牲となりました。軍事的な侵攻と武力による攻撃に対して、強い抗議の意思を表明します。また、ご家族や住む場所を失い、いまだに避難を余儀なくされている多くの方々に対してこの場を借りて謹んでお見舞いを申し上げますと共に当センターにおいても出来る限りのことに取り組んでまいりたいと思います。

2021年度は、新型コロナウイルス感染の広がりが収束せず、当センターの会員・理事の皆様のご生活にも影響が及び、所属されている団体に置かれましても昨年度に引き続き対応に迫られたことと思います。当センターは多くの皆様からの援助をいただくことで、事業を推進することが出来ました。本当にありがとうございました。冒頭、本年度特に重点を置いて取り組んだ3つの事業を紹介させていただきます。

1つ目は子ども・若者の自立支援活動です。今年度は定例で実施する「第4回若者おうえん基金助成」に加えて、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大を受け、日本ライフライン(株)や匿名個人の寄付を活用させていただき「若者おうえん基金新型コロナ緊急助成2021」を実施しました。またJANPIA 新型コロナウイルス対応緊急支援助成を活用し全国の社会的養護で育つ(育った)若者たちを伴走支援する団体に助成を行いました。このような活動の広がりを受け、2022年児童福祉法改正に向けて、関係団体にアンケートを実施し、2021年6月「社会的養護出身者など困難な環境にある若者の自立を支援する事業の制度化に向けた政策提言～2022年児童福祉法改正への提言～」を提出しました。

2つ目は厚生労働省「令和3年度生活困窮者及びひきこもり支援に関する民間団体活動助成事業」です。生活困窮者自立支援制度を契機に機能強化が図られてきた「地域の就労支援」について、関係する部署や機関・団体等が参加するワークショップを通じて、改めて就労に関するニーズや対象者像、既存の活動や期待する取組み、それらを通じて実現する目標(アウトカム)を「見える化」する取組みを試みました。その上で相談や支援プログラムの充実、企業等との関係づくりなどの活動・事業について地域ごとに体系化し、内発的な「就労支援の機能強化」を促進することを目的としました。具体的には6自治体の参加を得て、自立相談支援機関や自治体、社協コミュニティソーシャルワーカー、福祉施設、医療ソーシャルワーカー、保護司、外国人支援団体、協力事業所・企業等による参加型ワークショップを行い、体系化した改善課題に応じてコンサルテーション(発達障害ボーダー層の相談、体験プログラムの作成、事業所との関係づくり等)、解決のための活動に伴走しました。

3つ目はMinecraftカップ2021全国大会を通じた困難を抱えた子どもたちへのコンピューターサイエンス教育の機会の提供です。2020年から小学校においてプログラミング教育が必修化され、GIGAスクール構想の推進やオンライン授業が普及する中でICT教育のニーズが高まる中で、昨年引き続きプログラミング体験および、デジタルなものづくりを通じた問題発見・解決を目指すツールとして、世界的に人気のある「Minecraft」を活用し、全ての子どもたちがプログラミング教育や、デジタルなものづくりに触れる事のできる機会創出を行っていくことを考え、Minecraftカップ2021全国大会を実施しました。マイクロソフト社からの助成が終了し、新たにパートナーとして積水ハウス(株)、日本ユニシス(現BIPROGY(株))、三菱地所(株)、農林中央金庫を迎え、参加人数3,084名、応募作品数484作品が集まり、全国5ブロックで予選を行い、2022年1月に無事

最終審査会、授賞式を開催することが出来ました。

今年度も、事業を継続することが出来、前述したような緊急助成や制度改正に繋がる政策提言を推進できたのは会員団体、理事団体の皆様との活動の連携の成果であり、この場を借りて御礼申し上げます。

## ＜当センターの事業内容＞

当センターはNPO法人や社会福祉法人、労働組合、生協等の協同組合、社会的企業も含めた社会的経済セクターがゆるやかにつながることにより、子ども・若者の自立支援、社会的経済セクターの協働、ユニバーサルなはたらく場づくり支援、大規模災害支援等によって、誰にとってもユニバーサルな地域社会づくりに寄与する5つの事業を行う。

## 1. 子ども・若者の自立支援事業

### 1-1. 子ども・若者等の自立を支える支援の仕組みの構築

児童養護施設在籍児の高等学校卒業後の進学率は全高卒者の割合に比べ著しく低く、進学しても一般の学生に比べ中退率も高い。退所後は生活等で困難に直面した際には家族の後ろ盾もない。そのような子ども・若者が自立していくために学識経験者や支援団体の関係者等が参画する首都圏若者サポートネットワーク運営委員会(※1)を組織し、以下の1～3の活動を行うほか、休眠預金を活用し、支援の仕組づくりの範囲を全国に広げていった。

※1 首都圏若者サポートネットワーク運営委員会は、当団体が推進する首都圏若者サポートネットワークおうえん基金事業の諮問機関であり、当団体の内部組織。

1. 首都圏若者サポートネットワーク 若者おうえん基金の運営
2. 就労・キャリア支援
3. 調査研究・政策提言

また、「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」(休眠預金等活用法)に基づき、2009年1月1日以降の取引から10年以上、その後の取引のない預金等(休眠預金等)を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度が2019年度から始まった。休眠預金等活用法に基づく助成金事業を活用した事業を当団体でも実施していくことにつき、第2次5か年計画委員会で議論がなされたことを受け、以下の活動を開始した。

### 4. 休眠預金等活用法に基づく助成金事業

#### 1-1-1. 首都圏若者サポートネットワーク 若者おうえん基金の運営

困難に直面する子ども・若者たちに伴走する支援者(退所児童等アフターケア事業、自立援助ホーム等のスタッフを想定)は行政からの補助金で主たる活動を行っており、使途の制約があるため子ども・若者の相談内容によっては補助金を活用できず自己資金やスタッフの自腹で対応する場合がある。そのため昨年度補助金とは異なる支援者にとって使い勝手の良い資金が継続的に集まる若者おうえん基金を創設し、公募を行い、基金に集まった寄付金額に応じて支援者への助成を行った。支援者による支援の対象者は、首都圏(東京都、埼玉県、神奈川県)の支援者が伴走可能な、措置経験の有無に係らず支援が薄い若者(おおむね30歳未満)とする。支援者は支援対象者と相談して支援申請を決める。

## (1) 2021年度新型コロナウイルス助成の実施

### 【趣旨】

日本ライフライン株式会社や個人の方からの寄付金を元に実施。

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、若者おうえん基金の助成先団体より、厳しい現況について報告を受け、感染予防や様々な活動自粛の影響を資金面で支える目的で、社会的養護からの自立支援を行う「伴走者」に対して、若者おうえん基金による緊急支援が必要と判断し新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急助成事業を実施した。

### 【対象】

全国の社会的養護の下に暮らす（暮らした）子どもたちをはじめ、社会的自立が困難な状況に置かれているおおむね30歳までの子ども・若者達を支援する「伴走者」

### 【対象事業】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により困難な状況をきたしている当事者への緊急支援を行う活動

### 【実施時期】

第一次公募期間（4月21日～5月10日）

第二次公募期間（5月11日～6月3日）

### 【助成金額】

全国の59団体へ、総額11,079,700円の助成を実施

## (2) 第3回若者おうえん基金助成報告会の実施

若者おうえん基金の活動を広く知らせることを主な目的に実施

日時：2021年7月31日(土)

主催：首都圏若者サポートネットワーク

共催：生活クラブ連合会

当日配信動画：第3回若者おうえん基金活動報告会 <https://youtu.be/xQtPP4EqEAY>

※当日の内容から公開可能な内容のみの公開。

### 【スケジュール】

#### ■第一部

開会挨拶

■■■■■（首都圏若者サポートネットワーク 顧問）

基調講演～2022年児童福祉法改正への政策提言～

若者おうえん基金2020年度活動報告

第2回若者おうえん基金助成先団体 助成事業活動報告

・先駆的实践枠 自立援助ホーム 樹の下ホーム 埼玉県

第一部総括コメント

■■■■■（首都圏若者サポートネットワーク運営委員・若者おうえん基金助成選考委員、生活クラブ連合会会長）

#### ■第二部

第3回若者おうえん基金助成先団体 助成事業内容報告

・先駆的实践枠：一般社団法人 コンパスナビ 埼玉県

・伴走支援枠・先駆的实践枠：一般社団法人 Masterpiece 東京都

第二部総括コメント

■■■■■ (首都圏若者サポートネットワーク運営委員・若者おうえん基金助成選考委員、生活クラブ連合会会長)

閉会挨拶

■■■■■ (首都圏若者サポートネットワーク 顧問)

### ■その他報告団体

第2回若者おうえん基金助成先団体 助成事業活動報告

・NPO法人 ヒューマンフェロウシップ 神奈川県 (伴走支援枠)

第3回若者おうえん基金助成先団体 助成事業内容報告

・自立援助ホーム home 神奈川県 (伴走支援枠)

・特定非営利活動法人 パノラマ 神奈川県 (先駆的实践枠)

### (3) 若者おうえん基金の基金造成活動

【寄付金募集期間】 2021年1月1日から12月31日まで

【基金造成のキャンペーン期間】 2021年9月から12月まで

### ■生協組合員からの寄付

生活クラブ東京、生活クラブ埼玉、生活クラブ神奈川

2021年9月から3か月キャンペーン期間を設けて実施

### ■第4回若者おうえん基金クラウドファンディングの実施

第4回若者おうえん基金助成事業の基金造成のためクラウドファンディングを行った。

実施期間：2021年8月27日から11月25日

達成金額：8,356,000円

寄附者：602人

クラウドファンディング記事の配信：

・JETBOOK 作戦代表 ■■■■■さんインタビュー

<https://readyfor.jp/projects/wakamono2021/announcements/191761>

・これまでの助成先団体紹介

寄付金控除型 #社会にいいこと #子ども・教育 #医療・福祉 #人権 #マイノリティ #貧困 #寄付金控除型 #新型コロナウイルス

### 養護施設や里親の下で育った若者をサポートする若者おうえん基金

若者おうえん基金



寄付総額

8,356,000円 目標金額 5,000,000円

寄附者 602人 募集終了日 2021年11月25日

フォローする

プロジェクトは成立しました!

終了報告を読む

シェア ツイート LINEで送る noteで書く

・応援コメント掲載 など

■チャリティ自販機

(伊藤園自販機)

5台：生活クラブ風の村、山九(株)

3台：(株)石井鐵工所

1台：パルシステム 熊谷セットセンター、くらしサポート・ウィズ、かどや製油(株)、のむら産業、          様

(生活クラブ自販機)

7台：生活クラブ飯能デリバリーセンター

■HP、SNS等を通じた寄付の募集

期間：2021年1月～2021年12月

【シンポジウム】

第4回首都圏若者サポートネットワークシンポジウム Live～社会的養護から巣立った若者を地域で応援する～

■開催概要

日時：2021年10月10日(日) 13時00分～16時00分

配信URL：<https://youtu.be/WrKRrpRC4DY>

参加費：無料

■プログラム

第一部

講演「首都圏若者サポートネットワーク活動報告」(13:00～14:20)

1. 開会挨拶(13:00-13:05)

- ・首都圏若者サポートネットワーク運営委員長

           (放送大学 名誉教授、千葉大学 名誉教授)

2. 共催団体挨拶(13:05-13:10)

- ・生活クラブ連合会 会長

           (首都圏若者サポートネットワーク運営委員、若者おうえん基金助成選考委員)

3. 基調講演 「学校でしか出会えない子どもたちへのアウトリーチ支援の実践について」(13:10-13:45)

- ・特定非営利活動法人 パノラマ 代表理事            (先駆的实践者)

- ・コメント

首都圏若者サポートネットワーク 顧問

           (内閣府(孤独孤立対策)参与、津田塾大学客員教授)

4. 首都圏若者サポートネットワーク活動報告(13:45-14:20)

- ・首都圏若者サポートネットワーク活動報告：若者おうえん基金助成、体験就労、政策提言

- ・社会福祉法人 青少年と共に歩む会 自立援助ホーム 経堂憩いの家

           (伴走支援者)

第二部

シンポジウム「社会的養護から巣立った若者を地域で応援する」(14:30～16:00)

5. 協同組合による地域での取り組み報告(14:30-15:10) ※順不同

- ・一般財団法人コープみらい社会活動財団理事長 (生活協同組合コープみらい副理事長)

- ・パルシステム生活協同組合連合会 地域支援本部総合福祉事業推進室 室長

- ・日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会 理事長

・生活クラブ東京 副理事長 [REDACTED]

6. パネルディスカッション (15:10-15:55)

コーディネーター:

・首都圏若者サポートネットワーク運営副委員長 [REDACTED] (元厚生労働省 障害保健福祉部長)

パネリスト(順不同):

[REDACTED] (一般財団法人コープみらい社会活動財団)

[REDACTED] (パルシステム生活協同組合連合会)

[REDACTED] (日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会)

[REDACTED] (生活クラブ東京)

7. 閉会挨拶 (15:55-16:00)

・首都圏若者サポートネットワーク運営委員 [REDACTED] (公益社団法人ユニバーサル志縁センター代表理事、社会福祉法人生活クラブ風の村 理事長)

■主催・共催・後援

主催 首都圏若者サポートネットワーク

共催 生活クラブ事業連合生活協同組合連合会

後援 全国自立援助ホーム協議会・生活協同組合コープみらい・パルシステム生活協同組合連合会  
日本労働者協同組合連合会

(4) 第4回若者おうえん基金助成事業の実施

造成された基金を元に助成の公募を行う

【目的】

社会的養護の下に暮らす(暮らした)方をはじめ、社会生活が困難な状況に置かれている若者が自分らしく生きるための支援を伴走者と共に行う。

【対象】

社会的養護の下に暮らす(暮らした)方をはじめ、社会生活が困難な状況に置かれている若者への支援を、東京都、埼玉県、神奈川県内で行う「伴走者」。

【助成内容】

- ・伴走支援枠 子ども・若者たちに寄り添う伴走者の経費の補助 (上限 150 万円)
- ・先駆的実践枠 既存の制度では支援や活動が難しい先駆的実践 (上限 300 万円)

【実施スケジュール】

助成団体の公募期間: 2021年9月1日~11月30日

第一次選考会: 2021年12月

第二回選考会: 2022年1月

採択団体決定、助成金交付: 2022年2月~3月

【選考方法】

- ・一次審査: 書類選考
- ・二次審査: 面接

選考委員が必要性、緊急性、信頼性の評価基準を5点満点で評価し、その点数を踏まえて、選考委員の合議の上、理事会で決定しました。

【選考委員】

■■■■ (委員長) 東京経営短期大学  
■■■■ 中核地域生活支援センターがじゅまる  
■■■■ 生活クラブ連合会  
■■■■ 弁護士  
■■■■ 社会福祉法人鶴ヶ島市社会福祉協議会

【広報】

WEB サイト、SNS での周知や、You Tube でのライブ配信イベント等を実施。

【第4回若者おうえん基金助成採択団体】

伴走支援枠

\* 8団体に総額8,227,620円を助成。

助成先団体	所在地	申請内容(主な用途)	金額(円)
一般社団法人Masterpiece	東京都	学費・家賃等の生活支援、定期面会相談など	1,500,000
特定非営利活動法人 DV対策センター	神奈川県	運転免許取得支援など(2名)	600,000
NPO法人神奈川子ども支援 センターつなぐ	神奈川県	住居一時金、生活支援など(8名)	1,500,000
NPO法人一粒の麦 自立援助ホーム マラナ・タ ハウス	東京都	訪問支援をおこなう費用など	475,000
一般社団法人アマヤドリ ステップハウスアマヤドリ	神奈川県	若者支援制度の空白にいる18歳以上の若者に対する自立支援 資金(複数名)	1,496,000
NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク WAKUWAKUシェルター	東京都	住居一時金、家賃支援など	512,300
一般社団法人若草プロジェクト	東京都	大学進学に向けた支援など	760,000
特定非営利活動法人 日向ぼっこ	東京都	大学院生活にともなう生活支援	1,384,320

## 先駆的実践枠

\* 11団体に総額21,160,000円を助成。

助成先団体	所在地	申請内容(概要)	金額(円)
認定特定非営利活動法人 みらいの森	東京都	【継続事業】リーダー実習プログラムに参加した児童養護施設退所者向けの卒業生ネットワーク構築プログラム	1,440,000
特定非営利活動法人 フェアスタートサポート	神奈川県	【継続事業】社会的養護下で暮らす／暮らした子どもたち向けの就職相談・就労体験などのキャリア教育	1,760,000
認定NPO法人育て上げネット	東京都	社会的養護・支援が必要な少年院出院者に対する相談支援・生活支援など	3,000,000
NPO法人子どもセンター・ピッピ 子どもシェルター・ピッピ	埼玉県	主に10代後半の女性を保護し衣食住を提供する子どもシェルター	2,400,000
一般社団法人Hygge 自立援助ホームhome	神奈川県	プレハブ小屋による支援拠点を設置し、学習支援、自立支援、コミュニティカフェ開設をおこなう	2,371,600
NPO法人子ども支援センター つながぐ	神奈川県	虐待や暴力被害から逃れて生活している若者に対し、中長期にわたるアウトリーチ支援をおこなう	3,000,000
NPO法人すみれブーケ すみれハウス	東京都	ケアリーパー向けシェアハウスの基盤整備、自立支援など	1,046,400
NPO法人DV対策センター	神奈川県	男子向け虐待被害者シェルターの運営、常駐の支援員配置とカウンセリング支援	1,500,000
一般社団法人アマヤドリ ステップハウスアマヤドリ	神奈川県	支援制度の空白にいる18歳以上の若者に対する伴走型相談事業と一人暮らしの見守り支援事業	2,392,000
一般社団法人 あまいろソーシャル・オフィス	東京都	児童養護施設の子どもへ退所後の関係性作り、退所者などの若者向けソーシャルワーク	750,000
一般社団法人青草の原 れもんハウス	東京都	新宿の拠点にて困難を抱える若者向けに居場所支援、学習支援などを実施	1,500,000

(5) その他(生活クラブ連合会 2021年度新型コロナウイルス感染拡大下の緊急助成への協力)  
若者おうえん基金の過去採択団体について、申請を希望する団体に推薦を行った。

## 【趣旨】

2020年度新型コロナウイルスの緊急事態宣言による生活困窮者支援として、生産者とつながる生活クラブだからこそできる支援として生活クラブグループと生産者団体の協力により緊急のお米の支援を実施。

その後、組合員、生産者団体からの寄付を募り、生活に困窮している社会的弱者への支援活動を実施している団体に対し助成事業を実施。寄付は26,637,500円と多くの方から寄せられました。コ

コロナ禍の感染は未だに終息せず雇用環境など生活への影響も回復していないため、2021年度も引き続き生活困窮者への方々への支援をこの寄付を原資として助成事業を実施。

【主催】 一般社団法人生活クラブ福祉事業基金

【助成の金額】 1団体上限 30万円

### 1-1-2. 就労・キャリア支援

首都圏若者サポートネットワーク就労・キャリアワーキンググループでは困難に直面した子ども・若者たちが安心して働ける環境を提供できる事業者を開拓し、それらの事業者と連携して、支援対象者にとって就労やキャリア向上につながるインターンシップ、アルバイト、中間就労、一般就労等の機会を用意する。参加する若者には、東京都ソーシャル・エンジェル・ファンド運営事業助成金、パルシステム地域づくり基金を活用し、就労支援金を提供した。協力事業者の開拓・リストアップ、支援対象者と協力事業者のマッチング等を支援対象者の希望に応じて行なった。

#### ■体験就労プログラム

【実施期間】 2021年4月～2022年3月

【エリア】 東京都内全域

【コーディネーター】 一般社団法人くらしサポートウィズ、ワーカーズコープ

【体験就労プログラム概要】

東京都内の主に社会的養護の下に暮らす・または暮らしたことがある、おおむね30歳までの子ども・若者の体験就労マッチング就労体験を希望する場合、1か月以内でニーズがマッチした就労体験の場を用意。その際、当事者向けにその期間働けない分として、1人につき3万円程度の支援金を用意し一定期間就労体験を行なう。受入れ事業所にも受入れ補助金として1.5万円を支払う。体験を希望する側と受入れ側の希望が合わない場合、他の就労体験先を探す。

【相談・体験就労の状況】 面談実施者4名 体験先決定6件、体験終了5件

【就労体験マッチング 受け入れ事業所一覧】

- 一社) よって屋：片付け・引っ越し手伝いなど
- ワーカーズコープ：児童館、高齢者デイサービス
- コープみらい：店舗 品出し等
- ワーカーズコープ：保育園用務
- 生活クラブ：センター業務
- コープデリ：川越南センター 夕方倉庫業務

#### ■体験就労プログラムに関するニーズ調査2022概要

【調査目的】 東京、神奈川、埼玉の自立援助ホームを利用している若者の就労体験プログラムニーズがどのくらいあるのか、また、どのようなプログラム内容、情報があると利用しやすいかについて明らかにする。

【調査対象】 東京、神奈川、埼玉の自立援助ホーム 40施設

【調査方法】 Google Formを利用したオンライン質問紙調査。自立援助ホーム全国協議会にご協力いただき、メールにて配布。

【謝金】 回答した自立援助ホームに2000円のショッピングカードを郵送

【調査期間】 2022年3月17日～3月28日（追加実施：4月6日～4月15日）

【回答施設数】 21施設

【回収率】 52.5%

別紙 体験就労プログラムに関するニーズ調査 2022 調査結果報告書 (簡易版)

### 1-1-3. 調査研究・政策提言

首都圏若者サポートネットワーク政策提言ワーキンググループが中心となり、助成事業などから見える社会的養護自立支援の諸課題に対応する施策の強化を求め、2022年に予定されている児童福祉法の改正に向けた政策提言活動を行いました。提言の作成にあたっては、若者支援関係団体にアンケート調査を実施して意見を収集し、政策提言に反映させたほか、6月の政策提言ではアフターケア事業全国ネットワークえんじゅと、11月の政策提言ではさらに全国自立援助ホーム協議会と連名で行うことができました。

申し入れの結果、提言の内容が社会保障審議会社会的養護専門委員会の報告書に反映され、さらに、2022年の通常国会で改正される児童福祉法案に反映されることになり、大きな成果がありました。具体的には、次の3点が挙げられます。

- ①アフターケア事業が法律に規定され制度化されたこと
- ②その対象者として里親や施設に措置・委託された経験のある者のみならず、在宅において自立支援が必要な状況にある者が含まれることになったこと
- ③18歳を過ぎても必要に応じて、施設や里親のもとで継続して支援を受けることができること

この動向と重要な論点について全国の支援団体と情報共有し、意見交換を行うイベントを年度明け(4月14日)に開催するほか、政策提言改正法案の成立後を見据え、法案に反映されなかった細部について、新制度の設置要綱や通知等に反映されるよう、さらなる政策提言を年度明けに検討する予定です。

#### 【取り組み】

5月18日～25日	関係団体アンケート調査実施
6月15日	厚生労働省子ども家庭局長に申し入れ・報道関係者向け発表会
6月16日	孤独・孤立対策室長に申し入れ
11月9日	厚生労働省子ども家庭局・新局長に申し入れ
11月25日	野田聖子大臣(内閣府特命担当大臣、子ども政策担当、孤独・孤立対策担当大臣)への申し入れ

#### 【関係団体アンケート】

実施期間：2021年5月18日～25日

実施方法：首都圏若者サポートネットワークがこれまでに助成情報を配信したことがある社会的養護アフターケア等の若者の自立支援を行う団体にWEB調査票を配信し、WEB上で回収した。

回答数：66団体

報告書：「社会的養護アフターケア等の若者の自立支援に関する政策提言のための関係団体アンケート結果報告書(速報版)」(下記HPにて公開)

#### 【政策提言の連盟団体】

- ・首都圏若者サポートネットワーク
- ・全国自立援助ホーム協議会 (11月の提言のみ)
- ・アフターケア事業全国ネットワークえんじゅ

【政策提言】

「社会的養護出身者など困難な環境にある若者の自立を支援する事業の制度化に向けた政策提言～2022年児童福祉法改正への提言～」

【ホームページでの告知・公開】

- ・6月の政策提言に関する告知 <https://wakamono-support.net/news/408/>
- ・11月の政策提言に関する告知 <https://wakamono-support.net/news/464/>

6月の厚生労働省、孤独・孤立対策室への申し入れ、報道関係者向け報告会の様子



11月の野田大臣、厚生労働省への申し入れの様子



別紙 社会的養護出身者など困難な環境にある若者の自立を支援する事業の制度化に向けた政策提言

別紙 社会的養護アフターケア等の若者の自立支援に関する政策提言のための 関係団体アンケート結果報告書(速報版)

#### 1-1-4. 休眠預金等活用法に基づく助成金事業

首都圏にとどまらず、社会的養護経験のある若者を支援する全国の団体を支援するため、日本民間公益活動連携機構(JANPIA)が募集する「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」資金分配団体に申請し、「社会的養護アフターケア事業新型コロナ緊急支援助成」が採択されました。

当事業は、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けている、社会的養護の下に暮らす(暮らした)方をはじめ社会生活が困難な状況に置かれている若者に伴走支援を行い、「社会的孤立」や「経済的困窮」からの脱却に繋げていく事業です。

【事業名】社会的養護アフターケア事業新型コロナ緊急支援助成

#### 1. 2020年度採択事業

【採択額(資金分配団体として受けた助成金額)】

89,796,000円

【一次公募】

助成団体の公募期間:2021年3月30日~4月30日

助成金額:59,052,497円

助成団体:13団体

研修の実施:5月29日、6月27日

実行団体の事業期間:2021年6月~2022年2月(一部、開始時期が異なる団体あり)

【二次公募】

助成団体の公募期間:2021年5月11日~6月3日

助成金額:16,514,154円

助成団体:4団体

研修の実施:6月27日

実行団体の事業期間:2021年7月~2022年2月(一部、開始時期が異なる団体あり)

#### 2. 2021年度採択事業

【採択金額(資金分配団体として受けた助成金額)】

107,966,850円

【助成金額・団体】

公募期間:2022年1月24日~2月10日正午

助成金額:90,480,000円

助成団体:13団体

内定団体向け研修:2022年3月6日

実行団体の事業期間:2022年3月~2023年2月の期間内で任意に設定(最大1年間)

## 1-2. 子どもの貧困対策に関する各種事業の推進（関連団体とのネットワークおよび情報交換、学習会への参加、研修会の開催等）

家庭間の経済格差が進み子どもの貧困が深刻化する中で2014年子どもの貧困対策法が施行され、子ども食堂、学習支援等が各地で急増したが、これらの事業者の運営基盤は脆弱である。そこで、各地の子どもの貧困支援の事業者と連携し、運営支援や地域支援の紹介等を行なった。

### (1) 一般社団法人全国食支援活動協力会「こども食堂サポートセンター」への参画

家庭間の経済格差が進み子どもの貧困が深刻化する中で2014年子どもの貧困対策法が施行され、子ども食堂、学習支援等が各地で急増したが、これらの事業者の運営基盤は脆弱である。そこで、一般社団法人全国食支援活動協力会が各地の子どもの貧困支援の事業者(※2)と連携し、運営支援や地域支援の紹介等を行う。※2 各地のこども食堂が活動しやすくなるように、情報を流す仕組みをつくり、企業等と連携して、活動の環境整備を応援するプロジェクト「こども食堂サポートセンター」に参加・協力。

関連する下記の会合に~~〇〇〇〇~~専務が参加。

広がれ、こども食堂の輪！推進会議

2021年4月6日（火）、7月1日（木）、9月7日（火）、2022年3月17日（木）

子どもの居場所づくり推進に向けた学習会

2021年4月6日（火）、5月24日（月）、9月7日（火）

こどもの居場所づくりのためのSDGS交流セミナー

2021年7月1日（木）

休眠預金「持続可能な地域活動援助モデル構築事業」選定委員会

2021年4月24日（土）、5月28日（金）

全国食支援活動協力会 休眠預金事業中間成果シンポジウム

2021年11月9日（火）

王将フードサービスの売上寄付を原資とした助成事業 選定委員会

2021年5月17日（月）

毎日新聞東京社会事業団 こども食堂運営継続 応援プロジェクト 助成 選定委員会

2022年2月18日（金）

厚労省 R3 年度補助事業 ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業 助成委員会

2022年2月17日（木）、25日（金）、3月2日（水）、7日（月）、8日（火）、10日（水）

上記委員会書面決議

2月28日（月）、3月3日（木）

### (2) 連合東京「子ども・若者支援プラットフォーム」への参画

連合東京が設立する子ども・若者支援プラットフォーム HOPE に参画し、子ども・若者の支援を連携して行っていく。本年度は以下の会合に出席。

設立準備委員会：2021年8月24日（火）、9月28日（火）、10月25日（月）、11月24日（水）

設立総会：2021年11月26日（金）

企画・運営委員会：2022年1月27日（水）、3月29日（火）

(3) ドミノ・ピザ、『クリスマスのための特別な「無料ピザで地域支援」』への企画協力  
子どもの貧困対策に関する各種事業の推進の一環として、ドミノ・ピザの『クリスマスのための特別な「無料ピザで地域支援」』に企画協力。

特設サイト : <https://www.dominos.jp/service/feedtheneed/xmas>

ノミネート期間 : 2021年11月8日(月)～21日(日)

支援対象団体 : 全国の児童養護施設、自立援助ホーム、児童心理治療施設、児童自立支援施設、母子生活支援施設、乳児院、里親家庭、ファミリーホーム、アフターケア事業所、子ども食堂、学習支援団体

支援期間 : 2021年12月13日(月)～19日(日)の午前11時から午後10時まで

支援団体数 : 1809団体

支援先内訳 : 児童養護施設 290施設、乳児院 44施設、児童心理治療施設 28施設

児童自立支援施設 35施設、母子生活支援施設 96施設、自立援助ホーム 101施設

児童家庭支援センター 8施設、ユニバーサル志縁センター 1施設

首都圏若者サポートネットワーク助成先団体 9施設、学習支援団体 文部科学省HP掲載団体 38施設

子ども食堂 429施設、こども宅食 31施設、里親家庭 519施設

ファミリーホーム 151施設、アフターケア事業所 29施設

#### (4) 子どもの貧困支援の事業者との連携事業

日本ライフライン(株)からのご寄付を頂き、寄付申込書に記載された以下の事業内容について2団体の助成申請を受け、理事会で審議を行い承認した。

##### ①日本ライフライン(株) 寄付申込書記載内容 :

子どもたちの自立を支援するためには、乳幼児期における特定の大人に対する愛着関係や生活習慣の獲得が極めて重要であることから、家庭養護の推進方策を検討し、政策提言を行う事業

団体名 : 子どもと家族のための緊急提言プロジェクト

申請代表 : 事務局長 ■■■ ■■■

URL : <https://familypolicy5s.jp/>

事業の目的・達成したい成果 :

新型コロナウイルスの災禍は、日本において子どもと子育て家庭への社会的支援の乏しさを浮き彫りにした。妊娠や出産、親と子をめぐる社会環境は激変しており、妊娠葛藤、産後うつ、育児の孤立、児童虐待などが増大している。特に妊娠・出産、乳幼児期の子育て について、切れ目のない支援の実現が急務である。

いま、国においても子ども・子育てにかかる福祉、教育、保健、医療などの縦割りを克服し、一元的に所管する「こども庁」構想が検討され、安心して産み育てられる社会環境をつくること が目指されている。誰もが妊娠・出産から育児までを不安なく営めるようにす るため、あらゆる家族と子どもを継続的に支え、孤立させない環境を本気で実現すること が必要で、ひいては、少子化の危機の改善にも、日本の未来にも資するもの と考える。

##### ②日本ライフライン(株) 寄付申込書記載内容 :

子どもたちの幸せな成長と自立を促すためには、虐待予防の観点も含めて、児童相談所に よる一時保護に至る前段階の、地域における 全ての子ども子育て家庭に対する支援が重要 であること

から、その支援体制構築の検討に資する事業

団体名：一般社団法人 共生社会推進プラットフォーム

事業名：我が国の社会的養護における家庭養護の推進方策と、子ども子育て支援、障害児支援、母子保健、教育、女性支援等他分野の支援施策との連携と協働の在り方に関する調査 研究

URL：<https://isephp.org/>

事業の目的・達成したい成果：

社会的養護において子どもの自立支援を考える際に、それぞれの子どもの成育歴や生育環境に起因する愛着の状況や生活習慣、自己肯定感が重要であることは言うまでもないが、特に乳幼児から児童相談所に保護された子どもたちについては、可能な限り家庭もしくは里親家庭で養育されること（家庭養護）が重要である。

また、社会的養護において子どもたちを養育するためには、里親や施設のみによる養育だけでは不十分である。児童相談所はもちろんであるが、一般家庭に対する子ども子育て支援施策や障害児支援、母子保健、教育、さらには女性支援、障害者支援等の関連諸施策との連携と協働、さらには総合化、包括化が不可欠である。こうした子ども関連施策の総合化、包括化は、「子ども庁」設置の議論にも見られるように、政府においても大きな論点となっている。

本調査研究においては、我が国で「家庭養護」を推進するための方策について、現状、課題、今後望まれる政策的な方向について検討するとともに、社会的養護と関連他分野の諸施策との連携と協働について、様々な地域における先進事例を収集、分析し、それらにおける連携上の課題について整理するとともに、それらを全国的に普及させていく方策についても検討し、とりまとめていきたい。

#### (5) 内閣府 孤独・孤立対策官民連携プラットフォームへの入会

元厚生労働事務次官■■■■氏の紹介で、子どもの貧困支援の事業者と連携を促進するため内閣府孤独・孤立対策官民連携プラットフォームに入会。

##### 【孤独・孤立対策官民連携プラットフォームとは】

孤独・孤立に関する多様なNPO等支援組織間の連携及び官民連携を促進することにより、コロナ禍で顕在化した孤独・孤立の問題に継続して対応していくことを目的に「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」を内閣府が設置。プラットフォームを通じ、複合的・広域的な連携強化活動、孤独・孤立対策に関する全国的な普及活動、先導的取組・学術研究等の情報共有、相互啓発活動等の実施により、会員の取組を支援していく。

## 2. 社会的経済セクターの協働事業

### 2-1. 人材育成研修の実施

特定非営利活動法人等で働くスタッフの人材育成研修は企業と比べ充実していないため、キャリア形成を含め、特定非営利活動法人等のスタッフの人材育成事業(関連団体とのネットワークおよび情報交換、講師派遣を実施。

【目標】年4回開催

【結果】2回実施

#### (1) 凸と凹「マンスリーサポートプログラム」登録先限定集合研修・第8回

実施日：2021年11月12日(金)

主催：合同会社めぐる

テーマ：コミュニティ・オーガナイズ

■■■■専務、■■■■事務局が講師として参加。

#### (2) ワーカーズコープ若者支援会議

実施日：2022年2月16日(水)

主催：ワーカーズコープ

内容：学習会「生きづらさを受け止め合える地域づくりへ～コミュニティオーガナイズの手法を学ぶ～」

グループセッション「それぞれの地域・現場なりのスモールステップは？～第一歩を考えよう 若者支援の現場から～」

■■■■専務が講師として参加。

### 2-2. 政策提言のためのプラットフォーム運営

社会課題(地域共生、子どもの貧困、震災復興等)に取り組む事業者と連携し、現状の制度では対応できない事例を集め、NPO、生活協同組合、労働組合、共済、社会的企業等社会的経済セクター等のステイクホルダーが集まり、政策提言のためのプラットフォーム(※3)を形成し、課題解決のための政策を検討する場を設ける。

<政策提言の流れ(案)>

1. 制度提案をするタイミング(選挙や毎年の概算要求の前など)に、運営委員や参加団体に対して、現状の制度では対応できない課題を募集する。(3月)

2. 集まってきた課題を集約し、政策討論会を実施し提言の形にまとめる。(5月)

3. まとまった提言を制度作りに係る人たち(候補者、役所の担当部局)などに届ける。(6月)

4. 必要に応じて公開シンポジウム等を開催し、報告書にまとめる。

※3 2011年に発足した政策提言プラットフォーム「市民キャビネット」の事務局の運営を当団体が担い、各ステイクホルダーへの働きかけや意見調整、関係機関(行政機関・議員を含む)への働きかけを行っている。また2017年に発足した首都圏若者サポートネットワークも各地域のアフターケアの課題を政策提言していくプラットフォームとしての機能を持つ。政策提言を事業として行う理事・会員団体との連携や首都圏若者サポートネットワークの調査研究・政策提言ワーキングとも連携を模索する。

## 1. 「広域的地域間共助」第9回協働型災害訓練 in 杉戸—CDT2022—への参画

東日本大震災においては、都市と農村の交流連携や姉妹都市・友好都市連携など、地域活性化や地域振興を目的とした遠隔地との連携・交流の取組がきっかけとなって被災地の支援活動に発展するなど、平時に構築した連携の枠組みが有事の助け合いにおいて効果的に機能を発揮した。本法人理事団体の NPO 埼玉ネット、一般社団法人協働型災害訓練は行政間、行政と NPO・市民団体（以下 NPO 等という）との連携を支援し多数の広域的な地域間の相互支援（共助）活動を進めてきた。このような取組を有効に機能させるために、常日頃から連携する地域同士が「顔の見える関係」づくりを継続的に進めておくとともに、いざというときの手厚い支援に繋げるために、行政関係者のみならず、地域住民や企業、NPO 等など幅広い関係者を巻き込み、多様な階層が重層的な連携体制を構築することが必要と考え協働型災害訓練に参画した。今回の訓練は新型コロナウイルス感染拡大を受け、現地と ZOOM、Youtube を活用したハイブリッド形式で開催。

今年のテーマは「SDGs x 防災～アフターコロナの災害対応 CDT2022～」。

一昨年からはじまった新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、社会・経済・生活だけでなく、防災・減災においてもアフターコロナを視野に入れた活動が広まっています。今私たちはそんなパラダイムシフトの渦中にいます。今年の協働型災害訓練は「SDGs x 防災」をテーマとし、2015年に国連総会で採択された「2030年までに達成すべき持続可能な開発目標(SDGs)」が防災分野においてどう影響しているのかを考えながら学ぶ2日間となりました。

### <開催概要>

- 日時 2022年2月10日(木)、2月11日(金・祝) いずれも9:00~17:30
- 会場 彩の国いきいきセンターすぎとピア(埼玉県北葛飾郡杉戸町堤根4742-1)
- 定員 会場参加のべ200名
- 対象

- ・自治体や団体で防災減災の担当をしている方、興味のある方
- ・地域などで防災減災活動に関わっている方、興味のある方
- ・SDGs 防災や ICS(災害現場等の指揮系統や管理手法)に興味のある方など

### ■スケジュール

#### <講演アジェンダ>

##### 【SDGs2】飢餓をゼロに

防災備蓄が当たり前の日本に! (防災備蓄収納プランナー協会・XXXXXXXXXX)

##### 【SDGs3】すべての人に健康と福祉を

コロナ禍における杉戸幸手モデルの今 (東埼玉総合病院・XXXXXXXXXX)

##### 【SDGs5】ジェンダー平等を実現しよう

防災・忘災啓発活動の種まき (歌う防災士しほママ・XXXXXXXXXX)

##### 【SDGs6】安全な水とトイレを世界中に

WOTA コロナ禍の水対策 (WOTA 株式会社・XXXXXXXXXX)

##### 【SDGs9】産業と技術革新の基盤をつくろう

危機に強い組織について考える(名古屋大学/防災科研・XXXXXXXXXX)

##### 【SDGs10】人や国の不平等をなくそう

アフターコロナの避難所運営 (埼玉県防災士会/彩の国会議・XXXXXXXXXX)

##### 【SDGs11】住み続けられるまちづくりを

地図を活用したプログラミング教材で減災 (株式会社ゼンリン)  
【SDGs17】 パートナーシップで目標を達成しよう  
IPW 版図上訓練 DX (立正大学 地球環境科学部・██████████)

■参加費

1人3,000円(税込/一律) →事前予約なら10%OFF!! (税込2,700円!!)

■主催 杉戸町・富岡町・川内村地域間共助推進協議会、一般社団法人協働型災害訓練(CDT)

■共催 立正大学地球環境科学部、市民キャビネット災害支援部会・スマートICT部会

■協力 埼玉県危機管理課/共助社会づくり課、株式会社ゼンリン、防災備蓄収納プランナー協会、WOTA株式会社、株式会社en-pal、東埼玉総合病院、埼玉県防災士会、全日本救助犬団体協議会、公益社団法人ユニバーサル志縁センター、NPO法人フードバンク埼玉、埼玉県災害ボランティア団体ネットワーク「彩の国会議」、埼玉県キャンプ協会、災害リスク評価研究所、code for saitama、ホワイトボックス、日本社会福祉事業協会他

## 2-3. 社会課題解決に取り組む事業者の情報発信支援

ホームページ(年12回程度)、メールマガジン(月1回)、インターネット放送(月1回)等情報発信支援のツールを用意し、社会課題解決に取り組む事業者の活動を全国の中間支援NPO等に紹介しました。

### (1) メールマガジン

通常版: 月1回発行・臨時号: 随時

### (2) イベント

今年度はコロナのためリアルイベントでの告知は未実施

### (3) 動画配信

今年度はコロナのため未実施

## 2-4. 特定非営利活動法人等の基盤強化

特定非営利活動法人等からの起業・運営や会計・税務の相談を随時受け付けるとともに、必要に応じて専門家(当団体のNPO設立・運営相談インストラクター)による相談業務、法人運営者向けの研修会の開催、支援ツール(NPO活動保険、会計ソフトウェア、NPO法人会計日誌等)提供、特定非営利活動法人等のネットワーキングの場等の支援メニューを通して、特定非営利活動法人等の基盤強化を行う。特定非営利活動法人の起業・運営や会計・税務等の相談会や研修会は、当団体が主催して実施し、実施に際して、NPO支援東京会議(※4)に所属している税理士、公認会計士の先生方

などに講師や相談員を依頼している。

※4 NPO支援東京会議は、NPO支援組織や公認会計士、税理士、社会保険労務士、行政書士などの有志により、専門家の立場からNPOや市民活動団体に対する団体運営や日常的な実務のサポートを東京都内を中心に行う団体で、当団体が事務局を担っている。

#### (1) 支援ツールの提供による機能強化

専門家派遣や講演会、NPO支援ツールの販売等を継続して行う。

##### 【専門家による起業・運営相談(会計・税務)】

目標：5団体 結果：0団体(コロナのため未実施)

##### 【支援ツールの普及(NPO活動保険、会計ソフトウェア等の販売)】

NPO活動保険(保険代行社、あいおいニッセイ同和損害保険)

N-books紹介(問い合わせ対応)

チャリティ自販機の設置(生活科学運営、生活クラブ風の村等)

会計日誌等ツールの販売(販売冊数は652冊※3月31日現在)



#### (2) NPO支援東京会議の事務局運営

NPO支援東京会議(会計士、税理士等の専門家ネットワーク)の事務局。

【定例セミナー】年0回

今年度はコロナのため未実施

### **3. ユニバーサルな地域社会づくり事業**

#### **3-1. 志縁をつなぐ文化芸術活動の実施支援**

普段 NPO 活動に接点を持たない住民が、地域で活動している NPO を知り、地域における関係構築を志縁(支援)することを目的に、地域の NPO 等がアーティストと連携した、チャリティコンサート等の文化芸術活動(文化祭)の開催支援を実施する。

【目標】ぬちゆいトークライブを1回開催

【結果】本年度は未実施。来年度以降、首都圏若者サポートネットワーク主催として「若者おうえん基金」を呼び掛けるような企画・開催をトキコ・プランニングと協議中

#### **3-2. 困難を抱えた子どもたちへのコンピューターサイエンス教育の機会を提供**

2020 年から小学校においてプログラミング教育が必修化され、プログラミング体験を通してプログラミング的思考を育み、また身近な問題発見・解決にコンピュータやソフトウェアの働きを活かし、よりよい社会を創っていく態度を養成することが期待されている。しかし、現時点では子どもたちがプログラミングに接する機会は限定的であり、地理的、或いは、環境的な差異なく、プログラミング体験の機会を提供することが急務となっている。

このような状況を踏まえ、プログラミング体験および、デジタルなものづくりを通じた問題発見・解決を目指すツールとして、世界的に人気のある「Minecraft」を活用し、全ての子どもたちがプログラミング教育や、デジタルなものづくりに触れる事のできる機会創出をコンクール形式で行っていくことを考え、特に、“届き辛い”とされる子供たちに対しては、技術者と支援者とが連携したサポート体制を組むことで、作品づくりにチャレンジする環境創りを行う。

本年度は大会パートナーに積水ハウス、日本ユニシス、三菱地所、農林中央金庫、UUUM、インプレスを迎え、より SDGs に深く取り組んだテーマを設定し、のべ4,658名の子どもたちからのエントリーがあった。今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響から表彰式はオンライン上で開催しライブ配信を行った。

#### **【募集作品テーマ】**

「SDGs 時代のみみんなの家、未来のまち」

SDGs は、この地球上で、人々がずっと暮らし続けていくために、2030 年までに達成しないとといけない 17 の目標です。「3：すべての人に健康と福祉を」「7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「15：陸の豊かさを守ろう」の3つのうち、1つ以上の SDGs を取り入れて、全ての人が充実した暮らしを送ることができるワールドを制作してください。

#### **【提出物】**

1. 今大会の内容に応じて作成したマインクラフトのワールドデータ (.mcworld ファイル)
2. 作品紹介の際に掲載するタイトル含むサムネイル画像1枚
3. 作業時の工夫した点や注目ポイントなどの5つの質問に対する回答(各200字以内)  
上記に付随するワールド内のスクリーンショット5枚
4. 1分以内のワールド内の動画
5. ワールドの MakeCode のプログラムデータ※任意

#### **【審査指標】**

構想力：既存の枠にとらわれない発想で作品テーマを構想できているか

調査力：テーマに対して様々な調査を行えているか  
技術力：プログラミングやレッドストーンが活用されているか  
計画力：計画を立てて取り組むことができるか  
作品完成度：上記をふまえて総合的に作品のクオリティが高いか

#### 【審査方法】

1次審査：オンライン投票。全応募作品を公式ホームページで公開。作品を応募した参加者によるピアボートイング(相互評価)を実施。

2次審査：1次審査を通過した130作品を全国5地区に分け、オンラインによる審査会を実施。

最終審査：最終審査会で参加者によるプレゼンテーションの発表、審査員による評価、各アワードの決定。

#### 【大会概要】

エントリー：2021年7月12日(月)～9月16日(木)

作品応募：2021年9月1日(水)～9月30日(木)

参加対象：18歳以下(2022年4月1日時点)、1人(個人)もしくは30人以内のチーム

※エントリーには保護者の同意が必要

#### 【後援】

文部科学省、総務省、経済産業省、デジタル庁

#### 【最終審査会・表彰式】

2022年1月30日(日)

#### 【審査委員】

■■■■ (東京大学教授、慶應義塾大学教授)

■■■■ (動画クリエイター)

■■■■ (スタディサプリ教育AI研究所所長、東京学芸大学大学院准教授)

■■■■ (立命館小学校教諭、Cross Education Lab 代表)

■■■■ (王立英国建築家協会名誉フェロー建築家)

■■■■ (プロマイクラフター、マイクロソフト認定教育イノベーター(MIEE))

■■■■ (積水ハウス株式会社代表取締役副会長執行役員、財務・ESG部門、TKC事業担当)

#### 【アドバイザー】

■■■■ (全国子どもの貧困・教育支援団体協議会 代表幹事)

■■■■ (日本教育情報化振興会会長、ICT CONNECT 21(みらいの学び共創会議)会長)

■■■■ (プロフェッショナルラグビーコーチ)

■■■■ (元サッカー日本代表監督)

■■■■ (UUUM株式会社 代表取締役 CEO)

■■■■ (日本ユニシス株式会社業務執行役員 CRM 経営企画部長)

■■■■ (日本マイクロソフト株式会社業務執行役員パブリックセクター事業本部文教営業統括本部統括本部長)

■■■■ (NPO 法人ブロードバンドスクール協会理事、最高齢プログラマー)

【全体概要：地区ブロック代表審査員】

北海道・東北ブロック：■■■■ (北海道星置養護学校ほしみ高等学園)

東京ブロック：■■■■ (八王子市立第八小学校)

関東6県・中部ブロック：■■■■ (那須町教育委員会学校教育課)

関西・中国ブロック：■■■■ (兵庫県立視覚特別支援学校)

四国・九州・沖縄ブロック：■■■■ (多久市東原産舎西溪校)

【主催】

Minecraft カップ 2021 全国大会運営委員会

(構成団体：ICT CONNECT 21、ユニバーサル志縁センター)

運営委員長：■■■■、運営委員：■■■■ 監事：■■■■

【参加について】

エントリー数：3,084名

応募作品数：484作品

【入賞】

大賞	「EREC -地球蘇生実験都市-」	[山口県]
優秀賞【チーム部門】	「つなげるココロ ～人も動物も植物も笑顔のまち～」	[沖縄県]
優秀賞【個人部門】	「ふクリンシティ」	[大阪府]
アイデア賞	「みんながしあわせに暮らせる家と街 ～空中道路でいきものたちを傷つけずに暮らす～」	[千葉県]
クリエイティブ賞	「New CodeTropolis」	[東京都]
建築賞	「EREC -地球蘇生実験都市-」	[山口県]
コーディング賞	「トイレをつかった TNT 発電」	[神奈川県]
チャンレンジ賞	「資源を大切に使う町 ～ゴミを有効活用しよう！～」	[宮城県]
積水ハウス賞	「SDGs で未来を変えろ」	[埼玉県]
日本ユニシス BIPROGY 賞	「自然と共に育む未来 ～動物達と仲良く暮らすまち～」	[山形県]

三菱地所賞	「ふクリンシティ」		[大阪府]
農林中央金庫賞	「歴史が溶け合うSDGsの街〜過去・現在・未来の交差点〜」		[静岡県]
インプレス こどもとIT賞	「私たちが考えた理想の街」		[東京都]
Microsoft 賞	「がじゅまあるランド」		[沖縄県]

**【特別な支援が必要な団体の参加サポート】**

Minecraft カップでは、子どもたちの学びの場をサポートする団体と協力して、Minecraft をつけた学習のサポートを実施。

特別サポートを行った団体

- ・NPO 法人青少年自立援助センター YSC グローバルスクール
- ・NPO 法人 さいたまユースサポートネット

NPO 法人さいたまユースサポートネット Minecraft アカウントの発行  
児童向け体験会の開催  
スタッフ向け研修WSの開催、動画の提供  
機材提供 (PC 6台、Wi-Fi 7台貸出)

NPO 法人青少年自立援助センター YSC グローバルスクール  
Minecraft アカウントの発行  
リモートサーバーの提供

**【教育効果】**

教育効果を測るアンケートを実施。

別紙 Minecraft カップ 2021 全国大会報告書 (速報版)

**【多良木町プログラミング教育事業】**

多良木町にプログラミング教育を根付かせるために、単発のワークショップではないものとした。地域でプログラミングを教えることを担うコーチの育成を行い、そのコーチとともにワークショップを企画・開催。そのことによりプログラミング教育事業を継続的に行う体制を目指すものとした。

子どもたちが作成する作品のテーマ：多良木町の子どもたちが願いを叶える多良木町を表現する。

対象：多良木町内の小学生 (4年生～6年生)

開催場所：一般財団法人たらぎまちづくり推進機構 事務所

人数：上限 25 名

日時：2022年3月12日(土)～13日(日)

時間：9:30～17:00(両日)

講師：[REDACTED] (プロマイクラフター) ・ [REDACTED]



## 4. ユニバーサルなはたらく場づくり支援事業

### 4-1. ユニバーサル就労の普及

ユニバーサル就労(障がいがあったり、生活困窮状態にあるなど、様々な理由で働きたいのに働きづらいすべての人が働けるような仕組みを作ると同時に、誰にとっても働きやすく、働き甲斐のある職場環境を目指していく取り組み)に取り組む企業団体(※5)を増やすための普及啓発事業(シンポジウム、メールニュースの配信、イベント等での展示、各種メディアの取材対応 等)を実施する。

※5 ユニバーサル就労に取り組んでいる、NPO 法人ユニバーサル就労ネットワークちば、社会福祉法人生活クラブ風の村と連携している。

#### 【活動内容】

文部科学研究基盤研究 B・補助事業「福祉課題への変革プログラムに取り組む実践家と組織の評価キャパシティ形成支援法の開発」研究プロジェクトに NPO 法人ユニバーサル就労ネットワークちば、社会福祉法人生活クラブ風の村を紹介し、「ユニバーサル就労」の評価指標づくりを NPO 法人ユニバーサル就労ネットワークちばが中心となって行うこととなった。

### 4-2. ユニバーサル就労を推進するための調査、研究、政策提案

ユニバーサル就労等を地域社会において推進するために、これまで取り組んできた「生活困窮者自立支援制度における就労準備支援事業の評価ガイドライン」「自立相談支援事業の評価ガイドライン」を踏まえた調査、研究、政策提言を行う。

(過去実績)

※厚生労働省平成 27 年度社会福祉推進事業生活困窮者自立支援法における就労準備支援事業評価ガイドライン作成事業

※厚生労働省平成 28 年度社会福祉推進事業就労準備支援事業評価ガイドライン検証事業

※厚生労働省平成 29 年度社会福祉推進事業自立相談支援事業評価ガイドライン作成・検証事業

※厚生労働省平成 30 年度社会福祉推進事業自立相談支援事業評価実践ガイド普及展開方法検討事業

本年度は文部科学研究基盤研究 B・補助事業「福祉課題への変革プログラムに取り組む実践家と組織の評価キャパシティ形成支援法の開発」研究プロジェクトに参画し、厚生労働省社会福祉推進事業で作成した自立相談支援事業評価ガイドラインの改善作業に取り組むとともに厚生労働省「令和3年度 生活困窮者及びひきこもり支援に関する民間団体活動助成事業」を活用し「多様な地域連携による就労支援：現状把握と活動評価のPDCA」事業と題し、自立相談支援事業評価ガイドラインを活用した事業を実施した。

### (1) 文部科学研究基盤研究 B・補助事業「福祉課題への変革プログラムに取り組む実践家と組織の評価キャパシティ形成支援法の開発」研究プロジェクトの実施

#### 【プロジェクトメンバー】

日本社会事業大学 ■■■■■ 氏  
群馬医療福祉大学 ■■■■■ 氏  
A' ワーク創造館 ■■■■■ 氏、他

#### 【取り組み】

2021年4月5日(月) 自立相談支援事業評価ツールバージョンアップのためのワークショップ  
2021年9月2日(木) 研究会：効果的援助要素の改定検討  
2021年11月1日(月) 研究会：システムレベル・インフラ整備の研究計画議論  
2021年11月15日(月) 研究会：研究計画、インタビューガイド検討  
2021年11月25日(木) 研究会：システムレベルのプログラム理論・インタビューガイド検討  
2021年12月13日(月) 研究会：システムレベルのプログラム理論検討  
2021年12月27日(月) 研究会：システムレベルのプログラム理論検討  
2022年3月20日(日) 研究成果報告会：■■■■■ 事務局長が報告「WSを通じた現場人材の気づき・学び」

### (2) 厚生労働省「令和3年度 生活困窮者及びひきこもり支援に関する民間団体活動助成事業」による「多様な地域連携による就労支援：現状把握と活動評価のPDCA」事業の実施

#### 【事業の目的】

本事業は、生活困窮者自立支援制度を契機に機能強化が図られてきた「地域の就労支援」について、関係する部署や機関・団体等が参加するワークショップを通じて、改めて就労に関するニーズや対象者像、既存の活動や期待する取組み、それらを通じて実現する目標（アウトカム）を「見える化」という、単純だが、適切なファシリテーション（中間支援）が欠かせない取組みを試みました。そして、相談や支援プログラムの充実、企業等との関係づくりなどの活動・事業について地域ごとに体系化し、内発的な「就労支援の機能強化」を促進することを目的としました。

#### 【実施内容】（次ページ参照）

6自治体の参加を得て、自立相談支援機関や自治体、社協 CSW、福祉施設、MSW、保護司、外国人支援団体、協力事業所・企業等による参加型ワークショップを行い、体系化した改善課題に応じてコンサルテーション（発達障害ボーダー層の相談、体験プログラムの作成、事業所との関係づくり等）、解決のための活動に伴走しました。

- ワークショップ：相談者像やニーズ、支援活動や事業、めざすアウトカムについて意見交換
- コンサルテーション：ワークショップを通して見えてきた改善・強化したい課題（多様な相談窓口での早期発見と専門支援への案内方法、就労体験や中間的就労の協力事業所の開拓や連携の進め方など、相談支援の強化策）に関する課題解決に伴走

- 地域の協力事業所（企業・農家等）の体験就労プログラム作り
- 各地域の人口関連（人的資源）データ集の作成

【参加自治体】

東京都小平市、長野県東御市、大阪府高槻市、富田林市、兵庫県伊丹市、大分県竹田市

【見えてきた課題】

- (1)多様な働き方、体験の機会が求められている
- (2)就労支援ニーズをもつ潜在的な生活困窮層が掘り起こせていない
- (3)就労支援を支える多様な連携が可視化されず、社会資源の活用が進んでいない
- (4)人材不足に悩む企業等の事情はコロナ禍でより厳しくなり、就労支援との連携に関心を高めている
- (5)以上の課題には関係する部署や機関・団体等による機能する「多様な連携」が欠かせない
- (6)地域の相談支援機能や社会資源の開拓・活用を推進・調整する機能や人材育成等を図る中間支援を強化する好機を迎えている

【今後に向けて】

上記課題は、早期発見の強化（一次相談と専門相談の重層化）から中間的就労の活用、定着支援等に関わる連携の強化（参加支援、地域づくりの重層化）にいたる支援体制の構築により推進されるものと考えます。関係部署や団体等の会議体設立にとどまらない、機能する連携を推進・調整する中間支援の実体化とそれを推進するワーカー（人材）の養成が欠かせません。

そこで、次年度はWAM（R3補正）助成を申請し、多様な地域連携によるプラットフォームの形成による、早期発見、早期支援の仕組み、中間的就労等の地域づくりを駆使した支援の強化等をサポートする中間支援のモデルを6地域（4府県以上）で検証することをめざしています。ポイントは、今年度の経験を活かし、主要な地域団体と協働し中間支援を担うワーカー養成（2人をOJT方式）を行うほか、全国規模で中間支援ワーカー養成講座（リモート）に取り組みます。

また、参加型ワークショップの経験をもとに、相談支援や参加支援、地域づくりの体系化、そしてその改善・強化を通じた重層的支援のプラットフォーム整備のあり方を示すとともに、弊団体が蓄積する地域づくりの手法であるコミュニティ・オーガナイズの手法を活用していきます。

自治体（コーディネート担当機関）	ワークショップ 1 ニーズと必要な取り組み 2 目指す変化・地域の姿	コンサルテーション
小平市（社協・こだいら生活相談支援センター）	①11月5日 ②1月17日	11月8日 協力農家視察・体験就労プログラム作り 2月28日 報告会・フィードバック 2月28日 生困就労支援事業自己評価ガイダンス 3月3日 協力事業者向け研修会 3月 自己評価フィードバック
東御市（社協・生活・就労支援センターまいさぼ東御）	①12月22日 ②1月25日	2月17日 協力農家との体験プログラム作り 2月17日 生困就労支援事業自己評価ガイダンス 3月 自己評価フィードバック

高槻市（市・福祉相談支援課くらしごとセンター）（茨木HWエリア）	令和2年度に実施	10月～11月 協力企業にて体験プログラムの作成・活用（体験のための自己紹介シート作りほか） 3月 近隣自治体と共同した体験プログラムの活用
富田林市（市・子育て福祉部増進型地域福祉課）	①11月16日 ②12月6日	3月下旬 体験や短期雇用等の支援プログラム強化（無料職業紹介の活用など）
伊丹市（市・健康福祉部地域福祉室地域・高年福祉課）	①12月17日 ②1月18日	2月25日 報告会と相談の重層化（発達障害グレーゾーン層への就労相談・支援を事例に）
竹田市（市・社会福祉課）（NPO法人おおいた子ども支援ネット）	①8月12日 ②10月5日	11月24日 報告会・フィードバック 無料職業紹介の活用に向けた課題整理 2月25日 就労相談の重層化研修

【参加自治体交流会・シンポジウム】

・タイトル：「多様な地域連携による就労支援：現状把握と活動評価のPDCA」参加自治体交流会・シンポジウム

・日時：令和4年3月28日（月）

交流会：10時00分～12時30分

シンポジウム：13時30分～16時00分

・会場：TKPガーデンシティPREMIUM田町カンファレンスルーム4D

（東京都港区芝浦三丁目1番21号 msb Tamachi 田町ステーションタワーS 4階）

Zoom会場とのハイブリッド開催

・交流会の内容

開会・趣旨説明

参加自治体の紹介 ■■■■■氏（A'ワーク創造館副館長）

参加自治体からの報告とQ&A

<大阪府高槻市>高槻市健康福祉部福祉事務所 福祉相談支援課 くらしごとセンター ■■■■■氏

<東京都小平市>小平市社会福祉協議会地域福祉推進課こだいら生活相談支援センター ■■■■■氏

<長野県東御市>東御市社会福祉協議会 生活・就労支援センターまいさぼ東御 ■■■■■氏

<大分県竹田市>竹田市社会福祉課 ■■■■■氏

<大阪府富田林市>富田林市子育て福祉部増進型地域福祉課 ■■■■■氏

<兵庫県伊丹市>伊丹市健康福祉部地域福祉室地域・高年福祉課 ■■■■■氏

コメント ■■■■■氏（厚生労働省社会援護局生活困窮者自立支援室長）

・シンポジウムの内容

「利用しやすい就労支援に向けて多様な地域連携と地域づくりの進め方」

開会・趣旨説明 ■■■■■ 氏 ユニバーサル志縁センター専務理事

あいさつ ■■■■■ 氏 ユニバーサル志縁センター代表理事

講演 「地域連携による就労支援の展開 ～誰もが役割を持てる社会を目指して～」

■■■■■ 氏 厚生労働省社会・援護局地域福祉課 生活困窮者自立支援室長補佐

報告

1 当事業の説明と各地域の注目ポイント

■■■■■ 氏 A' ワーク創造館 副館長・就労支援室長

2 大分県竹田市での取り組み

■■■■■ 氏 おおいた子ども支援ネット 専務理事・事務局長

3 長野県東御市での取り組み

■■■■■ 氏 東御市社会福祉協議会 まいさぼ東御 主任相談支援員

4 取り組みの成果と展望

■■■■■ 氏

質疑応答

講演 「多様な連携（就労支援インフラ）づくりに向けて～プログラム評価の意義と方法～」

■■■■■ 氏 群馬医療福祉大学 社会福祉学部講師

今後に向けて ユニバーサル志縁センター事務局

## 5. 大規模災害時における復興支援活動事業

### 5-1. 復興活動に取り組む支援団体とのネットワークおよび情報交換、コーディネート等

東日本大震災や熊本地震等、大規模災害時に復興支援活動を行うとともに、復興支援活動に同様に取り組んでいる団体と意見交換の場を開催する(※6)。また、企業等(※7)による被災地支援におけるコーディネートを行う。

※6 東日本大震災支援全国ネットワークには、当団体が世話団体として参画

※7 企業等による被災地支援におけるコーディネートは当法人単独の事業として実施、これまでに、日本ヒューレット・パッカー社の福島県の高校等への社会貢献活動のコーディネート、日本マイクロソフト社による熊本市の避難者支援システムくまもと R ネットにおける協働事業、などに取り組んでいる。ほか、当団体が取り組んできた復興支援 IT ボランティアにおいては、文部科学省、ヤフー株式会社、株式会社バッファロー、デル株式会社、一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)、株式会社NTT ドコモ、KDDI 株式会社などと協働している。

#### 【東日本大震災支援全国ネットワーク】

本年度も東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)に、世話団体として参画。

#### 【Voice from 3.11】

Voice from 3.11 実行委員会は、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故から10年を一つの通過点と捉え、これまで被災者支援に関わってきた多様な組織に所属する「被災者」「避難者」「支援者」34名の有志が集まり2020年10月にスタート。以降、話し合いを積み重ねながら、組織やプロジェクトとしての考えや思想ではなく、当事者や支援者の個人の「ことば」を大切に、さまざまな活動を展開してきた。JCNが事務局の中心となっており実行委員会形式で開催するVoice from 3.11の実行委員に■■■■専務が参画。

#### ・Voice from 3.11 主旨

2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災(以下、3.11)から10年が経過します。社会的な節目となる2021年3月に、被災された方や避難を余儀なくされた方、そしてその人々を支えてきた支援者や心を寄せてくれた方々と共にこの10年を振り返り、それぞれのことばに耳を傾けることで、3.11という事象について広く知って頂く機会に、そしてその経験と教訓を未来へとつなげる機会とする。

#### ・Voice from 3.11 目的

社会的節目となる震災10年を機に、一人ひとりの復興に向けた取り組みの中で、被災された方や避難を余儀なくされた方、その人々を支える支援者、私たちが経験して気がついたことや大切にしてきた「それぞれの言葉」を広く伝えていくと共にアーカイブ化を図ります。そして地震と津波、原発災害によって及ぼした大きな課題とその解決に向けた取り組みを振り返り、このような惨劇を繰り返さないために、多くの方と共に考え、震災での教訓・気づきを、次の世代につなげ、社会化していくことを目的とする。

#### ・ことばの集い

社会的節目となる震災10年を機に、被災された方、避難を余儀なくされた方、その人々を支える支援者など、私たちが経験して気がついたことや大切にしてきたことを「ことば」として集め、社会に広く伝えていく取り組み。今後、集まった274の「ことば」を後世に残すためアーカイブ化を図る。

・みんなの集い/それぞれの集い

「ことばの集い」で寄せられたことばを岩手・宮城・福島の方々と共に噛みしめ、共感し、自らの想いを語り合う集い。2021年2月11日「みんなの集い」、3月18、25日「それぞれの集い」と開催した。「声を上げられない人々」「優しさの連鎖」などの気づきが、これらの集いから生まれた。つながりの集い 震災で生まれた/再認識したそれぞれの地域での「つながり」を見つめなおし、被災者や支援者の「声」をあらためて大事にしていこうという取組み。岩手県宮古市・釜石市・陸前高田市、宮城県南三陸町（映像作成）・七ヶ浜町、福島県いわき市・富岡町、東京都（広域避難）で実施した。

・ことばから紡いだわたしたちの宣言

Voice from 3.11 に寄せられた多くの「ことば」と、集いで語られた「声」から、わたしたちは「気づき」を得た。わたしたちは、その「ことば・声・気づき」を多くの方と分かち合い、大切にしていこうと、一人ひとりの行動につながることを願い、7つの宣言をまとめた。

## Voice from 3.11 ことばから紡いだ わたしたちの宣言



### あの日のこと、あの日からの思いを忘れない

Voice from 3.11 の「ことばの集い」「みんなの集い」「それぞれの集い」「つながりの集い」で集まった、語られた「ことば」。あの日の悲しみ、あの日からの苦しみ、今までの感謝…等、多くの思いが詰まっている。被災していても、被災していなくても、そのいずれもが忘れられない、忘れてはいけないもの。わたしたちはその思いを忘れない。

### 声なき声に耳を傾け続ける

10年たって初めて震災に関する気持ちを表した声が多く届いた。「心に空いてしまった穴をどうしたら埋められるか」、「どうしたら防げたのか」、失われたものは、戻ることがない。今も考え、悩み続け声に出せない方もいる。届けられた声の陰に、形にならない声がある。わたしたちはそんな声にならない声にも耳を傾ける。

### これまでの、あの時の、新しい「つながり」を大切にしていこう

震災で気づかされた様々な「つながり」。わたしたちは人と土地、地域と関わりのなかで生きている。震災で失ったつながり。新しくできたつながり。寄せられた言葉からは、さまざまなつながりを大切にしていこうとする思いが伝わってきた。わたしたちは一人ではなく、つながりによって誰かに支えられ、誰かを支えている。わたしたちはそのことを大切にしていこう。

### 若者の言葉を受け止め、ともに歩んでいく

子どもたちは大人が思う以上に家族や友達、地域や世の中の動きを見ていた。その中で感じた「違和感」「虚しさ」、新たに芽生えた「地元への希望」「確かな決意」。大人はこの思いに寄り添ってきただろうか。子ども・若者たちは、これから生きていく主体である。わたしたちは、これらの言葉を受け止め、社会を作る仲間として、ともに歩んでいく。

### ひとりの気づきをみんなに分かち合う

東日本大震災は多くの気づきをわたしたちに与えた。その気づきは「いのちや暮らしの尊さ」「つながりの多様さ」「コミュニティの大切さ」…本当に多様であった。それは必ずしもポジティブなものだけではないかもしれない。ただ、わたしたちが得たその気づきを一人の気づきに留めず、より多くの方と分かち合い、ともに何かを考える機会にしていこう。

### 原発事故がもたらした悲しみや苦しみに向きあい続ける

東日本大震災では、地震、津波災害に加え、原発事故を経験した。生まれ育った故郷や生活の場から離れての避難生活を続けられる人や、避難生活から故郷に戻られる人など、選択はそれぞれであり、選択できない人もいる。わたしたちはこの出来事を受け止め、個々の選択を尊重し、原発事故がもたらした悲しみや苦しみに向きあい続ける。

### 教訓を次の災害に必ず活かしていく

東日本大震災では、多くの「いのち」が奪われ「暮らし」が壊された。そしてこれらを礎にした教訓が残されている。南海トラフの巨大地震、首都直下地震、気候変動による大規模風水害、噴火、「災害大国・日本」には、想定されている災害は数多くある。これらの災害にその教訓を必ず活かしていく。

【協働型災害訓練】

2-2において詳細掲載。東日本大震災の経験と教訓を生かすべく、平成25年度国土交通省広域的地域間共助推進事業としてスタートした「協働型災害訓練 in 杉戸」に本年度も協力。市民キャビネット災害支援部会、(一社)協働型災害訓練、NPO埼玉ネットが中心に取り組み復興支援活動の報告や防災訓練等を実施。大規模災害時には一人でも多くの命を助けるために、効率と統一された災害対応が必要になるがこの訓練では、米国で誕生したICS(アイシーエス※)を用い、将来発生し得る大規模災害発生時に即時助け合いの対応ができる仕組みをつくることを目指し活動を行っている。※Incident(現場)Command(指揮)System(システム)の略

5-2. 地域コミュニティ活動支援

専門家と連携し地域における防災教育システムを用意し、公民館や仮設住宅・復興住宅の集会所等を軸としたコミュニティの活性化のための支援事業を被災地の支援団体と連携し取り組む。

【東日本大震災復興支援】

2011年より実施してきた復興支援ITボランティアで関わった大槌町、大船渡市、陸前高田市の関係者と当時学生であったボランティアリーダーと一緒に震災から10年の節目のタイミングということで、2021年度交流イベントを実施することを企画したが、新型コロナウイルス感染拡大のため延期。

5-3. 地域における震災を踏まえた調査研究

地域における震災を踏まえた調査研究を行なう。また、その成果を学会等のシンポジウムやポスター展示等で発表する。

【結果】本年度は未実施。

6. 機関運営(総会、理事会、事務局体制)

1 総会

定時総会 2021年6月21日10時~12時

臨時総会 2021年11月25日9時~9時15分 役員交代、定款変更について

2 理事会

第1回理事会 2021年4月19日13時~13時15分 若者おうえん基金新型コロナ緊急助成  
2021 助成先の承認について

第2回理事会 2021年5月25日(火)15時30分~17時30分 定例

第3回理事会 2021年6月21日(月)13時~13時15分 休眠預金活用新型コロナウイルス

ス

対応緊急支援助成「社会的養護アフターケア事業」実行団体 採択団体の承認について

第4回理事会 2021年7月1日(木)13時~13時15分 代表理事選任

第5回理事会 2021年11月1日(月)9時~11時 役員交代、規約制定、マイクラフト  
カップ事業経理、日本ライフライン様からの助成、休眠預金活用新型コロナウイルス  
対応緊急支援助成申請報告、定款変更について

(第1号議案)

- 第6回理事会  
の  
2021年11月18日(木)15時~15時15分 日本ライフライン株式会社から  
助成に関する応募審査、承認について
- 第7回理事会  
申請、  
2022年1月19日(水)10時~12時 日本財団2022年度通常募集への申  
休眠預金活用新型コロナウイルス対応緊急支援助成〈随時募集〉内定、ドミ  
ノ・ピザ、『クリスマスのための特別な「無料ピザで地域支援」』への企画  
協力、第9回協働型災害訓練 in 杉戸—CDT2022—への協力、令和3年12月  
16日付内閣府公益認定委員会からの確認依頼への対応、内閣府への変更認定  
申請、休眠預金活用2022年度通常枠申請、令和3年度補正予算によるWAM  
助成(コロナ禍における生活困窮者及びひきこもり支援に係る民間団体活動  
助成事業)への申請、多良木町プログラミング教育事業の実施について
- 第8回理事会  
承認  
2022年1月25日(火)9時~9時15分 第4回若者おうえん基金助成先承  
認
- 第9回理事会  
ス  
2022年2月28日(月)13時~13時15分 休眠預金活用新型コロナウイルス  
対応緊急支援助成「社会的養護アフターケア新型コロナ支援事業」実行団体  
採択団体の承認について
- 第10回理事会  
2022年3月9日(水)15時~17時 定例

- 3 事務局体制  
常勤4名 ( )

7. 資金状況報告  
別紙

8. その他

## 貸借対照表

公益社団法人ユニバーサル志縁センター

(円)

科目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
1.流動資産			
現金預金			
現金	93,606	163,994	△ 70,388
普通預金	8,899,085	33,390,424	△ 24,491,339
郵便振替口座	2,015,260	633,179	1,382,081
郵便振替口座 00100-1-421027若者	2,196,403	945,000	1,251,403
現金預金合計	13,204,354	35,132,597	△ 21,928,243
他の流動資産			
未収金	0	1,034	△ 1,034
前払金	0	392,200	△ 392,200
商品	334,033	334,175	△ 142
立替金	191,351	193,189	△ 1,838
前払費用	193,580	189,679	3,901
他の流動資産合計	718,964	1,110,277	△ 391,313
流動資産合計	13,923,318	36,242,874	△ 22,319,556
2.固定資産			
特定資産			
預金(マインクラフトカップ)	26,006,902	0	26,006,902
預金(市民ファンド)	1,400,000	0	1,400,000
預金(リコー)	300,000	0	300,000
特定資産合計	27,706,902	0	27,706,902
その他固定資産			
敷金	600,000	600,000	0
預託金	10,000	10,000	0
その他固定資産合計	610,000	610,000	0
固定資産合計	28,316,902	610,000	27,706,902
資産合計	42,240,220	36,852,874	5,387,346
<b>II 負債の部</b>			
1.流動負債			
未払金	288,117	1,150,956	△ 862,839
前受金	0	29,982,932	△ 29,982,932
預り金	109,122	301,789	△ 192,667
仮受金	51,171	64,152	△ 12,981
流動負債合計	448,410	31,499,829	△ 31,051,419
2.固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	448,410	31,499,829	△ 31,051,419
<b>III 正味財産の部</b>			
【指定正味財産】			
民間助成金	27,706,902	0	27,706,902
指定正味財産合計	27,706,902	0	27,706,902
(うち特定資産への充当額)	27,706,902	0	27,706,902
【一般正味財産】			
一般正味財産合計	14,084,908	5,353,045	8,731,863
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
正味財産合計	41,791,810	5,353,045	36,438,765
負債正味財産合計	42,240,220	36,852,874	5,387,346

※前年度は一般社団法人ユニバーサル志縁センターの数値

**正味財産増減計算書**  
 当期:2019年度 2019/04/01~2020/03/31  
 公益社団法人 ユニバーサル志縁センター

(円)

科目	当期	前期	増減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1.経常増減の部</b>			
<b>(1)経常収益</b>			
特定資産受取利息	197	0	197
受取入会金			
受取入会金合計	0	0	0
<b>受取会費</b>			
正会員受取会費	1,130,000	710,000	420,000
賛助会員受取会費	3,800,000	4,100,000	△ 300,000
受取会費合計	4,930,000	4,810,000	120,000
<b>事業収益</b>			
書籍等販売収益	341,800	266,800	75,000
イベント等企画事業収益	350,000	370,000	△ 20,000
講座・相談会等事業収益	100,000	190,000	△ 90,000
西武信金助成金告知・審査謝金	0	54,000	△ 54,000
事業収益合計	791,800	880,800	△ 89,000
<b>受取補助金等</b>			
受取国庫補助金	0	10,000,000	△ 10,000,000
受取民間助成金	31,282,932	2,249,558	29,033,374
受取補助金等振替額	385,440	0	385,440
受取補助金等合計	31,668,372	12,249,558	19,418,814
<b>受取負担金</b>			
受取負担金合計	0	0	0
<b>受取寄付金</b>			
受取寄付金	20,176,922	14,113,829	6,063,093
受取寄付金合計	20,176,922	14,113,829	6,063,093
<b>雑収益</b>			
受取利息	66	76	△ 10
雑収益	25,033	51,516	△ 26,483
雑収益合計	25,099	51,592	△ 26,493
<b>経常収益合計</b>	<b>57,592,390</b>	<b>32,105,779</b>	<b>25,486,611</b>
<b>(2)経常費用</b>			
<b>事業費</b>			
事)給料手当	6,536,430	4,441,320	2,095,110
事)賃金	0	3,555,200	△ 3,555,200
事)通勤費	250,065	262,744	△ 12,679
事)法定福利費	1,010,060	1,166,375	△ 156,315
事)会議費	92,039	65,709	26,330
事)会場費	150,030	480,936	△ 330,906
事)交際費	36,648	11,281	25,367
事)旅費交通費	2,128,210	1,022,452	1,105,758
事)通信運搬費	116,338	211,564	△ 95,226
事)消耗什器備品費	1,951	0	1,951
事)広告宣伝費	48,689	97,632	△ 48,943
事)消耗品費	76,451	74,341	2,110
事)事務用品費	56,440	28,771	27,669
事)新聞図書費	6,156	0	6,156
事)印刷製本費	501,722	867,293	△ 365,571
事)書籍仕入	221,408	136,840	84,568
事)棚卸増減	142	141	1
事)リース料	443,718	242,028	201,690
事)光熱水料費	103,623	97,397	6,226
事)賃借料	0	1,348,693	△ 1,348,693
事)支払地代家賃	1,363,279	0	1,363,279
事)保険料	53,955	43,021	10,934
事)諸謝金	485,542	583,665	△ 98,123
事)報酬	1,023,180	0	1,023,180
事)租税公課	6,885	12,080	△ 5,195
事)消費税	1,812,993	12,338	1,800,655

**正味財産増減計算書**  
 当期:2019年度 2019/04/01~2020/03/31  
 公益社団法人 ユニバーサル志縁センター

(円)

科 目	当 期	前 期	増 減
事)支払負担金	126,000	120,000	6,000
事)支払助成金	9,294,000	10,567,020	△ 1,273,020
事)委託費	21,016,418	8,042,424	12,973,994
事)イベント費	0	6,000	△ 6,000
事)支払手数料	56,045	42,766	13,279
事)雑費	27,690	239	27,451
<b>事業費計</b>	<b>47,046,107</b>	<b>33,540,270</b>	<b>13,505,837</b>
<b>管理費</b>			
給料手当	726,270	493,480	232,790
通勤費	27,785	29,194	△ 1,409
法定福利費	112,229	129,597	△ 17,368
会議費	672	14,491	△ 13,819
会場費	2,270	33,044	△ 30,774
交際費	4,072	1,253	2,819
旅費交通費	16,047	25,158	△ 9,111
通信運搬費	11,500	29,531	△ 18,031
消耗什器備品費	217	0	217
消耗品費	5,004	2,961	2,043
事務用品費	936	2,333	△ 1,397
新聞図書費	684	0	684
印刷製本費	30,602	60,190	△ 29,588
リース料	49,302	26,892	22,410
光熱水料費	11,514	10,822	692
賃借料	0	149,855	△ 149,855
支払地代家賃	151,475	0	151,475
保険料	5,995	3,553	2,442
租税公課	765	1,120	△ 355
消費税	5,023	0	5,023
支払会費	110,800	110,800	0
支払寄付金	10,000	20,000	△ 10,000
委託費	65,884	11,750	54,134
支払報酬	393,000	318,960	74,040
支払手数料	2,374	2,388	△ 14
雑費	0	27	△ 27
<b>管理費合計</b>	<b>1,744,420</b>	<b>1,477,399</b>	<b>267,021</b>
<b>経常費用計</b>	<b>48,790,527</b>	<b>35,017,669</b>	<b>13,772,858</b>
<b>評価損益等調整前当期経常増減額</b>	<b>8,801,863</b>	<b>△ 2,911,890</b>	<b>11,713,753</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>8,801,863</b>	<b>△ 2,911,890</b>	<b>11,713,753</b>
<b>2.経常外増減の部</b>			
<b>(1)経常外収益</b>			
経常外収益合計	0	0	0
<b>(2)経常外費用</b>			
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
<b>経常外費用計</b>	<b>70,000</b>	<b>70,000</b>	<b>0</b>
<b>当期経常外増減額</b>	<b>△ 70,000</b>	<b>△ 70,000</b>	<b>0</b>
<b>当期一般正味財産増減額</b>	<b>8,731,863</b>	<b>△ 2,981,890</b>	<b>11,713,753</b>
一般正味財産期首残高	5,353,045	8,334,935	△ 2,981,890
一般正味財産期末残高	14,084,908	5,353,045	8,731,863
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
受取民間助成金	28,092,342	0	28,092,342
<b>一般正味財産への振替額</b>			
民間助成金振替額	△ 385,440	0	△ 385,440
<b>当期指定正味財産増減額</b>	<b>27,706,902</b>	<b>0</b>	<b>27,706,902</b>
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	27,706,902	0	27,706,902
<b>III 基金増減の部</b>			
<b>IV 正味財産期末残高</b>	<b>41,791,810</b>	<b>5,353,045</b>	<b>36,438,765</b>

※前期は一般社団法人ユニバーサル志縁センターの数値

## 2019年度 正味財産増減計算書 内訳表

2019/04/01~2020/03/31

(円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	合計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
<b>(1) 経常収益</b>			
特定資産受取利息	197	0	197
<b>受取入金</b>			
受取入金合計	0	0	0
<b>受取会費</b>			
正会員受取会費	565,000	565,000	1,130,000
賛助会員受取会費	1,900,000	1,900,000	3,800,000
受取会費合計	2,465,000	2,465,000	4,930,000
<b>事業収益</b>			
書籍等販売収益	341,800	0	341,800
イベント等企画事業収益	350,000	0	350,000
講座・相談会等事業収益	100,000	0	100,000
事業収益合計	791,800	0	791,800
<b>受取補助金等</b>			
受取民間助成金	31,282,932	0	31,282,932
受取補助金等振替額	385,440	0	385,440
受取補助金等合計	31,668,372	0	31,668,372
<b>受取負担金</b>			
受取負担金合計	0	0	0
<b>受取寄付金</b>			
受取寄付金	19,217,180	959,742	20,176,922
受取寄付金合計	19,217,180	959,742	20,176,922
<b>雑収益</b>			
受取利息	0	66	66
雑収益	0	25,033	25,033
雑収益合計	0	25,099	25,099
<b>経常収益合計</b>	<b>54,142,549</b>	<b>3,449,841</b>	<b>57,592,390</b>
<b>(2) 経常費用</b>			
<b>事業費</b>			
事)給料手当	6,536,430	0	6,536,430
事)通勤費	250,065	0	250,065
事)法定福利費	1,010,060	0	1,010,060
事)会議費	92,039	0	92,039
事)会場費	150,030	0	150,030
事)交際費	36,648	0	36,648
事)旅費交通費	2,128,210	0	2,128,210
事)通信運搬費	116,338	0	116,338
事)消耗什器備品費	1,951	0	1,951
事)広告宣伝費	48,689	0	48,689
事)消耗品費	76,451	0	76,451
事)事務用品費	56,440	0	56,440
事)新聞図書費	6,156	0	6,156
事)印刷製本費	501,722	0	501,722
事)書籍仕入	221,408	0	221,408
事)棚卸増減	142	0	142
事)リース料	443,718	0	443,718
事)光熱水料費	103,623	0	103,623
事)支払地代家賃	1,363,279	0	1,363,279
事)保険料	53,955	0	53,955
事)諸謝金	485,542	0	485,542
事)報酬	1,023,180	0	1,023,180
事)租税公課	6,885	0	6,885
事)消費税	1,812,993	0	1,812,993
事)支払負担金	126,000	0	126,000
事)支払助成金	9,294,000	0	9,294,000
事)委託費	21,016,418	0	21,016,418
事)支払手数料	56,045	0	56,045
事)雑費	27,690	0	27,690
<b>事業費計</b>	<b>47,046,107</b>	<b>0</b>	<b>47,046,107</b>

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計
管理費			
給料手当	0	726,270	726,270
通勤費	0	27,785	27,785
法定福利費	0	112,229	112,229
会議費	0	672	672
会場費	0	2,270	2,270
交際費	0	4,072	4,072
旅費交通費	0	16,047	16,047
通信運搬費	0	11,500	11,500
消耗什器備品費	0	217	217
消耗品費	0	5,004	5,004
事務用品費	0	936	936
新聞図書費	0	684	684
印刷製本費	0	30,602	30,602
リース料	0	49,302	49,302
光熱水料費	0	11,514	11,514
支払地代家賃	0	151,475	151,475
保険料	0	5,995	5,995
租税公課	0	765	765
消費税	0	5,023	5,023
支払会費	0	110,800	110,800
支払寄付金	0	10,000	10,000
委託費	0	65,884	65,884
支払報酬	0	393,000	393,000
支払手数料	0	2,374	2,374
管理費合計	0	1,744,420	1,744,420
経常費用計	47,046,107	1,744,420	48,790,527
評価損益等調整前当期経常増減額	7,096,442	1,705,421	8,801,863
当期経常増減額	7,096,442	1,705,421	8,801,863
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益合計	0	0	0
(2)経常外費用			
法人税、住民税及び事業税	0	70,000	70,000
経常外費用計	0	70,000	70,000
当期経常外増減額	0	△ 70,000	△ 70,000
当期一般正味財産増減額	7,096,442	1,635,421	8,731,863
一般正味財産期首残高			5,353,045
一般正味財産期末残高			14,084,908
II 指定正味財産増減の部			
受取民間助成金	28,092,342	0	28,092,342
一般正味財産への振替額			
民間助成金振替額	△ 385,440	0	△ 385,440
当期指定正味財産増減額	27,706,902	0	27,706,902
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	27,706,902	0	27,706,902
III 基金増減の部			
IV 正味財産期末残高			41,791,810

2019年度 正味財産増減計算書 内訳表  
2019/04/01～2020/03/31

(円)

科 目	公益目的事業会計						法人会計	合 計	
	ユニバーサルな 地域社会	ユニバーサル 就労(集)	ユニバーサル 農業	社会的企業の主流化促 進とNPOとの協働	東日本大震災 復興活動支援	公益共通			小 計
I 一般正味財産増減の部									
1.経常増減の部									
(1)経常収益									
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	197	197	0	197
受取入会金									
受取入会金合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取会費									
正会員受取会費	0	0	0	0	0	565,000	565,000	565,000	1,130,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	1,900,000	1,900,000	1,900,000	3,800,000
受取会費合計	0	0	0	0	0	2,465,000	2,465,000	2,465,000	4,930,000
事業収益									
書籍等販売収益	341,800	0	0	0	0	0	341,800	0	341,800
イベント等企画事業収益	350,000	0	0	0	0	0	350,000	0	350,000
講座・相談会等事業収益	100,000	0	0	0	0	0	100,000	0	100,000
事業収益合計	791,800	0	0	0	0	0	791,800	0	791,800
受取補助金等									
受取民間助成金	31,282,932	0	0	0	0	0	31,282,932	0	31,282,932
受取補助金等振替額	385,440	0	0	0	0	0	385,440	0	385,440
受取補助金等合計	31,668,372	0	0	0	0	0	31,668,372	0	31,668,372
受取負担金									
受取負担金合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金									
受取寄付金	18,387,180	0	0	0	830,000	0	19,217,180	959,742	20,176,922
受取寄付金合計	18,387,180	0	0	0	830,000	0	19,217,180	959,742	20,176,922
雑収益									
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	66	66
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	25,033	25,033
雑収益合計	0	0	0	0	0	0	0	25,099	25,099
経常収益合計	50,847,352	0	0	0	830,000	2,465,197	54,142,549	3,449,841	57,592,390
(2)経常費用									
事業費									
事)給料手当	0	0	0	0	0	6,536,430	6,536,430	0	6,536,430
事)通勤費	0	0	0	0	0	250,065	250,065	0	250,065
事)法定福利費	0	0	0	0	0	1,010,060	1,010,060	0	1,010,060
事)会議費	71,522	0	0	14,472	0	6,045	92,039	0	92,039
事)会場費	96,600	0	0	33,000	0	20,430	150,030	0	150,030
事)交際費	0	0	0	0	0	36,648	36,648	0	36,648
事)旅費交通費	1,833,241	0	0	6,907	143,640	144,422	2,128,210	0	2,128,210
事)通信運搬費	5,144	0	0	7,692	0	103,502	116,338	0	116,338
事)消耗什器備品費	0	0	0	0	0	1,951	1,951	0	1,951
事)広告宣伝費	36,994	0	0	0	11,695	0	48,689	0	48,689
事)消耗品費	31,420	0	0	0	0	45,031	76,451	0	76,451
事)事務用品費	48,015	0	0	0	0	8,425	56,440	0	56,440
事)新聞図書費	0	0	0	0	0	6,156	6,156	0	6,156
事)印刷製本費	215,100	0	0	11,200	0	275,422	501,722	0	501,722
事)書籍仕入	221,408	0	0	0	0	0	221,408	0	221,408
事)棚卸増減	142	0	0	0	0	0	142	0	142
事)リース料	0	0	0	0	0	443,718	443,718	0	443,718
事)光熱水料費	0	0	0	0	0	103,623	103,623	0	103,623
事)支払地代家賃	0	0	0	0	0	1,363,279	1,363,279	0	1,363,279
事)保険料	0	0	0	0	0	53,955	53,955	0	53,955
事)諸謝金	485,542	0	0	0	0	0	485,542	0	485,542
事)報酬	1,023,180	0	0	0	0	0	1,023,180	0	1,023,180
事)租税公課	0	0	0	0	0	6,885	6,885	0	6,885
事)消費税	1,767,786	0	0	0	0	45,207	1,812,993	0	1,812,993
事)支払負担金	126,000	0	0	0	0	0	126,000	0	126,000

科 目	公益目的事業会計							法人会計	合 計
	ユニバーサルな 地域社会	ユニバーサル 就労(集)	ユニバーサル 農業	社会的企業の主流化促 進とNPOとの協働	東日本大震災 復興活動支援	公益共通	小 計		
事)支払助成金	9,294,000	0	0	0	0	0	9,294,000	0	9,294,000
事)委託費	19,758,922	0	0	0	664,540	592,956	21,016,418	0	21,016,418
事)支払手数料	28,376	0	0	218	6,083	21,368	56,045	0	56,045
事)雑費	27,690	0	0	0	0	0	27,690	0	27,690
事業費計	35,071,082	0	0	73,489	825,958	11,075,578	47,046,107	0	47,046,107
管理費									
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	726,270	726,270
通勤費	0	0	0	0	0	0	0	27,785	27,785
法定福利費	0	0	0	0	0	0	0	112,229	112,229
会議費	0	0	0	0	0	0	0	672	672
会場費	0	0	0	0	0	0	0	2,270	2,270
交際費	0	0	0	0	0	0	0	4,072	4,072
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	16,047	16,047
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	11,500	11,500
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	0	0	217	217
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	5,004	5,004
事務用品費	0	0	0	0	0	0	0	936	936
新聞図書費	0	0	0	0	0	0	0	684	684
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	30,602	30,602
リース料	0	0	0	0	0	0	0	49,302	49,302
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	0	11,514	11,514
支払地代家賃	0	0	0	0	0	0	0	151,475	151,475
保険料	0	0	0	0	0	0	0	5,995	5,995
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	765	765
消費税	0	0	0	0	0	0	0	5,023	5,023
支払会費	0	0	0	0	0	0	0	110,800	110,800
支払寄付金	0	0	0	0	0	0	0	10,000	10,000
委託費	0	0	0	0	0	0	0	65,884	65,884
支払報酬	0	0	0	0	0	0	0	393,000	393,000
支払手数料	0	0	0	0	0	0	0	2,374	2,374
管理費合計	0	0	0	0	0	0	0	1,744,420	1,744,420
経常費用計	35,071,082	0	0	73,489	825,958	11,075,578	47,046,107	1,744,420	48,790,527
評価損益等調整前当期経常増減額	15,776,270	0	0	△ 73,489	4,042	△ 8,610,381	7,096,442	1,705,421	8,801,863
当期経常増減額	15,776,270	0	0	△ 73,489	4,042	△ 8,610,381	7,096,442	1,705,421	8,801,863
2.経常外増減の部									
(1)経常外収益									
経常外収益合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用									
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0	0	0	0	70,000	70,000
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	70,000	70,000
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	△ 70,000	△ 70,000
当期一般正味財産増減額	15,776,270	0	0	△ 73,489	4,042	△ 8,610,381	7,096,442	1,635,421	8,731,863
一般正味財産期首残高									5,353,045
一般正味財産期末残高									14,084,908
II 指定正味財産増減の部									
受取民間助成金	28,092,342	0	0	0	0	0	28,092,342	0	28,092,342
一般正味財産への振替額									
民間助成金振替額	△ 385,440	0	0	0	0	0	△ 385,440	0	△ 385,440
当期指定正味財産増減額	27,706,902	0	0	0	0	0	27,706,902	0	27,706,902
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	27,706,902	0	0	0	0	0	27,706,902	0	27,706,902
III 基金増減の部									
IV 正味財産期末残高									41,791,810

財産目録

令和2年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>				
<b>現金預金</b>				
	現金	現金手元有り高		93,606
	普通預金			8,899,085
	--三菱UFJ銀行	三菱UFJ銀行		15,806,877
	--中央労働金庫	中央労働金庫		3,498,115
	--三菱UFJ銀行東日本復興基金	三菱UFJ銀行		317,667
	--三菱UFJ銀行0953707	三菱UFJ銀行		13
	--三菱UFJ 1440825 首都圏若	三菱UFJ銀行		1,536,305
	--中央労働金庫 184608 首都圏若	中央労働金庫		13,746,910
	--中央労働金庫 207687 首都圏若	中央労働金庫		100
	--特定資産振替マインクラフトカップ	普通預金	助成金拠出者の定めた用途にあてるために保有している資金であり公益目的事業の事業費として管理されている預金を特定資産に振替	△ 26,006,902
	郵便振替口座	ゆうちょ銀行		2,015,260
	郵便振替00100-1-421027若者	ゆうちょ銀行		2,196,403
<b>他の流動資産</b>				
	商品	書籍	決算整理 書籍期末棚卸高 私らしきノート@450×20冊 9,000円 システムガイドブック@141.75×2,293冊 325,033円	334,033
	立替金			191,351
	--COJ		東京ガス(株)ガス代2月分 379円 東京ガス(株)ガス代3月分 450円 家賃立替4月分 76,000円 電気代2月分 9,630円 印刷費立替1月分 510円 インターネット接続サービス代4月分 330円 ラディックス(株)電話代1月分 2,196円 ステラ光サービス料金4月分 2,200円	91,695
	--団体生命保険料(あいおい損保)			55,856
	--その他		退職者にかかる未精算金	43,800
	前払費用		4月分家賃/ミノルホールディングス(株) 127,580円 令和2年度会費/霞が関ナレッジスクエア 66,000円	193,580
<b>流動資産合計</b>				<b>13,923,318</b>
<b>(固定資産)</b>				
<b>特定資産</b>				
	預金マインクラフトカップ	普通預金	助成金拠出者の定めた用途にあてるために保有している資金であり公益目的事業の事業費として管理されている預金	26,006,902
	預金市民ファンド	--三菱UFJ 1440825 首都圏若	助成金拠出者の定めた用途にあてるために保有している資金であり公益目的事業の事業費として管理されている預金	1,400,000
	預金リコー	--三菱UFJ 1440825 首都圏若	助成金拠出者の定めた用途にあてるために保有している資金であり公益目的事業の事業費として管理されている預金	300,000
<b>その他固定資産</b>				
	敷金			600,000
	預託金			10,000
	--(一社)協同総合研究所			10,000
<b>固定資産合計</b>				<b>28,316,902</b>
<b>資産合計</b>				<b>42,240,220</b>
<b>(流動負債)</b>				
	未払金			288,117
	--NPO支援東京会議(会計日誌)			99,684
	--社会保険料			80,398
	--その他			108,035
	預り金			109,122
	--源泉所得税			48,860
	--社会保険料			77,562
	--住民税			△ 17,300
	仮受金			51,171
<b>流動負債合計</b>				<b>448,410</b>
<b>(固定負債)</b>				
<b>固定負債合計</b>				<b>0</b>
<b>負債合計</b>				<b>448,410</b>
<b>正味財産合計</b>				<b>41,791,810</b>

# 監査報告書

公益社団法人 ユニバーサル志縁センター  
代表理事 池田 徹 殿

令和2年6月22日

監事 山根真知子  
監事 野田 昭次

私たち監事は、当法人の平成31年4月1日から令和2年3月31日までの令和元年度の理事の職務の執行について監査を行いましたので、定款第49条に基づき監査報告書を作成し、報告します。

## 1、監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事及び使用人等からその職務の執行について報告を受け、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、令和元年度の貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書及び財産目録（以下、「財務諸表等」という。）について監査しました。

## 2、監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ①事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②理事の職務の執行に関する不正の行為または法令若しくは定款に違反する重大な事実  
は認められません。

### (2) 財務諸表等の監査結果

財務諸表等は、当法人の財産及び損益の状況について適正に示していると認めます。

貸借対照表  
2021年3月31日現在

公益社団法人ユニバーサル志縁センター

(円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	5,354	93,606	△ 88,252
普通預金	2,553,719	8,899,085	△ 6,345,366
郵便振替口座	684,971	2,015,260	△ 1,330,289
郵便振替口座00100-1-421027若者	2,405,887	2,196,403	209,484
現金預金合計	5,649,931	13,204,354	△ 7,554,423
他の流動資産			
商品	334,033	334,033	0
立替金	100,901	191,351	△ 90,450
前払費用	206,080	193,580	12,500
他の流動資産合計	641,014	718,964	△ 77,950
流動資産合計	6,290,945	13,923,318	△ 7,632,376
2. 固定資産			
特定資産			
預金(マインクラフトカップ)	7,513,600	26,006,902	△ 18,493,302
預金(市民ファンド)		1,400,000	△ 1,400,000
預金(リコー)		300,000	△ 300,000
預金(JANPIA)	89,796,000		89,796,000
預金(日本ライフライン)	20,000,000		20,000,000
預金(若者おうえん基金匿名寄付)	6,000,000		6,000,000
預金(若者おうえん基金小口寄付)	362,856		362,856
預金(パルシステム)	900,000		900,000
特定資産合計	124,572,456	27,706,902	96,865,554
その他固定資産			
敷金		600,000	△ 600,000
保証金	263,746		263,746
預託金	10,000	10,000	0
その他固定資産合計	273,746	610,000	△ 336,254
固定資産合計	124,846,202	28,316,902	96,529,300
資産合計	131,137,147	42,240,220	88,896,927
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	555,343	288,117	267,226
預り金	184,212	109,122	75,090
仮受金	23,702	51,171	△ 27,469
流動負債合計	763,257	448,410	314,847
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	763,257	448,410	314,847
III 正味財産の部			
【指定正味財産】			
民間助成金	124,572,456	27,706,902	96,865,554
指定正味財産合計	124,572,456	27,706,902	96,865,554
(うち特定資産への充当額)	124,572,456	27,706,902	96,865,554
【一般正味財産】			
一般正味財産合計	5,801,434	14,084,908	△ 8,283,474
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
正味財産合計	130,373,890	41,791,810	88,582,080
負債正味財産合計	131,137,147	42,240,220	88,896,927

**正味財産増減計算書**  
 当期: 2020年度 2020/04/01~2021/03/31  
 公益社団法人 ユニバーサル志縁センター

(円)

科目	当期	前期	増減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
<b>(1) 経常収益</b>			
特定資産受取利息	121	197	△ 76
受取入会金			
受取入会金合計	0	0	0
受取会費			
正会員受取会費	720,000	1,130,000	△ 410,000
賛助会員受取会費	4,200,000	3,800,000	400,000
受取会費合計	4,920,000	4,930,000	△ 10,000
事業収益			
書籍等販売収益	215,500	341,800	△ 126,300
イベント等企画事業収益	44,895	350,000	△ 305,105
講座・相談会等事業収益	0	100,000	△ 100,000
事業収益合計	260,395	791,800	△ 531,405
受取補助金等			
受取国庫補助金	0	0	0
受取民間助成金	2,348,973	31,282,932	△ 28,933,959
受取補助金等振替額	20,193,302	385,440	19,807,862
受取補助金等合計	22,542,275	31,668,372	△ 9,126,097
受取負担金			
受取負担金合計	0	0	0
受取寄付金			
受取寄付金	32,288,260	20,176,922	12,111,338
受取寄付金合計	32,288,260	20,176,922	12,111,338
雑収益			
受取利息	141	66	75
雑収益	947,213	25,033	922,180
雑収益合計	947,354	25,099	922,255
<b>経常収益合計</b>	<b>60,958,405</b>	<b>57,592,390</b>	<b>3,366,015</b>
<b>(2) 経常費用</b>			
事業費			
事) 給料手当	9,094,059	6,536,430	2,557,629
事) 通勤費	130,338	250,065	△119,727
事) 法定福利費	1,347,135	1,010,060	337,075
事) 福利厚生費	9,500	0	9,500
事) 会議費	5,287	92,039	△86,752
事) 会場費	12,100	150,030	△137,930
事) 交際費	58,631	36,648	21,983
事) 旅費交通費	182,426	2,128,210	△1,945,784
事) 通信運搬費	266,627	116,338	150,289
事) 保証金償却	319,441	0	319,441
事) 消耗什器備品費	0	1,951	△1,951
事) 広告宣伝費	2,137,328	48,689	2,088,639
事) 消耗品費	58,208	76,451	△18,243
事) 事務用品費	77,012	56,440	20,572
事) 新聞図書費	0	6,156	△6,156
事) 印刷製本費	1,108,143	501,722	606,421
事) 書籍仕入	185,520	221,408	△35,888
事) 棚卸増減	0	142	△142
事) リース料	510,948	443,718	67,230
事) 光熱水料費	152,471	103,623	48,848
事) 支払地代家賃	1,525,662	1,363,279	162,383
事) 保険料	47,352	53,955	△6,603
事) 諸謝金	1,188,341	485,542	702,799
事) 報酬	0	1,023,180	△1,023,180
事) 租税公課	2,802	6,885	△4,083
事) 消費税	903,898	1,812,993	△909,095
事) 支払負担金	120,000	126,000	△6,000

**正味財産増減計算書**  
 当期:2020年度 2020/04/01~2021/03/31  
 公益社団法人 ユニバーサル志縁センター

(円)

科目	当期	前期	増減
事)支払助成金	33,539,450	9,294,000	24,245,450
事)委託費	14,925,969	21,016,418	△6,090,449
事)支払手数料	76,433	56,045	20,388
事)雑費	270,184	27,690	242,494
事業費計	68,255,265	47,046,107	21,209,158
<b>管理費</b>			
給料手当	231,266	726,270	△495,004
通勤費	6,798	27,785	△20,987
法定福利費	70,902	112,229	△41,327
福利厚生費	500	0	500
会議費	42	672	△630
会場費	0	2,270	△2,270
交際費	252	4,072	△3,820
旅費交通費	157	16,047	△15,890
通信運搬費	7,638	11,500	△3,862
保証金償却	16,813	0	16,813
消耗什器備品費	0	217	△217
広告宣伝費	955	0	955
消耗品費	2,154	5,004	△2,850
事務用品費	2,210	936	1,274
新聞図書費	0	684	△684
印刷製本費	8,138	30,602	△22,464
リース料	26,892	49,302	△22,410
光熱水料費	8,025	11,514	△3,489
支払地代家賃	80,298	151,475	△71,177
保険料	1,698	5,995	△4,297
諸謝金	2,439	0	2,439
租税公課	148	765	△617
消費税	812	5,023	△4,211
支払会費	112,000	110,800	1,200
支払寄付金	0	10,000	△10,000
委託費	9,464	65,884	△56,420
支払報酬	396,000	393,000	3,000
支払手数料	980	2,374	△1,394
雑費	33	0	33
管理費合計	986,614	1,744,420	△757,806
<b>経常費用計</b>	69,241,879	48,790,527	20,451,352
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 8,283,474	8,801,863	△17,085,337
<b>当期経常増減額</b>	△ 8,283,474	8,801,863	△17,085,337
<b>2.経常外増減の部</b>			
(1)経常外収益			
経常外収益合計	0	0	0
(2)経常外費用			
法人税、住民税及び事業税		70,000	△ 70,000
経常外費用計	0	70,000	△ 70,000
<b>当期経常外増減額</b>	0	△ 70,000	70,000
<b>当期一般正味財産増減額</b>	△ 8,283,474	8,731,863	△ 17,015,337
一般正味財産期首残高	14,084,908	5,353,045	8,731,863
一般正味財産期末残高	5,801,434	14,084,908	△ 8,283,474
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			0
受取民間助成金	117,058,856	28,092,342	88,966,514
一般正味財産への振替額			0
民間助成金振替額	△ 20,193,302	△ 385,440	△ 19,807,862
<b>当期指定正味財産増減額</b>	96,865,554	27,706,902	69,158,652
指定正味財産期首残高	27,706,902	0	27,706,902
指定正味財産期末残高	124,572,456	27,706,902	96,865,554
<b>III 基金増減の部</b>			0
<b>IV 正味財産期末残高</b>	130,373,890	41,791,810	88,582,080

2020年度 正味財産増減計算書 内訳表  
2020/04/01～2021/03/31

(円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	合計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
<b>(1) 経常収益</b>			
特定資産受取利息	121	0	121
<b>受取入会金</b>			
受取入会金合計	0	0	0
<b>受取会費</b>			
正会員受取会費	360,000	360,000	720,000
賛助会員受取会費	2,100,000	2,100,000	4,200,000
受取会費合計	2,460,000	2,460,000	4,920,000
<b>事業収益</b>			
書籍等販売収益	215,500	0	215,500
イベント等企画事業収益	44,895	0	44,895
事業収益合計	260,395	0	260,395
<b>受取補助金等</b>			
受取民間助成金	2,348,973	0	2,348,973
受取補助金等振替額	20,193,302	0	20,193,302
受取補助金等合計	22,542,275	0	22,542,275
<b>受取負担金</b>			
受取負担金合計	0	0	0
<b>受取寄付金</b>			
受取寄付金	32,065,817	222,443	32,288,260
受取寄付金合計	32,065,817	222,443	32,288,260
<b>雑収益</b>			
受取利息	0	141	141
雑収益	925,623	21,590	947,213
雑収益合計	925,623	21,731	947,354
<b>経常収益合計</b>	<b>58,254,231</b>	<b>2,704,174</b>	<b>60,958,405</b>
<b>(2) 経常費用</b>			
<b>事業費</b>			
事)給料手当	9,094,059	0	9,094,059
事)通勤費	130,338	0	130,338
事)法定福利費	1,347,135	0	1,347,135
事)福利厚生費	9,500	0	9,500
事)会議費	5,287	0	5,287
事)会場費	12,100	0	12,100
事)交際費	58,631	0	58,631
事)旅費交通費	182,426	0	182,426
事)通信運搬費	266,627	0	266,627
事)保証金償却	319,441	0	319,441
事)広告宣伝費	2,137,328	0	2,137,328
事)消耗品費	58,208	0	58,208
事)事務用品費	77,012	0	77,012
事)印刷製本費	1,108,143	0	1,108,143
事)書籍仕入	185,520	0	185,520
事)リース料	510,948	0	510,948
事)光熱水料費	152,471	0	152,471
事)支払地代家賃	1,525,662	0	1,525,662
事)保険料	47,352	0	47,352
事)諸謝金	1,188,341	0	1,188,341
事)租税公課	2,802	0	2,802
事)消費税	903,898	0	903,898

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計
事)支払負担金	120,000	0	120,000
事)支払助成金	33,539,450	0	33,539,450
事)委託費	14,925,969	0	14,925,969
事)支払手数料	76,433	0	76,433
事)雑費	270,184	0	270,184
事業費計	68,255,265	0	68,255,265
管理費			
給料手当	0	231,266	231,266
通勤費	0	6,798	6,798
法定福利費	0	70,902	70,902
福利厚生費	0	500	500
会議費	0	42	42
交際費	0	252	252
旅費交通費	0	157	157
通信運搬費	0	7,638	7,638
保証金償却	0	16,813	16,813
広告宣伝費	0	955	955
消耗品費	0	2,154	2,154
事務用品費	0	2,210	2,210
印刷製本費	0	8,138	8,138
リース料	0	26,892	26,892
光熱水料費	0	8,025	8,025
支払地代家賃	0	80,298	80,298
保険料	0	1,698	1,698
諸謝金	0	2,439	2,439
租税公課	0	148	148
消費税	0	812	812
支払会費	0	112,000	112,000
委託費	0	9,464	9,464
支払報酬	0	396,000	396,000
支払手数料	0	980	980
雑費	0	33	33
管理費合計	0	986,614	986,614
経常費用計	68,255,265	986,614	69,241,879
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 10,001,034	1,717,560	△ 8,283,474
当期経常増減額	△ 10,001,034	1,717,560	△ 8,283,474
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益合計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 10,001,034	1,717,560	△ 8,283,474
一般正味財産期首残高			14,084,908
一般正味財産期末残高			5,801,434
II 指定正味財産増減の部			
受取民間助成金	117,058,856	0	117,058,856
一般正味財産への振替額			
民間助成金振替額	△ 20,193,302	0	△ 20,193,302
当期指定正味財産増減額	96,865,554	0	96,865,554
指定正味財産期首残高	27,706,902	0	27,706,902
指定正味財産期末残高	124,572,456	0	124,572,456
III 基金増減の部			
IV 正味財産期末残高			130,373,890

2020年度 正味財産増減計算書 内訳表  
2020/04/01～2021/03/31

(円)

科 目	公益目的事業会計						法人会計	合 計	
	ユニバーサルな 地域社会	ユニバーサル 就労(集)	ユニバーサル 農業	社会的企業の主流化促進 とNPOとの協働	東日本大震災 復興活動支援	公益共通			小 計
I 一般正味財産増減の部									
1.経常増減の部									
(1)経常収益									
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	121	121	0	121
受取入会金									
受取入会金合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取会費									
正会員受取会費	0	0	0	0	0	360,000	360,000	360,000	720,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	2,100,000	2,100,000	2,100,000	4,200,000
受取会費合計	0	0	0	0	0	2,460,000	2,460,000	2,460,000	4,920,000
事業収益									
書籍等販売収益	215,500	0	0	0	0	0	215,500	0	215,500
イベント等企画事業収益	44,895	0	0	0	0	0	44,895	0	44,895
事業収益合計	260,395	0	0	0	0	0	260,395	0	260,395
受取補助金等									
受取民間助成金	2,348,973	0	0	0	0	0	2,348,973	0	2,348,973
受取補助金等振替額	20,193,302	0	0	0	0	0	20,193,302	0	20,193,302
受取補助金等合計	22,542,275	0	0	0	0	0	22,542,275	0	22,542,275
受取負担金									
受取負担金合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金									
受取寄付金	32,065,817	0	0	0	0	0	32,065,817	222,443	32,288,260
受取寄付金合計	32,065,817	0	0	0	0	0	32,065,817	222,443	32,288,260
雑収益									
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	141	141
雑収益	925,623	0	0	0	0	0	925,623	21,590	947,213
雑収益合計	925,623	0	0	0	0	0	925,623	21,731	947,354
経常収益合計	55,794,110	0	0	0	0	2,460,121	58,254,231	2,704,174	60,958,405
(2)経常費用									
事業費									
事)給料手当	4,700,000	0	0	0	0	4,394,059	9,094,059	0	9,094,059
事)通勤費	1,176	0	0	0	0	129,162	130,338	0	130,338
事)法定福利費	0	0	0	0	0	1,347,135	1,347,135	0	1,347,135
事)福利厚生費	0	0	0	0	0	9,500	9,500	0	9,500
事)会議費	4,497	0	0	0	0	790	5,287	0	5,287
事)会場費	12,100	0	0	0	0	0	12,100	0	12,100
事)交際費	53,833	0	0	0	0	4,798	58,631	0	58,631
事)旅費交通費	179,447	0	0	0	0	2,979	182,426	0	182,426
事)通信運搬費	121,508	0	0	0	0	145,119	266,627	0	266,627
事)保証金償却	0	0	0	0	0	319,441	319,441	0	319,441
事)広告宣伝費	2,119,182	0	0	0	0	18,146	2,137,328	0	2,137,328
事)消耗品費	17,287	0	0	0	0	40,921	58,208	0	58,208
事)事務用品費	35,015	0	0	0	0	41,997	77,012	0	77,012
事)印刷製本費	953,531	0	0	0	0	154,612	1,108,143	0	1,108,143
事)書籍仕入	185,520	0	0	0	0	0	185,520	0	185,520
事)リース料	0	0	0	0	0	510,948	510,948	0	510,948
事)光熱水料費	0	0	0	0	0	152,471	152,471	0	152,471
事)支払地代家賃	0	0	0	0	0	1,525,662	1,525,662	0	1,525,662
事)保険料	15,100	0	0	0	0	32,252	47,352	0	47,352
事)諸謝金	1,142,000	0	0	0	0	46,341	1,188,341	0	1,188,341
事)租税公課	0	0	0	0	0	2,802	2,802	0	2,802
事)消費税	888,460	0	0	0	0	15,438	903,898	0	903,898

科 目	公益目的事業会計						法人会計	合 計	
	ユニバーサルな 地域社会	ユニバーサル 就労(集)	ユニバーサル 農業	社会的企業の主流化促進 とNPOとの協働	東日本大震災 復興活動支援	公益共通			小 計
事)支払負担金	120,000	0	0	0	0	0	120,000	0	120,000
事)支払助成金	33,539,450	0	0	0	0	0	33,539,450	0	33,539,450
事)委託費	14,746,163	0	0	0	0	179,806	14,925,969	0	14,925,969
事)支払手数料	57,805	0	0	0	0	18,628	76,433	0	76,433
事)雑費	269,560	0	0	0	0	624	270,184	0	270,184
事業費計	59,161,634	0	0	0	0	9,093,631	68,255,265	0	68,255,265
管理費									
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	231,266	231,266
通勤費	0	0	0	0	0	0	0	6,798	6,798
法定福利費	0	0	0	0	0	0	0	70,902	70,902
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	500	500
会議費	0	0	0	0	0	0	0	42	42
交際費	0	0	0	0	0	0	0	252	252
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	157	157
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	7,638	7,638
保証金償却	0	0	0	0	0	0	0	16,813	16,813
広告宣伝費	0	0	0	0	0	0	0	955	955
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	2,154	2,154
事務用品費	0	0	0	0	0	0	0	2,210	2,210
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	8,138	8,138
リース料	0	0	0	0	0	0	0	26,892	26,892
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	0	8,025	8,025
支払地代家賃	0	0	0	0	0	0	0	80,298	80,298
保険料	0	0	0	0	0	0	0	1,698	1,698
諸謝金	0	0	0	0	0	0	0	2,439	2,439
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	148	148
消費税	0	0	0	0	0	0	0	812	812
支払会費	0	0	0	0	0	0	0	112,000	112,000
委託費	0	0	0	0	0	0	0	9,464	9,464
支払報酬	0	0	0	0	0	0	0	396,000	396,000
支払手数料	0	0	0	0	0	0	0	980	980
雑費	0	0	0	0	0	0	0	33	33
管理費合計	0	0	0	0	0	0	0	986,614	986,614
経常費用計	59,161,634	0	0	0	0	9,093,631	68,255,265	986,614	69,241,879
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 3,367,524	0	0	0	0	△ 6,633,510	△ 10,001,034	1,717,560	△ 8,283,474
当期経常増減額	△ 3,367,524	0	0	0	0	△ 6,633,510	△ 10,001,034	1,717,560	△ 8,283,474
2.経常外増減の部									
(1)経常外収益									
経常外収益合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用									
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 3,367,524	0	0	0	0	△ 6,633,510	△ 10,001,034	1,717,560	△ 8,283,474
一般正味財産期首残高									14,084,908
一般正味財産期末残高									5,801,434
II 指定正味財産増減の部									
受取民間助成金	117,058,856	0	0	0	0	0	117,058,856	0	117,058,856
一般正味財産への振替額									
民間助成金振替額	△ 20,193,302	0	0	0	0	0	△ 20,193,302	0	△ 20,193,302
当期指定正味財産増減額	96,865,554	0	0	0	0	0	96,865,554	0	96,865,554
指定正味財産期首残高	27,706,902	0	0	0	0	0	27,706,902	0	27,706,902
指定正味財産期末残高	124,572,456	0	0	0	0	0	124,572,456	0	124,572,456
III 基金増減の部									
IV 正味財産期末残高									130,373,890

**財産目録**  
令和3年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>			
<b>現金預金</b>			
現金	現金手元有り高		5,354
普通預金			2,553,719
--三菱UFJ銀行	三菱UFJ銀行		633,969
--中央労働金庫	中央労働金庫		7,955
--三菱UFJ銀行東日本復興基金	三菱UFJ銀行		317,669
--三菱UFJ銀行0953707	三菱UFJ銀行		13
--三菱UFJ 1440825 首都圏若	三菱UFJ銀行		24,860,394
--中央労働金庫 184608 首都圏若	中央労働金庫		11,510,175
--中央労働金庫 207687 JANPIA	中央労働金庫		89,796,000
--特定資産振替	普通預金	助成金拠出者の定めた用途にあてるために保有している資金であり公益目的事業の事業費として管理されている預金を特定資産に振替	△ 124,572,456
郵便振替口座	ゆうちょ銀行		684,971
郵便振替00100-1-421027若者	ゆうちょ銀行		2,405,887
<b>他の流動資産</b>			
商品	書籍	決算整理 書籍期末棚卸高 私らしきノート@450×20冊 9,000円 システムガイドブック@141.75×2,293冊 325,033円	334,033
立替金			100,901
--COJ		家賃立替4月分 38,500円 電気代2月分 2,295円 印刷費立替1月分 2円 インターネット接続サービス代4月分他 330円 ラディックス側電話代1月分 1,718円 ステラ光サービス料金4月分 2,200円	45,045
--団体生命保険料(あいおい損保)			55,856
前払費用		4月分家賃/ミノルホールディングス(株) 165,080円 令和3年度(社)共同総合研究所 30,000円 令和3年度Web給与年間使用料 11,000円	206,080
<b>流動資産合計</b>			6,290,945
<b>(固定資産)</b>			
<b>特定資産</b>			
預金マインクラフトカップ	普通預金	助成金拠出者の定めた用途にあてるために保有している資金であり公益目的事業の事業費として管理されている預金	7,513,600
預金市民JANPIA	中央労働金庫 207687 JANPIA	助成金拠出者の定めた用途にあてるために保有している資金であり公益目的事業の事業費として管理されている預金	89,796,000
預金日本ライフライン	--三菱UFJ 1440825 首都圏若	助成金拠出者の定めた用途にあてるために保有している資金であり公益目的事業の事業費として管理されている預金	20,000,000
預金若者おうえん基金匿名寄付	--三菱UFJ 1440825 首都圏若	助成金拠出者の定めた用途にあてるために保有している資金であり公益目的事業の事業費として管理されている預金	6,000,000
預金若者おうえん基金小口寄付	--三菱UFJ 1440825 首都圏若	助成金拠出者の定めた用途にあてるために保有している資金であり公益目的事業の事業費として管理されている預金	362,856
預金パルシステム	--三菱UFJ 1440825 首都圏若	助成金拠出者の定めた用途にあてるために保有している資金であり公益目的事業の事業費として管理されている預金	900,000
<b>その他固定資産</b>			
保証金			263,746
預託金			10,000
--(一社)協同総合研究所			10,000
<b>固定資産合計</b>			124,846,202
<b>資産合計</b>			131,137,147
<b>(流動負債)</b>			
未払金			555,343
--NPO支援東京会議(会計日誌)			107,640
--社会保険料			109,272
--マインクラフトカップ動画編集費用			187,000
--マインクラフトカップ広告宣伝費			71,500
--その他		-コピー機リース料 44,820円 -税理士顧問料 29,927円他	79,931
預り金			184,212
--源泉所得税			69,240
--社会保険料			132,272
--住民税			△ 17,300
仮受金			23,702
<b>流動負債合計</b>			763,257
<b>(固定負債)</b>			
<b>固定負債合計</b>			0
<b>負債合計</b>			763,257
<b>正味財産合計</b>			130,373,890

# 監査報告書

公益社団法人 ユニバーサル志縁センター

代表理事 池田 徹 殿

代表理事 白川 祐臣 殿

令和3年5月7日

監事 山根真知子

監事 野島昭子

私たち監事は、当法人の令和2年4月1日から令和3年3月31日までの令和2年度の理事の職務の執行について監査を行いましたので、定款第49条に基づき監査報告書を作成し、報告します。

## 1、監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事及び使用人等からその職務の執行について報告を受け、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、令和元年度の貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書及び財産目録（以下、「財務諸表等」という。）について監査しました。

## 2、監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

①事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

②理事の職務の執行に関する不正の行為または法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

### (2) 財務諸表等の監査結果

財務諸表等は、当法人の財産及び損益の状況について適正に示していると認めます。

**貸借対照表**  
2022年3月31日現在

**公益社団法人ユニバーサル志縁センター**

(円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1.流動資産			
現金預金			
現金	96,461	5,354	91,107
普通預金	16,006,932	2,553,719	13,453,213
郵便振替口座	367,425	684,971	△ 317,546
郵便振替口座 00100-1-421027若者	585,911	2,405,887	△ 1,819,976
現金預金合計	17,056,729	5,649,931	11,406,798
他の流動資産			
未収金	2,061,542	0	2,061,542
商品	334,033	334,033	0
立替金	100,937	100,901	36
前払費用	257,180	206,080	51,100
仮払金	17,300		17,300
他の流動資産合計	2,770,992	641,014	2,129,978
流動資産合計	19,827,721	6,290,945	13,536,776
2.固定資産			
特定資産			
預金(マイクラフトカップ)		7,513,600	△ 7,513,600
預金(JANPIA)	104,580,650	89,796,000	14,784,650
預金(日本ライフライン)		20,000,000	△ 20,000,000
預金(若者おうえん基金匿名寄付)		6,000,000	△ 6,000,000
預金(若者おうえん基金小口寄付)	1,104,986	362,856	742,130
預金(パルスシステム)		900,000	△ 900,000
特定資産合計	105,685,636	124,572,456	△ 18,886,820
その他固定資産			
保証金	263,746	263,746	0
預託金	10,000	10,000	0
その他固定資産合計	273,746	273,746	0
固定資産合計	105,959,382	124,846,202	△ 18,886,820
資産合計	125,787,103	131,137,147	△ 5,350,044
II 負債の部			

**貸借対照表**  
2022年3月31日現在

公益社団法人ユニバーサル志縁センター

(円)

科 目	当年度	前年度	増減
1.流動負債			
未払金	7,091,532	555,343	6,536,189
預り金	286,983	184,212	102,771
仮受金		23,702	△ 23,702
流動負債合計	7,378,515	763,257	6,615,258
2.固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	7,378,515	763,257	6,615,258
Ⅲ正味財産の部			
【指定正味財産】			
民間助成金	105,685,636	124,572,456	△ 18,886,820
指定正味財産合計	105,685,636	124,572,456	△ 18,886,820
（うち特定資産への充当額）	105,685,636	124,572,456	△ 18,886,820
【一般正味財産】			
一般正味財産合計	12,722,952	5,801,434	6,921,518
（うち特定資産への充当額）	0	0	0
正味財産合計	118,408,588	130,373,890	△ 11,965,302
負債正味財産合計	125,787,103	131,137,147	△ 5,350,044

**比較正味財産増減計算書**  
 当期:2021年度 2021/04/01~2022/03/31  
 公益社団法人 ユニバーサル志縁センター

(円)

科 目	当 期	前 期	増 減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1.経常増減の部</b>			
<b>(1)経常収益</b>			
特定資産受取利息	286	121	165
<b>受取入会金</b>			
受取入会金合計	0	0	0
<b>受取会費</b>			
正会員受取会費	750,000	720,000	30,000
賛助会員受取会費	4,200,000	4,200,000	0
受取会費合計	4,950,000	4,920,000	30,000
<b>事業収益</b>			
書籍等販売収益	271,800	215,500	56,300
イベント等企画事業収益	93,000	44,895	48,105
事業収益合計	364,800	260,395	104,405
<b>受取補助金等</b>			
受取国庫補助金	7,154,419	0	7,154,419
受託収益	1,468,170	0	1,468,170
受取民間助成金	1,190,000	2,348,973	△1,158,973
受取補助金等振替額	123,269,656	20,193,302	103,076,354
受取補助金等合計	133,082,245	22,542,275	110,539,970
<b>受取負担金</b>			
受取負担金合計	0	0	0
<b>受取寄付金</b>			
受取寄付金	47,958,023	32,288,260	15,669,763
受取寄付金合計	47,958,023	32,288,260	15,669,763
<b>雑収益</b>			
受取利息	23	141	△118
雑収益	32,807	947,213	△914,406
雑収益合計	32,830	947,354	△914,524
<b>経常収益合計</b>	<b>186,388,184</b>	<b>60,958,405</b>	<b>125,429,779</b>
<b>(2)経常費用</b>			
<b>事業費</b>			
給料手当	14,200,933	9,094,059	5,106,874
通勤費	131,562	130,338	1,224
臨時雇賃金	7,200	0	7,200
法定福利費	2,078,923	1,347,135	731,788
福利厚生費	0	9,500	△9,500
会議費	345,557	5,287	340,270
会場費	523,710	12,100	511,610
交際費	0	58,631	△58,631
旅費交通費	1,803,987	182,426	1,621,561
通信運搬費	911,339	266,627	644,712
保証金償却	0	319,441	△319,441
消耗什器備品費	327,088	0	327,088
広告宣伝費	2,600,707	2,137,328	463,379
消耗品費	331,256	58,208	273,048
事務用品費	19,441	77,012	△57,571
新聞図書費	44,880	0	44,880
印刷製本費	213,639	1,108,143	△894,504
書籍仕入	179,340	185,520	△6,180
リース料	509,934	510,948	△1,014
光熱水料費	156,607	152,471	4,136
支払地代家賃	2,032,615	1,525,662	506,953
保険料	72,052	47,352	24,700
諸謝金	1,758,000	1,188,341	569,659
報酬	100,000	0	100,000
租税公課	12,777	2,802	9,975
消費税	1,063,985	903,898	160,087
<b>支払負担金</b>	180,000	120,000	60,000

正味財産増減計算書(前期比較)

**比較正味財産増減計算書**  
 当期:2021年度 2021/04/01~2022/03/31  
 公益社団法人 ユニバーサル志縁センター

(円)

科 目	当 期	前 期	増 減
支払会費	201,400	0	201,400
支払助成金	127,259,689	33,539,450	93,720,239
委託費	21,408,383	14,925,969	6,482,414
支払手数料	100,631	76,433	24,198
雑費	654	270,184	△269,530
<b>事業費計</b>	<b>178,576,289</b>	<b>68,255,265</b>	<b>110,321,024</b>
<b>管理費</b>			
給料手当	242,222	231,266	10,956
通勤費	4,398	6,798	△2,400
法定福利費	41,713	70,902	△29,189
福利厚生費	0	500	△500
会議費	921	42	879
交際費	0	252	△252
旅費交通費	2,718	157	2,561
通信運搬費	12,502	7,638	4,864
保証金償却	0	16,813	△16,813
消耗什器備品費	2,210	0	2,210
広告宣伝費	1,553	955	598
消耗品費	1,295	2,154	△859
事務用品費	112	2,210	△2,098
印刷製本費	7,678	8,138	△460
リース料	20,626	26,892	△6,266
光熱水料費	8,243	8,025	218
支払地代家賃	81,085	80,298	787
保険料	2,998	1,698	1,300
諸謝金	0	2,439	△2,439
租税公課	673	148	525
消費税	0	812	△812
支払会費	10,600	112,000	△101,400
委託費	1,650	9,464	△7,814
支払報酬	446,000	396,000	50,000
支払手数料	1,174	980	194
雑費	6	33	△27
<b>管理費合計</b>	<b>890,377</b>	<b>986,614</b>	<b>△96,237</b>
<b>経常費用計</b>	<b>179,466,666</b>	<b>69,241,879</b>	<b>110,224,787</b>
<b>評価損益等調整前当期経常増減額</b>	<b>6,921,518</b>	<b>△ 8,283,474</b>	<b>15,204,992</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>6,921,518</b>	<b>△ 8,283,474</b>	<b>15,204,992</b>
<b>2.経常外増減の部</b>			
(1)経常外収益			
経常外収益合計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
<b>当期経常外増減額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>他会計振替前</b>			
当期一般正味財産増減額	6,921,518	△ 8,283,474	15,204,992
<b>他会計振替額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>当期一般正味財産増減額</b>	<b>6,921,518</b>	<b>△ 8,283,474</b>	<b>15,204,992</b>
一般正味財産期首残高	5,801,434	14,084,908	△8,283,474
一般正味財産期末残高	12,722,952	5,801,434	6,921,518
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
受取民間助成金	107,966,850	117,058,856	△9,092,006
<b>一般正味財産への振替額</b>			
民間助成金振替額	126,853,670	20,193,302	106,660,368
<b>当期指定正味財産増減額</b>	<b>△ 18,886,820</b>	<b>96,865,554</b>	<b>△ 115,752,374</b>
指定正味財産期首残高	124,572,456	27,706,902	96,865,554
指定正味財産期末残高	105,685,636	124,572,456	△ 18,886,820
<b>III 基金増減の部</b>			
<b>IV 正味財産期末残高</b>	<b>118,408,588</b>	<b>130,373,890</b>	<b>△11,965,302</b>

## 2021年度 正味財産増減計算書 内訳表

2021/04/01～2022/03/31

公益社団法人 ユニバーサル志縁センター

(円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	合計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1.経常増減の部</b>			
<b>(1)経常収益</b>			
特定資産受取利息	286	0	286
<b>受取入会金</b>			
受取入会金合計	0	0	0
<b>受取会費</b>			
正会員受取会費	0	750,000	750,000
賛助会員受取会費	0	4,200,000	4,200,000
受取会費合計	0	4,950,000	4,950,000
<b>事業収益</b>			
書籍等販売収益	271,800	0	271,800
イベント等企画事業収益	93,000	0	93,000
事業収益合計	364,800	0	364,800
<b>受取補助金等</b>			
受取国庫補助金	7,154,419	0	7,154,419
受託収益	1,468,170	0	1,468,170
受取民間助成金	1,190,000	0	1,190,000
受取補助金等振替額	123,269,656	0	123,269,656
受取補助金等合計	133,082,245	0	133,082,245
<b>受取負担金</b>			
受取負担金合計	0	0	0
<b>受取寄付金</b>			
受取寄付金	46,975,844	982,179	47,958,023
受取寄付金合計	46,975,844	982,179	47,958,023
<b>雑収益</b>			
受取利息	0	23	23
雑収益	9,060	23,747	32,807
雑収益合計	9,060	23,770	32,830
<b>経常収益合計</b>	<b>180,432,235</b>	<b>5,955,949</b>	<b>186,388,184</b>
<b>(2)経常費用</b>			
<b>事業費</b>			
給料手当	14,200,933	0	14,200,933
通勤費	131,562	0	131,562
臨時雇賃金	7,200	0	7,200
法定福利費	2,078,923	0	2,078,923
会議費	345,557	0	345,557
会場費	523,710	0	523,710
旅費交通費	1,803,987	0	1,803,987
通信運搬費	911,339	0	911,339
消耗什器備品費	327,088	0	327,088
広告宣伝費	2,600,707	0	2,600,707
消耗品費	331,256	0	331,256
事務用品費	19,441	0	19,441
新聞図書費	44,880	0	44,880
印刷製本費	213,639	0	213,639
書籍仕入	179,340	0	179,340
リース料	509,934	0	509,934
光熱水料費	156,607	0	156,607
支払地代家賃	2,032,615	0	2,032,615
保険料	72,052	0	72,052
諸謝金	1,758,000	0	1,758,000
報酬	100,000	0	100,000
租税公課	12,777	0	12,777

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計
消費税	1,063,985	0	1,063,985
支払負担金	180,000	0	180,000
支払会費	201,400	0	201,400
支払助成金	127,259,689	0	127,259,689
委託費	21,408,383	0	21,408,383
支払手数料	100,631	0	100,631
雑費	654	0	654
事業費計	178,576,289	0	178,576,289
<b>管理費</b>			
給料手当	0	242,222	242,222
通勤費	0	4,398	4,398
法定福利費	0	41,713	41,713
会議費	0	921	921
旅費交通費	0	2,718	2,718
通信運搬費	0	12,502	12,502
消耗什器備品費	0	2,210	2,210
広告宣伝費	0	1,553	1,553
消耗品費	0	1,295	1,295
事務用品費	0	112	112
印刷製本費	0	7,678	7,678
リース料	0	20,626	20,626
光熱水料費	0	8,243	8,243
支払地代家賃	0	81,085	81,085
保険料	0	2,998	2,998
租税公課	0	673	673
支払会費	0	10,600	10,600
委託費	0	1,650	1,650
支払報酬	0	446,000	446,000
支払手数料	0	1,174	1,174
雑費	0	6	6
管理費合計	0	890,377	890,377
経常費用計	178,576,289	890,377	179,466,666
評価損益等調整前当期経常増減額	1,855,946	5,065,572	6,921,518
当期経常増減額	1,855,946	5,065,572	6,921,518
<b>2.経常外増減の部</b>			
(1)経常外収益			
経常外収益合計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替前			
当期一般正味財産増減額	1,855,946	5,065,572	6,921,518
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,855,946	5,065,572	6,921,518
一般正味財産期首残高			5,801,434
一般正味財産期末残高			12,722,952
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
受取民間助成金	107,966,850	0	107,966,850
一般正味財産への振替額			
民間助成金振替額	126,853,670	0	126,853,670
当期指定正味財産増減額	△ 18,886,820	0	△ 18,886,820
指定正味財産期首残高	124,572,456	0	124,572,456
指定正味財産期末残高	105,685,636	0	105,685,636
<b>III 基金増減の部</b>			
<b>IV 正味財産期末残高</b>			118,408,588

2021年度 正味財産増減計算書 内訳表

2021/04/01～2022/03/31

公益社団法人 ユニバーサル志縁センター

(円)

科 目	公益目的事業会計								法人会計	合 計
	ユニバーサルな 地域社会	子ども・若者の 自立支援事業	休眠預金活用助成 事業	ユニバーサル 就労	社会的経済セク ターの協働事業	東日本大震災 復興活動支援	公益共通	小 計		
I 一般正味財産増減の部										
1 経常増減の部										
(1) 経常収益										
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	286	286	0	286
受取入金										
受取入金合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取会費										
正会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	750,000	750,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	4,200,000	4,200,000
受取会費合計	0	0	0	0	0	0	0	0	4,950,000	4,950,000
事業収益										
書籍等販売収益	0	0	0	0	271,800	0	0	271,800	0	271,800
イベント等企画事業収益	0	43,000	0	0	50,000	0	0	93,000	0	93,000
事業収益合計	0	43,000	0	0	321,800	0	0	364,800	0	364,800
受取補助金等										
受取国庫補助金	0	0	0	7,154,419	0	0	0	7,154,419	0	7,154,419
受託収益	0	1,468,170	0	0	0	0	0	1,468,170	0	1,468,170
受取民間助成金	0	1,190,000	0	0	0	0	0	1,190,000	0	1,190,000
受取補助金等振替額	7,513,600	25,328,070	90,427,986	0	0	0	0	123,269,656	0	123,269,656
受取補助金等合計	7,513,600	27,986,240	90,427,986	7,154,419	0	0	0	133,082,245	0	133,082,245
受取負担金										
受取負担金合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金										
受取寄付金	13,917,000	33,058,844	0	0	0	0	0	46,975,844	982,179	47,958,023
受取寄付金合計	13,917,000	33,058,844	0	0	0	0	0	46,975,844	982,179	47,958,023
雑収益										
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	23	23
雑収益	0	9,060	0	0	0	0	0	9,060	23,747	32,807
雑収益合計	0	9,060	0	0	0	0	0	9,060	23,770	32,830
経常収益合計	21,430,600	61,097,144	90,427,986	7,154,419	321,800	0	286	180,432,235	5,955,949	186,388,184
(2) 経常費用										
事業費										
給料手当	0	13,200	9,483,600	101,925	0	0	4,602,208	14,200,933	0	14,200,933
通勤費	0	0	48,000	0	0	0	83,562	131,562	0	131,562
臨時雇賃金	0	7,200	0	0	0	0	0	7,200	0	7,200
法定福利費	0	0	1,286,400	0	0	0	792,523	2,078,923	0	2,078,923
会議費	302,979	4,640	17,613	2,834	0	0	17,491	345,557	0	345,557
会場費	161,700	44,000	69,960	248,050	0	0	0	523,710	0	523,710
旅費交通費	429,917	12,112	253,237	1,057,079	0	0	51,642	1,803,987	0	1,803,987
通信運搬費	391,825	1,560	33,280	247,153	0	0	237,521	911,339	0	911,339
消耗什器備品費	0	96,492	155,000	33,606	0	0	41,990	327,088	0	327,088
広告宣伝費	2,208,213	363,000	0	0	0	0	29,494	2,600,707	0	2,600,707
消耗品費	177,550	60,000	3,500	65,616	0	0	24,590	331,256	0	331,256
事務用品費	0	0	3,220	14,110	0	0	2,111	19,441	0	19,441
新聞図書費	0	0	44,880	0	0	0	0	44,880	0	44,880
印刷製本費	1,600	0	2,650	63,510	0	0	145,879	213,639	0	213,639
書籍仕入	0	0	0	0	179,340	0	0	179,340	0	179,340
リース料	0	0	118,041	0	0	0	391,893	509,934	0	509,934
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	156,607	156,607	0	156,607
支払地家賃	0	0	492,000	0	0	0	1,540,615	2,032,615	0	2,032,615
保険料	0	15,100	0	0	0	0	56,952	72,052	0	72,052
諸謝金	705,000	418,000	555,000	80,000	0	0	0	1,758,000	0	1,758,000
報酬	100,000	0	0	0	0	0	0	100,000	0	100,000

科 目	公益目的事業会計							法人会計	合 計	
	ユニバーサルな 地域社会	子ども・若者の 自立支援事業	休眠預金活用助成 事業	ユニバーサル 就労	社会的経済セク ターの協働事業	東日本大震災 復興活動支援	公益共通			小 計
租税公課	0	0	0	0	0	0	12,777	12,777	0	12,777
消費税	996,735	45,000	0	22,250	0	0	0	1,063,985	0	1,063,985
支払負担金	0	180,000	0	0	0	0	0	180,000	0	180,000
支払会費	0	0	0	0	0	0	201,400	201,400	0	201,400
支払助成金	0	50,467,320	76,792,369	0	0	0	0	127,259,689	0	127,259,689
委託費	16,641,973	2,255,900	823,080	1,656,080	0	0	31,350	21,408,383	0	21,408,383
支払手数料	15,491	34,599	19,998	8,239	0	0	22,304	100,631	0	100,631
雑費	0	0	550	0	0	0	104	654	0	654
事業費計	22,132,983	54,018,123	90,202,378	3,600,452	179,340	0	8,443,013	178,576,289	0	178,576,289
管理費										
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	242,222	242,222
通勤費	0	0	0	0	0	0	0	0	4,398	4,398
法定福利費	0	0	0	0	0	0	0	0	41,713	41,713
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	921	921
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0	2,718	2,718
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0	12,502	12,502
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	0	0	0	2,210	2,210
広告宣伝費	0	0	0	0	0	0	0	0	1,553	1,553
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0	1,295	1,295
事務用品費	0	0	0	0	0	0	0	0	112	112
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0	7,678	7,678
リース料	0	0	0	0	0	0	0	0	20,626	20,626
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	0	0	8,243	8,243
支払地代家賃	0	0	0	0	0	0	0	0	81,085	81,085
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0	2,998	2,998
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	673	673
支払会費	0	0	0	0	0	0	0	0	10,600	10,600
委託費	0	0	0	0	0	0	0	0	1,650	1,650
支払報酬	0	0	0	0	0	0	0	0	446,000	446,000
支払手数料	0	0	0	0	0	0	0	0	1,174	1,174
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
管理費合計	0	0	0	0	0	0	0	0	890,377	890,377
経常費用計	22,132,983	54,018,123	90,202,378	3,600,452	179,340	0	8,443,013	178,576,289	890,377	179,466,666
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 702,383	7,079,021	225,608	3,553,967	142,460	0	△ 8,442,727	1,855,946	5,065,572	6,921,518
当期経常増減額	△ 702,383	7,079,021	225,608	3,553,967	142,460	0	△ 8,442,727	1,855,946	5,065,572	6,921,518
2.経常外増減の部										
(1)経常外収益										
経常外収益合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用										
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前 当期一般正味財産増減額	△ 702,383	7,079,021	225,608	3,553,967	142,460	0	△ 8,442,727	1,855,946	5,065,572	6,921,518
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 702,383	7,079,021	225,608	3,553,967	142,460	0	△ 8,442,727	1,855,946	5,065,572	6,921,518
一般正味財産期首残高										5,801,434
一般正味財産期末残高										12,722,952
II 指定正味財産増減の部										
受取民間助成金			107,966,850	0	0	0	0	107,966,850	0	107,966,850
一般正味財産への振替額										
民間助成金振替額	7,513,600	26,157,870	93,182,200	0	0	0	0	126,853,670	0	126,853,670
当期指定正味財産増減額	△ 7,513,600	△ 26,157,870	14,784,650	0	0	0	0	△ 18,886,820	0	△ 18,886,820
指定正味財産期首残高	7,513,600	27,262,856	89,796,000	0	0	0	0	124,572,456	0	124,572,456
指定正味財産期末残高	0	1,104,986	104,580,650	0	0	0	0	105,685,636	0	105,685,636
III 基金増減の部										
IV 正味財産期末残高										118,408,588

財 産 目 録  
令和4年3月31日現在  
公益社団法人 ユニバーサル志縁センター

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>			
<b>現金預金</b>			
現金	現金手元有り高		96,461
普通預金			16,006,932
--三菱UFJ銀行	三菱UFJ銀行		1,777,018
--中央労働金庫	中央労働金庫		11,248,690
--三菱UFJ銀行東日本復興基金	三菱UFJ銀行		317,671
--三菱UFJ銀行0953707	三菱UFJ銀行		11,346
--三菱UFJ 1440825 首都圏若	三菱UFJ銀行		37,165
--中央労働金庫 184608 首都圏若	中央労働金庫		1,019,888
--中央労働金庫 207687 JANPIA	中央労働金庫		1,135,962
--GMOあおぞらネット銀行1243467			188,755
--GMOあおぞらネット銀行1243478			712,453
--GMOあおぞらネット銀行1312672			104,580,650
--GMOあおぞらネット銀行1328366			662,970
--特定資産振替	普通預金	助成金拠出者の定めた用途にあてるために保有している資金であり公益目的事業の事業費として管理されている預金を特定資産に振替	△ 105,685,636
郵便振替口座	ゆうちょ銀行		367,425
郵便振替00100-1-421027若者	ゆうちょ銀行		585,911
<b>他の流動資産</b>			
未収金		実行団体からの返還予定額	2,061,542
商品	書籍	決算整理 書籍期末棚卸高 私らしきノート@450×20冊 9,000円 システムガイドブック@141.75×2,293冊 325,033円	334,033
立替金			100,937
--COJ		家賃立替4月分 38,500円 電気代2月分 2,295円 印刷費立替1月分 38円 インターネット接続サービス代4月分 330円 ラディックス(株)電話代1月分 1,718円 ステラ光サービス料金4月分 2,200円	45,081
--団体生命保険料(あいおい損保)			55,856
前払費用		4月分家賃/ミノルホールディングス(株) 165,080円 令和4年度霞が関ナレッジスクエア会費 66,000円 団体総合生活保障保険 15,100円 令和4年度Web給与年間使用料 11,000円	257,180
仮払金	その他		17,300
<b>流動資産合計</b>			<b>19,827,721</b>
<b>(固定資産)</b>			
<b>特定資産</b>			
預金市民JANPIA	GMOあおぞらネット銀行1312672	助成金拠出者の定めた用途にあてるために保有している資金であり公益目的事業の事業費として管理されている預金	104,580,650
預金若者おうえん基金小口寄付	三菱UFJ 1440825 首都圏若 中央労働金庫 184608 首都圏若 郵便振替00100-1-421027若者	助成金拠出者の定めた用途にあてるために保有している資金であり公益目的事業の事業費として管理されている預金	1,104,986
<b>その他固定資産</b>			
保証金			263,746
預託金			10,000
--(一社)協同総合研究所			10,000
<b>固定資産合計</b>			<b>105,959,382</b>
<b>資産合計</b>			<b>125,787,103</b>

財 産 目 録  
 令和 4 年 3 月 31 日 現在  
 公益社団法人 ユニバーサル志縁センター

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)			
未払金			7,091,532
--NPO支援東京会議(会計日誌)			136,740
--社会保険料			163,321
--JANPIA返還予定金額			2,754,214
--バルシステム返還予定金額			829,800
--厚生労働省返還予定金額			2,286,581
--JANPIA委託費			443,080
--マイクラフトカップ委託費			218,625
--マイクラフトカップ消耗品費等			179,060
--その他		-コピー機リース料 43,780円 -税理士顧問料 29,927円 -通信費 6,394円	80,111
預り金			286,983
--源泉所得税			127,622
--社会保険料			159,361
流動負債合計			7,378,515
(固定負債)			
固定負債合計			0
負債合計			7,378,515
正味財産合計			118,408,588

# 監査報告書

公益社団法人 ユニバーサル志縁センター

代表理事 池田 徹 殿

代表理事 白川 祐臣 殿

令和4年5月10日

監事 山根真知子

監事 田中正雄

私たち監事は、当法人の令和3年4月1日から令和4年3月31日までの令和3年度の理事の職務の執行について監査を行いましたので、定款第49条に基づき監査報告書を作成し、報告します。

## 1、監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事及び使用人等からその職務の執行について報告を受け、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、令和3年度の貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書及び財産目録（以下、「財務諸表等」という。）について監査しました。

## 2、監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ①事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②理事の職務の執行に関する不正の行為または法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

### (2) 財務諸表等の監査結果

財務諸表等は、当法人の財産及び損益の状況について適正に示していると認めます。